

平成24年度

教養教育運営機構 履修の手引き

佐賀大学 教養教育運営機構



教養教育運営機構「履修の手引き」

目 次

履修登録上の留意点

佐賀大学学士力	1
佐賀大学における教育課程	2
卒業に必要な教養教育科目の単位表	8
履修方法及び履修上の注意事項	9

共通専門教育科目について	16
--------------	----

教養教育運営機構開講科目の概要

(1) 主題科目

一分野別主題科目	18
第1分野 文化と芸術	
第2分野 思想と歴史	
第3分野 現代社会の構造	
第4分野 人間環境と健康	
第5分野 数理と自然	
第6分野 科学技術と生産	

一共通主題科目	24
第1分野 地域と文明	

(2) 共通基礎教育科目

一外国語科目	26
英語	
ドイツ語	
フランス語	
中国語	
朝鮮語	
日本語	

一健康・スポーツ科目	30
------------	----

一情報処理科目	31
---------	----

(3) 共通専門教育科目の概要

デジタル表現技術教育科目	
障がい者就労支援コーディネーター教育プログラム	
環境キャリア教育プログラム	

オンラインシラバス（授業概要）参照方法	35
---------------------	----

開講科目一覧	37
--------	----

教養教育運営機構関係規則	59
--------------	----

教養教育運営機構配置図	83
-------------	----

履修登録上の留意点

授業科目を履修し、単位を取得するためには、毎年、前・後学期それぞれに「履修登録」が必要です。この手続きは、各自が学内の所定のパソコンから、教務システム＝Live Campus（※1）を用いて行います。

履修登録をしていない授業科目は、試験を受けても原則として単位が認定されず、無効となります。このことは、学生の自己責任ですので、日頃から掲示（※2）に注意し各学期の履修登録期間を見落とさないようにしてください。例年、履修登録をしなかったり、その確認を怠ったために、登録もれに気づかないで受講している学生がいます。各自の履修登録状況は、Live Campus の個人時間割で確認できますので、履修登録後、曜日・校時・教員名等について必ず確認してください。

なお、履修関係の他、試験・成績等の大学からの重要な連絡は、原則として掲示により行います。「大学に行ったら、まず掲示板を見る」ように習慣付けてください。

主題科目

主題科目については、1年次後学期に分野別主題科目の中の一つの分野を選んで登録（医学部の学生及び3年次に転入学、編入学又は再入学した者を除く）し、その分野から8単位以上をとることになっています。これを「分野登録」と言います。（「分野登録」は、各学期の授業を受講する際に行う「履修登録」とは異なります。）なお、「分野登録」以前に修得した当該分野の単位も登録分野の8単位に含めることができます。

主題科目は、原則として全学部、学科・課程の学生を対象に開講されますが、授業科目によっては、講義内容や教育効果を考慮し、学部等の受講制限や受講できる人数を制限する場合があります。

また、特定の授業科目に受講希望が集中した場合は、講義室の収容人員の範囲内で抽選処理をして受講できる学生を決定します。（※3）抽選の結果は、各自 Live Campus で確認してください。

抽選に当選した科目は、受講する権利があるという意味ですが、権利を行使するかどうかは学生自身が決めることです。抽選結果の発表後、主題科目の削除及び欠員がある科目の追加登録期間を設けていますので、当該期間に手続きを行うことで変更することができます。

健康・スポーツ科目

第1回目の授業のとき、本庄キャンパスの体育館に集合してください。

その際にクラス分けを行い担当教員と種目が決定されますので、決定に基づき各自が Live Campus で履修登録を行ってください。登録時には種目と教員名等を確認し、誤りのないようにしてください。

※1：Live Campus の使用方法は、入学後第1回目の情報処理科目の授業で説明されます。

なお、Live Campus では、履修登録のほか、個人時間割（各自の履修登録状況）、成績状況（単位修得状況）、シラバス（講義概要）、授業連絡などが参照できます。但し、必要な情報が全てLive Campus から得られる訳ではありませんので、前述のとおり、日頃から掲示板も見るよう心がけてください。

※2：本庄キャンパス学生センター前に教務関係掲示板が、鍋島キャンパスには医学部学務掲示板があります。

※3：主題科目の履修登録は、抽選処理を行うため次のとおり行います。他の科目の履修登録手続きと異なっていますので、注意してください。

① 1年次前学期：「主題科目受講希望申請書」を窓口提出する。

抽選結果の発表後、削除、追加を行う場合は、他の科目と同様に各自が学内の所定のパソコンから、Live Campus を用いて行います。

② 1年次後学期以降：各自がLive Campus で抽選履修登録を行う。

抽選結果の発表後の削除、追加は他の科目と同様の手続きとなります。

○ ここで言う窓口とは、本庄キャンパス学生センター内の教養教育教務担当窓口、鍋島キャンパス医学部学生サービス課の窓口を指します。

一般に、文化教育・経済・理工・農学部の学生は本庄キャンパス学生センター、医学部学生は鍋島キャンパス医学部学生サービス課窓口で所定の手続きを行います。

但し、窓口の混雑が予想される場合には受付場所を変更することがありますので、手続き期間とともに、受付場所等も掲示板で確認してください。

「佐賀大学学士力」について

「佐賀大学学士力」とは、佐賀大学の学士課程で学習する学生が、卒業までに身につける能力を定めたものです。佐賀大学では、学士力に示した能力を学生に身につけさせることを目指し、教育を行っています。

佐賀大学 学士力

佐賀大学では、基礎的及び専門的な知識と技能に基づいて課題を発見し解決する能力を培い、個人として生涯にわたって成長し、社会の持続的発表を支える人材を養成する。そのために、佐賀大学の学士力を次のとおり位置づける。

1. 基礎的な知識と技能

(1) 文化と自然

世界を認識するための幅広い知識を有機的に関連づけて修得し、文化（芸術及びスポーツを含む）的素養を身につけている。

(2) 現代社会と生活

健全な社会や健康な生活に関する種々の知識を修得し、生活の質の向上に役立てることができる。

(3) 言語・情報・科学リテラシー

① 日本語による文書と会話で他者の意思を的確に理解できるとともに、自らの意思を表現し他者の理解を得ることができる。英語を用いて、専門分野の知識を修得でき、自己の考えを発信できる。初修外国語を用いて、簡単な会話ができ平易な文章を読み書きできる。

② 情報を収集し、その適正を判断でき、適切に活用・管理できる。

③ 科学的素養を有し、合理的及び理論的な判断ができる。

(4) 専門分野の基礎的な知識と技法

専門分野において、基本概念や原理を理解して説明でき、一般的に用いられている重要な技法に習熟している。

2. 課題発見・解決能力

(1) 現代的課題を見出し、解決の方法を探る能力

現代社会における諸課題を多面的に考察し、その解決に役立つ情報を収集し分析できる。

(2) プロフェッショナルとして課題を発見し解決する能力

専門分野の課題を発見し、その解決に向けて専門分野の基礎的な知識と技法を応用することができる。

(3) 課題解決につながる協調性と指導力

課題解決のために、他者と協調・協働して行動でき、また、他者に方向性を示すことができる。

3. 個人と社会の持続的発展を支える力

(1) 多様な文化と価値観を理解し共生に向かう力

文化や伝統などの違いを踏まえて、平和な社会の実現のために他者の立場で物事を考えることができる。また、自然環境や社会的弱者に配慮することができる。

(2) 持続的な学習力と社会への参画力

様々な問題に積極的に関心を持ち、自主的・自律的に学習を続けることができる。自己の生き方を考察し、主体的に社会的役割を選択・決定し、生涯にわたり自己を活かす意欲がある。

(3) 高い倫理観と社会的責任感

高い倫理観を身につけ社会生活で守るべき規範を遵守し、自己の能力を社会の健全な発展に寄与する姿勢を身に付けている。

備考

1. 各項目の実施組織および実施方法は、別に定める。

2. 各項目に対応する授業科目の数・単位数は、学部が定めるところによる。

1 佐賀大学における教育課程

佐賀大学の目的は、次のように定められています。

「佐賀大学は、教育基本法に則り、国際的視野を有し、豊かな教養と深い専門知識を生かして社会で自立できる個人を育成するとともに、高度の学術的研究を行い、さらに、地域の知的拠点として、地域及び諸外国との文化、健康、社会、科学技術に関する連携交流を通して学術的、文化的貢献を果たすことにより、地域社会及び国際社会の発展に寄与する。」（佐賀大学学則第2条）

さらに、教養教育の目的は、次のように考えられています。

「①民主社会の市民としての幅広く深い教養及び創造的な知性と総合的な判断力を培い、豊かな人間性を涵養するための教育、②地域社会、国際社会に開かれた大学として、異文化や多様な価値観を理解し、人や自然との共生を推し進めるための教育、③課題探求能力と情報の分析・発進能力をもった国際的人材を育成するための教育」

これを学生諸君の側からみれば、大学の修学期間は、民主的な社会にあって幅広い創造的な知性、豊かな人間性と深い専門的知識をもった国際感覚のある市民となるための大事な基礎をつくる時期ということになります。ボーダーレスといわれる現代社会にあっては、小学校の時から大学までの直線的な教育期間だけが学ぶ時期ではありません。生涯学習といわれるように、学ぶということは、大学卒業後においても、人生の大事な事業の一部であり続けます。大学の修学期間は、生涯学習の一つの基礎づくりの期間とも言えるのです。

学部、学科・課程、選修毎に選抜を行う本学の入学試験制度のもとでは、学生諸君は、自分の選んだ分野の専門的知識を身につけて社会にその位置を定めたいと考えていると思います。その意味で、学生諸君は、自己の所属する分野の専門科目を学ぶ内的動機を持っています。しかし、狭い専門的知識だけでは、境界を変容させつつ発展する現代社会では、十分な対応が難しいと思われれます。例えば、現代科学技術が持つプラスの面とマイナスの面の両面を見極めて対処するには、幅広い視野が要求されます。民主的な社会の優れた市民であるためには、経済や政治の動きに無関心であってはならないでしょう。的確な専門的知識とともに創造的な知性、豊かな人間性と国際感覚を身につけることの意義がそこにあります。しかし、そのための勉強が単に単位を修得するためというようなことであってはなりません。ここでも内的動機づけが大きな意味を持ちます。そこで、本学では、専門的科目を1年次から学習できるようにするとともに、教養的な科目を高学年でも学ぶことができるようにしています。以下、本学の教育課程の構成、各教育科目の役割、何年次生の時、何を学ぶのかという教育課程の学年進行等について説明します。

1-1 教育課程の編成

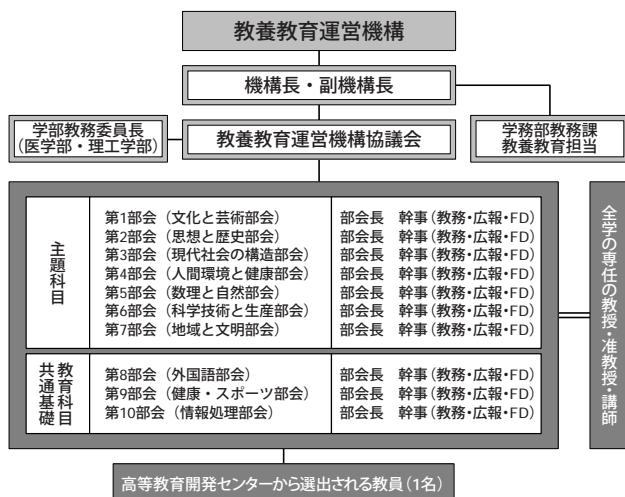
佐賀大学の教育課程は、下記の2つの大きな教育科目によって編成されています。

さらに、教養教育科目は、大学入門科目、共通基礎教育科目及び主題科目に、専門教育科目は、それぞれの学部で行われる狭義の専門教育科目と学部の枠を超えて専門的な教育を実施する共通専門教育科目に分かれます。

教養教育科目と共通専門教育科目は、佐賀大学の全ての教員が所属している「**教養教育運営機構**」（以下「運営機構」という。）が実施します。

- 1. 教養教育科目
 - 大学入門科目
 - 共通基礎教育科目
 - 主題科目
- 2. 専門教育科目
 - 専門教育科目
 - 共通専門教育科目

教養教育運営機構組織図



1-2 教養教育科目

教養教育科目は、大学入門科目、共通基礎教育科目及び主題科目から編成されています。これらの科目は、本学の教育課程の大きな特徴をなしています。

1-2-1 大学入門科目

大学入門科目は、全学部において必修であり、1年次の前学期において学習します。ただし、一部の学部・学科等では1年次の前・後学期を通じて学習します。この科目は、比較的少人数で、一方的な講義形式にならないように工夫され、高校時代の勉学方法から大学での勉学方法への転換を助けることを目的としています。授業は、学生諸君が所属する学部・学科等の単位で実施され、学問の基礎となる読み書きの方法を学び、専門分野の全体像を把握することができるように、様々な形態で実施するように考えられています。各学部における大学入門科目の授業内容は、オンラインシラバス（講義概要）に掲載していますので、目を通しておいください。

1-2-2 共通基礎教育科目

共通基礎教育科目は、外国語科目、健康・スポーツ科目及び情報処理科目からなります。共通基礎教育科目は、共通のカリキュラムに基づいて大学の学習と社会生活に必要な基礎を学習する科目群です。

共通基礎教育科目の履修方法は、3-3に詳しく述べます。また、個々の授業内容は、別冊の「教養教育科目の授業概要」にまとめてありますので、これから受講しようとする授業計画を調べ、各自の履修計画を立てるのに役立ててください。

(1) 外国語科目

佐賀大学で学べる外国語は、英語のほか、ドイツ語、フランス語、中国語及び朝鮮語があります。

外国語科目は、英語1科目の他にドイツ語、フランス語、中国語及び朝鮮語の中から1科目を選び、計2科目を修得する必要があります。大学生に求められる英語を新たに学びなおし、さらにもう一つの新しい外国語を学びます。2種類の言語を学ぶことによって、それぞれの外国語を相対化して考えることができる複眼的視野を身につけ、言葉に対する感性を養うことを目的とします。ただし、一部の学部・学科等では、英語以外の外国語科目の履修は必要ありません。

英語は、従来のクラスの他に、ネイティブスピーカーによるクラス、英語を基礎から学ぶクラスも並行して開設されており、希望者は条件付きで受講することができます。

(2) 健康・スポーツ科目

健康・スポーツ科目は、スポーツ科学講義、健康科学講義、スポーツ科学演習、健康科学演習及びスポーツ実習からなり、講義又は演習のいずれか及びスポーツ実習を必修として履修します。学生生活、社会生活に必要な健康についての基礎知識を学ぶとともに、スポーツ実習を通してスポーツに親しみ、スポーツの意義を考える授業です。ただし、医学部は履修の必要がありません。

(3) 情報処理科目

情報処理科目は、情報基礎概論及び情報基礎演習からなります。情報に満ちあふれているこの社会に適応できるよう、情報とは何か、情報を処理するにはどんな技術があるのか等を学びます。パソコンの使い方や、電子メールの利用法なども学習することができます。

1-2-3 主題科目

主題科目は、自然・人間・社会に関する様々な学習領域を大きく区切った「分野別主題科目」と、新たな問題の発見・解決を目指す「共通主題科目」とに分かれています。

(1) 主題科目の構成

主題分野

分野別主題科目は、次の6つの主題分野からなります。

- | | |
|-----------|-----------|
| 1 文化と芸術 | 4 人間環境と健康 |
| 2 思想と歴史 | 5 数理と自然 |
| 3 現代社会の構造 | 6 科学技術と生産 |

また、共通主題科目は、次の主題分野からなります。

- 1 地域と文明

主題分野の目的と副主題

それぞれの主題分野には、主題のもついくつかの側面をまとめた副主題が置かれています。各主題分野の目的と副主題をまとめたものが下記の表です。

	主題分野	主題の目的	副主題
分野別 主題 科目	1 文化と芸術	人間の表現能力とかかわる文化的活動の様々な姿を解明することを目的とする。人類の文化的所産を「語る、書く、作る、演ずる、歌う、描く」などの表現活動の面からみる。	言語とコミュニケーション 文学の世界 芸術と創造
	2 思想と歴史	世界各地の思想と歴史の特質を知り、これら各地域の異文化交渉の歴史を認識することを目的とする。過去の思想と歴史の理解から未来への展望を開く。	人間・社会と思想 歴史と異文化理解
	3 現代社会の構造	現代社会は、国内外を問わず、民族あるいは経済的利害の対立が強まり、混迷を増すばかりである。これらの原因を政治・経済の側面から考察していく。	現代の国際社会と環境 現代の政治 現代の経済 現代の日本社会
	4 人間環境と健康	ここでは、対象を人そのものに置く。身体や心が変化する過程、教育の過程、これらの過程に及ぼす環境の役割などを論ずる。自己の生活、他人の生活と人格の尊重など、生きて行く上で身につけねばならないものを講ずる。	生活と健康 心とからだ 発達と環境 子どもの発達と支援
	5 数理と自然	我々を取り巻く自然の中に生起する様々な現象の背後にある法則性と数理を解明する。自然の変化と歴史、複雑な現象の中にある原因と結果、その数理的構造などがどの様に認識されてきたのかを論ずる。	数理の世界 物質の科学 身のまわりの科学 自然と生命
	6 科学技術と生産	現代のハイテク技術やバイオテクノロジーの発展、科学と技術の関係や発展の歴史、農業生産と環境問題等、これから社会に巣立つ学生にとって重要な情報を講義する。	技術の歴史 資源とエネルギー ハイテクノロジーと生産 生産と環境
共通 主題 科目	1 地域と文明	佐賀の歴史、文化、教育、地理、自然、科学、産業など地域に関わる身近な諸課題について具体的に学び経験することを通して、問題発見力と問題解決力を養う。	地域とくらし 佐賀の文化

授業の種類

各主題分野の下には、主題の目的に沿って、多くの授業科目が開設されています。各々の授業科目は、年度毎に開講予定が決められ、年度毎の「開講科目一覧」で提示されます。また、各々の授業科目は、講義内容等により、**コア授業**、**個別授業**、**総合型授業**という三つの種類に分けられています。学生諸君は、これらの授業科目の中からどれを選択しても構いませんが、選択に当たっては、講義の目的や講義概要を十分考慮してください。

コア授業とは、各主題分野におかれた副主題を構成する授業科目です。コア授業は、副主題の目的をうまくいかせるように、授業内容が相互に関連しあっています。

個別授業は、各副主題との関連が薄いか、関連があっても独立させる方がよいと思われる授業科目です。

総合型授業とは、コア授業や個別授業が主として一人の教員によって行われるのに対して、複数の教員が分担して行い、しかもテーマによっては複数の主題分野にまたがる授業科目です。

主題科目の履修として取り扱われる外国人留学生のための授業科目

日本事情Ⅰ・Ⅱ・Ⅲは、外国人留学生に対して、以下のような講義内容を中心に開講されます。これらの科目は、主題科目の履修として取り扱われます。

日本事情Ⅰ	文化と芸術、思想と歴史の分野を中心とする人文科学系の講義内容のもの。
日本事情Ⅱ	現代社会の構造、人間環境と健康の分野を中心とする社会科学系の講義内容のもの。
日本事情Ⅲ	数理と自然、科学技術と生産の分野を中心とする自然科学系の講義内容のもの。

(2) 主題科目の選択

主題科目は、豊かな人間性を培うところに意義があります。その意味で、自己の専門とあまりにも近い分野ばかりを勉強したのでは、人間の幅は広がりません。専門から離れた分野を学ぶことによって、自己の専門分野の位置づけが見えてきますし、専門の知識がかえって強化されます。例えば、現代技術や科学に強い経済学部卒の卒業生は、現代のハイテク社会の動きをよりよく見ることのできる人材であるといえます。あるいは、理工学部、農学部、医学部の学生が、バランスのとれた技術者や医者として成長するには、人間の感性や社会のあり方などに対する深い洞察力を同時に育ててゆくことが必要です。

とはいえ、学生諸君が、各主題科目授業をただ漫然と選択しては、視野の拡大には必ずしも結びつきません。そこで、学生諸君は、先に掲げた分野別主題科目の中から一つの主題分野を選択して、その分野についてのある程度まとまった見識を身につけながら、その見識を核として、他の主題分野の授業を選択しなければなりません。

大学は、学生諸君が自らの視野を広げるような主題分野及び授業科目を、自らの内的動機に基づいて選択することを期待しています。低学年次に過度に集中して履修するのではなく、自らの知的関心に基づいて、より深く学べるように計画的に履修することが期待されます。さらに教養教育科目や専門教育科目の履修を通じて感じた疑問や関心の広がりに応じて高学年次でも主題科目を履修することができます。

各主題分野の狙い、副主題の意義は、「教養教育科目の履修の手引き」に、個々の授業科目の概要は、「オンラインシラバス」に記載されています。学生諸君はこれをよく読んで、分野や授業科目を選択してください。迷った時は大学入門科目の担当教員に相談するという方法もあります。

(3) 主題分野の登録

学生諸君（**医学部を除く**）は、大学入門科目などの授業を通して、主題科目の意義を十分に理解できるようになる1年次後学期の始めに、**分野別主題科目**から一つの主題分野を選択して、「運営機構」に登録しなければなりません。この登録分野は、2年次各学期の始めに変更することが可能です。学生諸君は、登録した分野の授業科目を8単位履修しなければなりません。（登録前又は登録変更前に修得した登録分野の単位も8単位の中に含まれます。）

履修の方法については、**3-3「教養教育科目の履修方法」**において、詳しく述べます。

1-3 学年進行と科目履修

4年ないし6年一貫学習だからといって、何をいつ学んでもいいとはいえません。学問を学ぶには、一定の順序にしたがって一步一步前進するほうがいいのです。

大学入門科目は、1年次前学期に履修しますが、一部の学部等では1年次後学期まで履修します。

共通基礎教育科目のうち、健康・スポーツ科目と情報処理科目は1年次に履修し、外国語科目は2年次まで履修することになっています。ただし、一部の学部等では履修の必要はありません。

主題科目と専門教育科目は、並行して4年（6年）間で学べるようになっています。

次の図は、学年進行の模式図です。

〈文化教育学部、経済学部、理工学部、農学部の場合〉

1年次	2年次	3年次	4年次
大学入門科目	専 門 教 育 科 目		
健康・スポーツ科目			
情報処理科目			
外国語科目			
主 題 科 目			

〈医学部の場合〉

医 学 科	大学入門 科 目	専 門 教 育 科 目				
	情報処理 科 目					
	外国語科目					
	主 題 科 目					
	1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次
看 護 学 科	大学入門 科 目	専 門 教 育 科 目				
	情報処理 科 目					
	外国語科目					
	主 題 科 目					

2 卒業に必要な教養教育科目の単位数

各学部が定める卒業に必要な教養教育科目の単位数は、下表のとおりです。

学 部	学科・課程	教 養 教 育 科 目										計
		大学 入門 科目	共 通 基 礎 教 育 科 目							主 題 科 目		
			英語	英語 M	ドイツ語 フランス語 中国語 朝鮮語	健康・スポーツ 科 目		情報処理科目			分野別 主題 科目	
文化教育 学 部	学校教育課程	2	4			2	2	2	1		20	33
	国際文化課程	2	4			2	2	2	1		20	33
	人間環境課程	2	4			2	2	2	1		20	33
	美術・工芸課程	2	4			2	2	2	1		20	33
経済学部	経済システム課程	2	4		4	2	2	2	1		24	41
	経営・法律課程	2	4		4	2	2	2	1		24	41
医 学 部	医学科	4		4	2			2	1		20	33
	看護学科	2		6	2			2			20	32
理工学部	数理科学科	2	4		4	2	2				24	38
	物理科学科	4	4		4	2	2				22	38
	知能情報システム学科	2	4		4	2	2	2	1		20	37
	機能物質化学科	2	4			2	2		1	1	22	34
	機械システム工学科	2	4		4	2	2		1	1	20	36
	電気電子工学科	2	4		4	2	2	2	1	1	20	38
	都市工学科	2	4		2	2	2	2	1		20	35
農 学 部	応用生物科学科	2	4		4	2	2	2	1		20	37
	生物環境科学科	2	4		4	2	2	2	1		20	37
	生命機能科学科	2	4		4	2	2	2	1		20	37

3 履修方法及び履修上の注意事項

3-1 学部・学科等の記号

この「履修の手引き」の中で、あるいは掲示される時間割などでは、学部・学科・課程を表すため以下のような数字を用います。

この数字は、学籍番号の一部であり、学籍番号（8桁）は次のような構成になっています。

<u>1</u> <u>2</u>	<u>1</u> <u>1</u> <u>1</u>	<u>1</u> <u>2</u> <u>3</u>
入学年度	学部・学科等	連番

文化教育学部	{	学校教育課程	1 1 1
		国際文化課程	1 1 2
		人間環境課程	1 1 3
		美術・工芸課程	1 1 4

経済学部	{	経済システム課程	1 3 1
		経営・法律課程	1 3 2

医学部	{	医学科	2 1 1
		看護学科	2 1 2

理工学部	{	数理科学科	2 3 1
		物理科学科	2 3 2
		知能情報システム学科	2 3 3
		機能物質化学科	2 3 4
		機械システム工学科	2 3 5
		電気電子工学科	2 3 6
		都市工学科	2 3 7

農学部	{	応用生物科学科	2 5 1
		生物環境科学科	2 5 2
		生命機能科学科	2 5 3

専門教育科目の履修においては、更に学科・課程等を選修・コース等のクラスに分ける場合がありますので、注意してください。

3-2 授業と単位

(1) 単位制度

教養教育科目の授業は、すべて単位制度によって行われます。学生諸君は、授業を受け、試験等で合格の評価を得ることによって、その授業に設定された一定の単位数を得ることになります。本学の授業は、講義、演習、実験、実習もしくは実技といった種類からなりますが、これらの授業の種類ごとに、設定された単位数が異なっています。学生諸君は、定められた履修方法に基づいて各授業を履修し、所属する各学部が定めた「卒業に必要な教養教育科目の単位数」（7頁の表を参照のこと）を修得しなければなりません。

(2) 講義の種類と単位数

本学における授業は、前学期と後学期とに分かれ、原則として、毎週1回、授業時間90分、各学期とも授業15回、定期試験1回の計16回をもって行われます。教養教育科目の授業の単位数は、次のとおりです。

- ① 大学入門科目、主題科目、健康・スポーツ科目（講義・演習）、情報処理科目（講義）は、1授業時間90分、15回の授業で2単位です。ただし、主題科目の中の実験科目は、1授業時間180分、15回の授業で2単位です。
- ② 外国語科目、情報処理科目（演習）は、1授業時間90分、15回の授業で1単位です。
- ③ 健康・スポーツ科目（実習）は、1授業時間90分、15回の授業で1単位です。

(3) 授業と自学自習

本学の学則は、1単位の授業科目を、「45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とする」と定めています。また、各授業の単位数については、

- ① 講義については、15時間から30時間までの範囲の授業をもって1単位、
- ② 演習については、15時間から30時間までの範囲の授業をもって1単位、
- ③ 実験、実習及び実技については、30時間から45時間までの範囲の授業をもって1単位、

と定めています。

本学の時間割では、90分の授業をもって2時間の授業とみなしていますが、授業は、単位を修得するために必要な学修の一部なのです。

例えば、2単位の講義形式の授業科目では、講義の時間は15回=30時間ですが、2単位を修得するために必要な学修時間は90時間ですから、残りの60時間は、学生諸君の自学自習の時間を意味しています。

すなわち、講義形式の授業で2単位を修得するためには、授業時間の2倍の自学自習時間を必要とします。授業を受けるに当たっては、予習・復習を怠らないように努めてください。

3-3 教養教育科目の履修方法

3-3-1 大学入門科目

大学入門科目は、1年次前学期に2単位を修得しなければなりません。ただし、医学部医学科及び理工学部物理科学科は、1年次前・後学期を通じて4単位を修得しなければなりません。

3-3-2 共通基礎教育科目

外国語科目

外国語科目（日本語を除く）の授業は、週1回1学期（16週、授業15回・定期試験1回）1単位として行われます。

(7) 履修方法

○ 英語の履修方法

英語は1年次の前・後学期に各1単位及び2年次の前・後学期に各1単位、合計4単位を修得しなければなりません。ただし、英語M（医学部）は、医学部医学科は1年次前・後学期に各2単位の、合計4単位、医学部看護学科は1年次前・後学期に各2単位、2年次前・後学期に各1単位、合計6単位を修得しなければなりません。

○ ドイツ語、フランス語、中国語、朝鮮語の履修方法

各々の外国語は、1年次の前学期にI a、後学期にI bを、2年次の前学期にII a、後学期にII bを履修しなければなりません。ただし、学部・学科等においては、異なる場合があります。

○ 日本語の履修方法

日本語は、1年次の前学期にIを、後学期にIIを履修しなければなりません。日本語は週2回1学期（16週）2単位として行われます。

○ 外国人留学生の特例

外国人留学生は、下表の内から、母国語以外の2ヶ国語を選択して履修することができます。

☆履修パターン（数字は単位数）

区分	1年次		2年次		左の表は、英語を4単位及び英語以外の外国語科目を4単位修得する場合の履修方法を示します。
	前学期	後学期	前学期	後学期	
英語	1	1	1	1	日本語は、外国人留学生のための科目です。
ドイツ語	1	1	1	1	
フランス語	1	1	1	1	
中国語	1	1	1	1	
朝鮮語	1	1	1	1	
日本語	2	2			

(4) 選択方法

○ 母国語を選択することはできません。

○ 英語以外の語学については、ドイツ語、フランス語、中国語、朝鮮語の中から選択できます。

○ 英語以外の語学が必修でない学科・課程でも、希望により履修できることがあります。

ただし、この科目の単位は、卒業に必要な単位数には含まれません。

クラス編成

○ 学科・課程、コースなどの単位でクラスが編成されています。指定されたクラス以外で履修することはできません。

○ 日本語の受講クラス

各学期最初の授業で実施するプレイスメント・テストによって、受講クラスを分けます。

(ウ) 海外語学研修プログラムによる履修

一定の条件を満たす海外語学研修プログラムを修了した場合、教養教育科目の外国語科目の単位として認定を受けることができます。対象となる研修プログラム等については、実施計画ができた時点で掲示によりお知らせします。

(エ) 各種外国語能力検定試験の単位認定

英語においては TOEFL (TOEFL ITP を含む)、TOEIC (TOEIC IP を含む)、「英検」、ドイツ語においては「独検」、フランス語においては「仏検」、中国語においては「中検」で、基準となる成績を得た場合は、教養教育科目の外国語科目の単位として認定を受けることができます。単位認定を希望する者は、学期始めの指定する期間内に「申請書」及び「合格を証明する書類」を教務課に提出しなければなりません。

認定基準、認定科目、単位数及び評価は次のとおりです。

〈別表〉 認定基準、認定科目、単位数及び評価

英 語

対 象 と す る 学 修			認定科目	認定単位数	評価
TOEFL	TOEIC	英検			
52点～67点 150点～189点 (470点～519点)	550点～649点	2 級	英語及び英語M	2 単位まで	認 定
68点～87点 190点～229点 (520点～569点)	650点～749点	準 1 級		4 単位まで	
88点以上 230点以上 (570点以上)	750点以上	1 級		6 単位まで	

上段は Internet-Based Test、中段は Computer-Based Test、下段括弧内は Paper-Based Test を表わします。同一レベルにおいては一種類のみを認定の対象とします。

ドイツ語

対象とする学修	認定基準	認 定 科 目	認定単位数	評価
独 検 (ドイツ語技能検定試験)	4 級 3 級以上	ドイツ語 I a、I b ドイツ語 I a、I b 及び ドイツ語 II a、II b	2 単位まで 4 単位まで	認 定

フランス語

対象とする学修	認定基準	認 定 科 目	認定単位数	評価
仏 検 (実用フランス語技能検定試験)	4 級 3 級以上	フランス語 I a、I b フランス語 I a、I b 及び フランス語 II a、II b	2 単位まで 4 単位まで	認 定

中国語（平成22年度以降の1年次への入学者及びその学年への編入学者等）

対象とする学修	認定基準	認定科目	認定単位数	評価
中 検 (中国語検定試験)	4級	中国語Ⅰ a、Ⅰ b	2単位まで	認定
	3級以上	中国語Ⅰ a、Ⅰ b及び 中国語Ⅱ a、Ⅱ b	4単位まで	

健康・スポーツ科目

(ア) 履修方法（数字は単位数）

- 講義、演習、スポーツ実習は、医学部を除き必修科目です。
- スポーツ科学講義、演習及び健康科学講義、演習は、週1回1学期（16週）で2単位として行われます。
1年次の前・後学期のいずれかにクラス毎の曜日が指定されていますので、スポーツ科学講義、演習及び健康科学講義、演習の中から選択し、2単位を修得しなければなりません。
- スポーツ実習は、1年次の前、後学期各1単位合計2単位を修得しなければなりません。

(イ) クラス編成

- 講義又は演習のクラス分け及びスポーツ実習の種目分けを第1回目の授業で行うので体育館に集合してください。

区分 \ 年次・学期	1年次	
	前学期	後学期
スポーツ科学講義	前、後学期の いずれかで2	
スポーツ科学演習		
健康科学講義		
健康科学演習		
スポーツ実習	1	1

情報処理科目

- 情報基礎概論（講義）は、週1回1学期（16週）で2単位、情報基礎演習Ⅰ、Ⅱは、週1回1学期（16週）で1単位として行われます。
- 情報基礎概論を必修科目として義務づけられている学科・課程の学生は1年次の前・後学期のいずれかに履修のための曜日が指定されるので、2単位を修得しなければなりません。
- 情報基礎演習Ⅰ及び情報基礎演習Ⅱを必修科目として義務づけられている学科・課程の学生は、1年次若しくは2年次の前・後学期のいずれかの曜日が指定されますので、1単位～2単位を修得しなければなりません。

3-3-3 主題科目

○主題科目の必要な単位数

学生は、各学部で定められている**主題科目の必要な単位**（20単位～24単位）を修得しなければなりません。主題科目の必要な単位については、先のページに掲げた「**2 卒業に必要な教養教育科目の単位数**」（7頁）を参照してください。

○授業科目の選択

授業科目は、開講予定一覧及び時間割を確認して選択してください。この場合、コア授業、個別授業、総合型授業のいずれから選択しても結構です。

○主題分野の登録と登録した分野で修得すべき単位

学生（医学部を除く）は、1年次後学期の始めに分野別主題科目の中から一つの主題分野を選んで登録しなければなりません。

登録した主題分野からは、8単位を修得しなければなりません。また、共通主題科目の単位は、2単位を限度として、登録した主題分野の単位に含めることができます。

なお、外国人留学生は、日本事情の単位を主題科目の必要な単位に含めることができます。

また、3科目6単位を修得した場合は、登録した主題分野の8単位のうちに含めることができます。ただし、残りの2単位は、登録した主題分野から修得しなければなりません。（この場合、共通主題科目の単位は、登録した主題分野の単位には含まれません。）

日本事情の開講予定（数字は、単位数を示す。）

年次・学期 区分	1年次		2年次	
	前学期	後学期	前学期	後学期
日本事情Ⅰ		2		2
日本事情Ⅱ	2			
日本事情Ⅲ			2	

○主題分野の登録方法

主題分野の登録は、1年次後学期の指定された期間内に教務システム（ライブキャンパス）によって行います。この登録を怠ると、主題科目における「登録分野の単位」が確認できないため、卒業ができなくなりますので注意してください。なお、登録分野の変更は、2年次前・後学期の所定の期間に行うことができます。

※ここで言う1年次は入学した年度、2年次は、入学の次の年度を指します。学部の履修規則等に基づき2年次配当の専門科目を履修できない場合にも、遅くとも入学後2年目の後学期までには、分野登録を行ってください。但し、休学期間は除きます。

○登録分野の変更

主題分野の登録の変更は、2年次の各学期の始めに、教務システムにより行うことができます。

○教員免許状取得の要件

教育職員免許法施行規則第66条の6において「日本国憲法」、「外国語コミュニケーション」、「体育」及び「情報機器の操作」の修得が必要とされています。

本学では、教養教育科目の主題科目分野「現代社会の構造」の中の「現代の法と社会（日本国憲法）」

2単位、外国語から2単位（但し、日本語は留学生に限る。）、共通基礎教育科目の「スポーツ実習」2単位、情報処理科目（必要な科目及び単位数は、各学部の履修細則で確認すること。）を修得しなければなりません。

○主題分野の履修及び登録に関する各学部の規定

以上のような履修方法についての一般的な規則の他に、主題分野の履修及び登録に関しては、学生諸君の所属する学部毎に、それぞれ規則が定められています。学生諸君は、各学部の『履修の手引き』の中に書かれている各学部の「履修細則」を熟読してください。

○学内開放科目について

学部で開講される専門教育科目の中で、他学部生が「主題科目」として履修できるものを「学内開放科目」といいます。具体的な授業科目については、学期始めに掲示でお知らせしますが、履修を制限する場合があります。希望する学生は、開講する学部の授業時間割に留意して履修計画を立ててください。

○他大学との単位互換

本学は、西九州大学及び放送大学と単位互換協定を締結しているほか、佐賀県内の6大学・短大で構成する大学コンソーシアム佐賀に参加しており、これらの大学で履修した科目の単位を本学の卒業要件単位として認定する制度があります。詳細については、下記を参照してください。

学生センターHP 単位互換 <http://www.sc.admin.saga-u.ac.jp/tani.html>

大学コンソーシアム佐賀HP <http://www.saga-cu.jp/>

3-4 九州地区国立大学間合宿共同授業

九州地区国立大学の学生と教員が一堂に集まり、合宿研修によって寝食を共にしながら、交流を深め、かつ、同一テーマについて多面的に授業を進めることを目的としています。

この共同授業で修得した授業科目の単位は、佐賀大学における授業科目の履修により修得したものとみなし、卒業に必要な主題科目の単位数（8頁）に含めることができます。

3-5 追 試 験

① 教養教育科目については、やむを得ない理由〔天災、事故、病気、肉親の死亡（二親等以内）、大学院受験、就職試験等〕によって定期試験を受験できなかった科目で、所定の追試験願を提出した者については教養教育運営機構協議会の議を経て、追試験を行うことがあります。

② 追試験願は、欠席の事由を証明する書類を添えて、公示された定期試験期間の最終日から7日以内に学生センター（教養教育教務）窓口へ提出しなければなりません。ただし、就職試験等で事前に定期試験を受験できないことが明らかな場合は、事前に提出しなければなりません。

3-6 再 試 験

○ 主題科目、英語及び英語M、健康・スポーツ科目については、再試験を行いません。

○ 該当科目は修得単位通知書交付日に学生センター掲示板に公示するので確認してください。

○ 再試験願は、公示された日から7日以内に学生センター（教養教育教務）窓口へ提出しなければなりません。

3-7 外国語科目、健康・スポーツ科目及び情報処理科目の再履修・指定外履修について

(1) 再履修

履修した科目で不合格と判定された科目を再度履修することを再履修といいます。

再履修は全科目について可能ですが、特に外国語科目については、年次・学期及び受講クラスが指定されることがありますので掲示等で確認してください。

ア 外国語科目の再履修

○英語：

次の順により再履修クラスを指定します。

1) 不合格となった教員が担当するクラスで履修する。

2) 1) のクラスでの履修が困難な時は、「指定外履修クラス」で履修する。

ただし、上記の1) 又は2) において、再履修希望者が多い場合は、履修を許可されないことがあります。

○ドイツ語、フランス語、中国語、朝鮮語：

各自で適宜に履修可能なクラスを選択することができます。

○日本語：

各学期1回目の授業日に行われるプレースメントテストを受けて、クラスを決定してください。

イ 健康・スポーツ科目の再履修

2年次から再履修できます。受講クラスはどこでも結構です。ただし、スポーツ実習の1学期に履修できる単位数は、1単位とします。

ウ 情報処理科目の再履修

2年次から再履修できます。原則として同じ対象クラスで履修してください。ただし、指定クラスでの受講が困難な時は、指定クラスの教員及び受講希望クラスの教員の許可が得られれば、クラスを変わることができます。

(2) 指定外履修

指定された再履修クラスの授業が専門教育科目の必修科目等と重なり、履修できない場合は申し出により、指定されたクラス以外で再履修を許可することがあります。これを指定外履修といいます。

指定外履修を申請する場合は、指定外履修願を学生センター（教養教育教務）窓口に提出し、許可を受けなければなりません。詳細は、適切な時期に掲示します。

4 共通専門教育科目

共通専門教育科目は、学部間で共通する専門教育を行うため設けられています。現在、共通専門科目として開設されているのは、特定プログラム教育科目として区分される、デジタル表現技術教育科目群、障がい者就労支援コーディネーター教育科目群及び環境キャリア教育科目群です。

共通専門教育科目は、選択科目であり、次表の範囲内で各学科・課程・選修で定める選択科目として卒業に必要な単位数に算入できます。

なお、特定プログラム教育科目を受講できるのは、それぞれのプログラムに受講申請し、許可された者のみです。

卒業に必要な単位数に算入できる単位数の上限

学 部	学科・課程	選 修	共通専門教育科目			
			特定プログラム教育科目			計
			デジタル表現 技術 教育科目群	障がい者就労支援 コーディネーター 教育科目群	環境キャリア 教育科目群	
文化教育学部	学校教育課程	教育学選修	10			10
		教育心理学選修	6			6
		教科教育選修	8			8
		障害児教育選修	10			10
		数学選修	4			4
		理科選修	2			2
		音楽選修	6			6
	国際文化課程	日本・アジア文化選修	25			25
		欧米文化選修	25			25
	人間環境課程	生活・環境・技術選修	18			18
健康福祉・スポーツ選修		18			18	
美術・工芸課程	美術・工芸選修	20			20	
経済学部	経済システム課程	2			2	
	経営・法律課程	2			2	
医学部	医学科	2			2	
	看護学科	0	2	0	2	
理工学部	数理科学科	0			0	
	物理科学科	4			4	
	知能情報システム学科	0			0	
	機能物質化学科	0			0	
	機械システム工学科	0			0	
	電気電子工学科	0			0	
	都市工学科	10			10	
農学部	応用生物科学科	10			10	
	生物環境科学科	10			10	
	生命機能科学科	10			10	

主題科目各分野の概要

◆分野別主題科目（第1分野） 「文化と芸術」

この主題分野の目的は、人間の表現能力とこれに関わる文化的活動の諸相を解明することにあります。いかなる高度な文化的所産も、根底においては、人々の生きる場に根ざした、語る・書く・作る・歌う・描くなどの表現活動によって生み出されてきました。それゆえ、ある文化を真に理解するためには、その文化に固有の風俗習慣や文学作品・芸術作品などを探ることによって、その文化の特殊性を認識するとともに、すべての文化に共通する人間の根源的な表現活動の普遍性も認識しなくてはならないでしょう。従って、この主題分野には、副主題として、生活に結びついた表現活動の解明を目指す「言語とコミュニケーション」、文化的所産としての文学作品や芸術作品を分析し鑑賞する能力の涵養を目指す「文学の世界」と「芸術と創造」を置きますが、実技科目を取り入れることによって、豊かな表現力や感性を育成することも重視します。

「文化と芸術」は、三つの副主題で構成されています。

副主題「言語とコミュニケーション」では、言語的表現活動の諸相に関して、言葉そのものの成り立ちを言語的に探るとともに、コミュニケーション論の視点から言葉と社会の関連性について探求します。（学士力1. (3)①に対応）また、非言語的表現活動の諸相に関して、世界各地の衣食住に関わる風俗習慣・遊び・造形意識・生活感情などについて探り、文化の多様性と共通性についての認識を深めます。（学士力1. (1)に対応）

副主題「文学の世界」では、言語的表現活動の所産としての詩・小説・戯曲などを、時代・民族・様式などをふまえて味読する能力を養います。（学士力1. (1)に対応）

副主題「芸術と創造」では、非言語的表現活動の所産としての絵画・彫刻・音楽・映画などを、時代・民族・様式などの観点から分析し鑑賞する審美眼を養うとともに、具体的な制作活動を通して、作ることの意味を体得します。（学士力1. (1)に対応）

◆分野別主題科目（第2分野） 「思想と歴史」

古来、人類はさまざまな思想的営みによって人間と社会の理念を求め、こうした理念と現実との相克のなかで歴史を展開してきました。これらの理念は、各地域の歴史の中へ継承されて新たな理想を産み出し、文化や社会の発展に貢献してきたのです。他方、これらの思想や文化は、さまざまな地域的・国際的な交流を通じて融合・発展し、こうした歴史的な異文化理解を通して今日の国際化時代を生み出してきているとも言えるでしょう。国際化・情報化というキーワードで理解される現代社会の人間にとって、世界各地の思想と歴史の特質を知り、またこれら各地域の異文化交渉の歴史を認識することは、必須の課題でしょう。本主題の目的はここにあります。21世紀を担う学生諸君が、過去の思想と歴史の理解を深めることによって未来への展望を開いてくれることを期待しています。

この分野は、二つの副主題で構成されています。

副主題「人間・社会と思想」では、理論的思考の方法や人間倫理の基本問題をはじめ、古代ギリシア哲学、ヨーロッパ近代の諸思想、中国古代思想などと共に、近代社会科学の母胎となったヨーロッパの経済思想や社会思想、あるいはそれらの国際的影響の諸側面を学習することができます。

副主題「歴史と異文化理解」では、ヨーロッパ・アジア・日本の各時代にわたる歴史の諸相が解明されると共に、各地域の歴史についての比較史考察や地域間の異文化交渉、また歴史的環境としての風土や村落・都市などが扱われます。

ところで、それぞれの副主題の授業科目は互いに関連しあっています。ヨーロッパと中国の古代思想の習得により各地域の思想の個性を理解し、その相互比較によって人類の思想的営みの多彩な展開を学ぶことができるでしょう。ヨーロッパ近代の哲学と経済思想・社会思想の学習によって世界史における近代の一つのモデルを追求することも可能です。歴史の分野では、ヨーロッパ・アジア・日本の歴史を対比しながら考察することもできますし、あるいは、ヨーロッパや日本の歴史を縦断的に学習して、それらの地域的特性を理解することもできるでしょう。二つの副主題もまた互いに関連しあっています。例えば、ヨーロッパの思想と歴史を同時に学ぶことにより、ヨーロッパを総合的に理解することも可能であり、このことは、アジアや日本についてもあてはまります。

学生諸君に対しては、自らの希望に従い、副主題の授業科目を適宜組み合わせ、体系的な理解ができるように選択されることを希望します。なお、「思想と歴史」分野では、ほぼ3年間ですべての授業科目が開講されることになるから、この点も併せて考えておいてください。

佐賀大学学士力と本分野の開講科目との対応関係について言及すると、「思想と歴史」という主題に関わる以上、本分野のほぼすべての科目が、「1. 基礎的な知識と技能」のうちの「(1)文化と自然」、すなわち、「世界を認識するための幅広い知識を有機的に関連づけて修得し、文化的素養を身につける」に対応します。このことは、上記の概要からも明らかでしょう。

同様に、副主題として二分されているものの、学士力の観点から見ると両方の主題が共に関与する項目、例えば、「3. 個人と社会の持続的発展を支える力」に関わる科目数が多いのも特徴です。他にも、「2. 課題発見・解決能力」のうち「(1)現代的課題を見出し、解決の方法を探る能力」に関する科目として、両方の主題から、宗教学入門や日本社会と女性の地位を例示できます。

副主題「人間・社会と思想」に関する科目の場合は、上記3. の学士力のうち、「(3)高い倫理感と社会的責任感」に関わるものが多い。例えば、中国古代の思想、思想の社会史、近現代の政治思想などです。

副主題の「歴史と異文化理解」に関する科目の場合は、3. の学士力のうちの、「(1)多様な文化と価値観を理解し共生に向かう力」に関連するものが数多く含まれています。例えば、日本近世の社会と経済、地図の世界などです。しかし、副主題「人間・社会と思想」で言及した科目のほとんどが（重複を避けるため具体的科目名は省略します）、この項目に関係します。その他、項目1. の「(4)専門分野の基礎的課題」に関わる科目として、例えば、ヨーロッパ中世史、考古学概説をあげることができます。これらは2. の「(2)プロフェッショナルとして課題を発見し解決する能力」とも関わります。

以上、学士力との関連で言及した項目にしる、例示した科目名にしる、ほんの一部に過ぎず、重要な点、そして学生諸君に望むのは、シラバスを検討し、担当教員に直接質問するなどして、個々の科目について十分に情報を収集し、判断する労を厭わないことでもあります。扉を開くために、どうか扉を強く叩いてください。

◆分野別主題科目（第3分野） 「現代社会の構造」

【分野の概要】

現代社会はかつてなく複雑化しています。東西冷戦体制は遠い過去になったはずですが、終結したのち今もなお世界では紛争がやみません。また、経済はいっそう世界的な一体性を強め、特定の一国の経済状況が他国にますます深刻な影響を及ぼすようになってきています。国際的にも、国内的にも複雑化しつつある政治と経済の問題があり、それに真剣に取り組まなければ、今後の人類の生存にとってきわめて深刻な事態が招きかねません。第3分野「現代社会の構造」は、そのような内外の政治・社会・経済の諸問題を考える上での基礎知識を学ぶ場となります。

以上のような諸問題がどのような現実であり、どのような原因や経過で生起するにいったか、またそこから抜け出るためにはどのような解決策があるのかを、具体的に考える契機となるのが本分野です。

本分野は、以下の4つの副主題により構成されています。

副主題「現代の国際社会と環境」では、[現代の国際社会]、[現代の環境問題] という二つのコア授業を柱にして、国家、民族、宗教、環境など幅広い領域を学ぶことにより、国際社会に生じている多くの問題をどのようにして解決してゆくべきかを探求します。

副主題「現代の政治」では、[行政と政治]、[現代の法と社会] の二つのコア授業をもとに、これらの領域の問題にどのように関わってゆくべきかについて、人権や住民参加という視点を軸にして探求します。

副主題「現代の経済」では、[現代の経済]、[現代の日本経済]、[現代の経営] という三つのコア授業を設けて、国際化し多極化した世界経済のなかで、国民経済や企業のあり方を学ぶべく経済の理論と現状分析の方法の基礎を学びます。

副主題「現代の日本社会」では、[現代の社会]、[現代の産業社会] という二つのコア授業を設けて、今日重要になっている、自治体再編、高齢化、雇用問題、家族問題などをとりあげ、その改善策を学んでいきます。

【佐賀大学学士力との対応】

上記の分野科目の履修を通して、以下のような学士力を身につけていただきたいと思います。すなわち、本分野の開講科目履修を通して、主として、現代社会と生活における、健全な社会や健康な生活に関する種々の知識を修得し、生活の質の向上に役立てることができる（佐賀大学学士力1(2)）人になっていただきたいということです。

そのために、副主題科目「現代の国際社会と環境」においては、特に、国際社会、環境問題を扱うことを通して、個人と社会の持続的発展を支える力の習得を目的とし、多様な文化と価値観を理解し共生に向かう力として、文化や伝統などの違いを踏まえて、平和な社会の実現のために他者の立場で物事を考えることができ、自然環境や社会的弱者に配慮することができる感性を培ってもらうための科目が開講されています（佐賀大学学士力3(1)）。副主題「現代の政治」では、特に、現代社会における諸問題を多面的に考察し、その解決に役立つ情報を収集し分析できる能力を身につけてもらうための科目が開講されています（佐賀大学学士力2(1)）。副主題「現代の経済」では、専門分野において、基本概念や原理を理解して説明でき、一般的に用いられている重要な技法に習熟することができる（佐賀大学学士力1(4)）ようになるための科目が開講されています。副主題「現代の日本社会」では、現代社会における諸問題を多面的に考察し、その解決に役立つ情報を収集し分析できる（佐賀大学学士力2(1)）能力を習得するための科目が開講されています。社会生活における情報の氾濫、メディアの多様化に伴い、情報を収集し、その適正を判断でき、適切に活用・管理できる（佐賀大学学士力1(3)②）能力の涵養が必要な時代ですので、これに対応する「個別授業」も開講されています。

第三分野で「現代社会の構造」を多面的に把握し学ぶことを通して、高い倫理観を身につけ、社会生活で守るべき規範を遵守し、自己の能力を社会の健全な発展に寄与する姿勢（佐賀大学学士力3(3)）をもって社会で活躍できる人に成長してください。

◆分野別主題科目（第4分野） 「人間環境と健康」

この分野の授業の目的は、身近な日常生活をふりかえりながら、自分という人間を見つめたり、他者というさまざまな人間を理解することができるような、生活上必要な自立心や応用力を養うことです。 具体的

には、人間の身体と心のしくみや変化の過程、幼児から成人に至るまでの教育、あるいは、日常生活に影響を及ぼす環境上の諸問題などについて考えます。

この分野は、医学部の教員の授業が他の分野にくらべて多いことや、授業内容も自然科学系、社会科学系、人文科学系にわたっており、全体として、いわゆる「文理融合型」の教養教育をめざしていることが特徴です。

受講学生には、興味や関心だけの受身の姿勢ではなく、授業内容を身近な生活上の問題として主体的に考える積極性をもって参加してください。

「人間環境と健康」は4つの副主題で構成されます。

- ◎ 副主題「生活と健康」では、「生活の科学」、「食品の科学」、「食生活と健康」などの授業を通して、人間の基本的な生活である衣食住について、最近の知見や情報などを紹介しながら解説するとともに、衣食住のあり方が健康に及ぼす影響の問題について考察します。
- ◎ 副主題「心とからだ」では、「心の科学」、「心の発達」、「心身の病」などの授業を通して、人間の心の機能や身体の構造、それらの発達過程、また、胃潰瘍などの心身症、神経症、うつ病、統合失調症などについて解説するとともに、生まれてきた子供たちのことなどをとりあげて、現代人のストレスや心身の健康の問題について考察します。
- ◎ 副主題「発達と健康」では、「発達と社会」、「教育のしくみ」、「教育の実際」などの授業を通して、個人の心の発達に及ぼす社会のあり方や、人間を教育するというものの本質とその具体的しくみ、あるいは、そのような教育が実際にどのように行われているかを紹介しながら、心や身体の発達を援助する教育の問題や課題について考察します。
- ◎ 副主題「子どもの発達と支援」では、「子どもの病気」、「子どもの支援」などの授業を通して、子どもの発達と支援について考えます。特に近年話題となっている発達障害や心身症、不登校などについての理解を深め、医学や心理学、教育学、福祉学など各領域からの支援のあり方や社会のあるべき姿を考察します。

なお、この領域で一定の単位を取得した学生に対しては、「子どもの発達と支援」プログラムに関する修了証等が授与されます。取得のしかたは別に定め、公表します。

このように、第4分野の授業では、4つの副主題を通して、「豊かな人間性を滴養する」という教養教育の目的にそって、担当教員による専門分野での自分自身の体験を含めた講義・解説が行われています。これらの授業科目は、佐賀大学学士力の1(2)の「現代社会と生活：健全な社会や健康な生活に関する種々の知識を修得し、生活の質の向上に役立てることができる」に相当します。さらに、学士力3「個人と社会の持続的発展を支える力」の(1)「多様な文化と価値観を理解し共生に向かう力」、(2)「持続的な学習力と社会への参画力」、(3)「高い倫理観と社会的責任感」にも対応する授業となっています。

○第4分野 「人間環境と健康」〈履修上の注意点〉

1. この分野の授業内容には、学生にとって興味や関心をひかれるものが多いために、授業によっては、受講生が集中して教室の収容人員を越えてしまい、学生の履修希望を受け入れられないこともあります。
2. 同じ理由から、授業科目によっては、150人を超えた場合には、履修制限することがあります。
3. 鍋島キャンパス（医学部）で開講される授業もあるので、履修の際には、偏りがないように受講してください。

◆分野別主題科目（第5分野） 「数理と自然」

分野別主題科目「数理と自然」の目的は、自然科学の進展とそれによって生じた問題点を明確にし、今後の方向性を探るための知識を自ら考える能力を養うところにあります。

この分野は四つの副主題（「数理の世界」、「物質の科学」、「身のまわりの科学」、「自然と生命」）で構成されています。

（第1）副主題「数理の世界」には、以下の五つのコア授業科目があります。

「代数と離散数理」：整数とその計算を主として調べることから発展した整数論、数や式とその演算を対象とすることからスタートした代数学などがこの領域に入っています。

「図形の幾何」：数学において“空間”とは、数学を考える土台そのものを指す言葉となってきています。様々な空間内で図形を捉えることは、代数学や解析学など他の分野でも求められる能力です。そういった空間把握能力を高める授業や、空間そのものを探求する授業がこの領域に入っています。

「連続と変化」：無限や極限という概念は、連続量や実数と緊密な関係にあります。それらは自然現象を表現するいろいろな関数の性質を調べるときに不可欠なものです。高校の数学での微分積分を発展させた内容が中心ですが、無限、極限、収束、微分可能性などについて考え直す基礎的内容の授業も行われます。

「ゆらぎの数理」：個々の事象の予測は不確定です。可能性の割合をみたり、全体の傾向を知ることで、決断を下す助けとすることは日常経験することでしょう。サイコロや天気予報を連想する確率論、交通事故や偏差値を連想する統計学などがこの領域に含まれます。

「情報のしくみ」：情報は人の知的活動のすべての基礎となっています。コンピューターの発達で知的活動を情報の側面から捉えることができるようになりました。この講義ではそれぞれの教員が、情報の量の側面、コンピューターによる情報処理、単純な素材が作る複雑な世界、生命の受け継ぎにおける情報、生体活動の中での情報、知的活動における情報、計画への応用などの分野を取り上げます。

これら5つのコア授業科目は佐賀大学学士力の1(1)の「文化と自然」に相当します。

（第2）副主題「物質の科学」には、以下の五つのコア授業科目があります。

「力と運動」：物質世界の基本的な法則を扱うのが物理学ですが、その考え方の基本的なパターンが、ガリレオによって始められニュートンが完成させた『力学』です。ここでは、天体や物体の運動が、時間の空間の中での法則としてみごとに体系化されています。しかし時間と空間という枠組みそのものもアインシュタインによって大きく変えられました。これらについて解説します。

「波動と電磁気」：自然界の現象は大きく分けると『粒子の運動』と『波動の伝搬』という形で描くことができます。前者は「力と運動」などで扱うが、ここで主に後者について学ぶことになります。波動の中でも特に重要なものが光を含む電磁波です。また、ほとんどの現象が電気や磁気に関連していると言っても過言ではありません。そこで電磁気の基礎を概説し、さらに電磁波について説明します。

「熱と物質」：物質を構成する微視的な原子・分子の集合体と熱との関係を力学的な観点から概説します。物質の多様な性質をその構成粒子間の相互の結合の観点から解説します。

「ミクロの世界」：物質を構成する最も基本的な粒子を求めて今世紀に多くの物理学者が研究してきました。また、その研究過程で古典物理学の枠組みを越えた量子力学が確立しました。この講義では、原子、原子核、素粒子の構造の概要や量子力学の基礎について解説します。

「分子と原子」：物質は分子、原子と呼ばれる非常に小さな構成単位の集合体です。そこで、物質を理解

するためには、分子と原子の構造と性質を理解しなければなりません。そのためには、分子・原子の構造・性質を支配する原理を理解するとともに、個々の事例についての知識を増やすことが重要です。この授業科目では、分子と原子についての概論及び各論を担当者の方法論と視点に基づいて解説します。

これら5つのコア授業科目は佐賀大学学士力の1(1)の「文化と自然」に相当します。

(第3) 副主題「身のまわりの科学」には、以下の一つのコア授業科目があります。

「生活の化学」：私たちの身のまわりにはいろいろな化学物質が存在し、衣食住のすべてに関わりをもっています。セーターやジャケットの原料となっている羊毛や合成繊維、食品の中に含まれる各種栄養成分、住宅の壁に塗ってある塗料などはすべて天然あるいは人工の化学物質です。また、最近マスコミによく登場するダイオキシンや温室効果ガスなども化学物質です。このことを考えると、私たちの生活をより豊かにするためには、あるいは私たちの生活から発生する諸問題を解決するためには、『化学』が必要不可欠であることが分かります。この科目では、身近な物質と現象を化学的な目で分析し、理解できる能力を養うことを目的として、様々な角度から講義を行います。

このコア授業科目は佐賀大学学士力の1(1)の「文化と自然」に相当します。

(第4) 副主題「自然と生命」には、以下の四つのコア授業科目があります。

「宇宙と地球の科学」：宇宙と地球の長大な時空間で起きてきたこと、現在起きていることを対象とします。星の誕生、地球の形成、海陸分布の変遷、地球内部の動きと地震・火山活動、生命の誕生から知性を持つ生物までの進化の過程、大気組成の変化や気候変動、宇宙の歴史や天体の活動、資源や地球環境問題など広範囲な分野にわたって講義します。担当者の専攻分野により偏りもあるので、個別授業や実験で補ったり、すでに受講した個別授業や他の科目を宇宙と地球のシステムと関連させて理解を深める一助ともできます。

『高校地学』を受けていない人にも理解できるように配慮されています。

「生命と物質」：生物のからだは、高度に組織化された化学物質の集合体です。生物が活着しているとは、『何種類もの生体分子が巧みに連携しながらそれぞれの機能を果たしている状態である。』ということもできます。この営みの主役であるタンパク質、核酸などの巨大分子は、現在の構造・機能を獲得するまでに数十億年を費やし、簡単な分子から複雑なものへと進化してきました。そして、水や金属などはそれら主役分子の機能を助ける重要な働きをしています。この講義では、このような生命の化学的一面を解説します。

「生命の科学」：約35億年前、地球上に生命が誕生しました。それから現在に至るまでの長い長い年月をかけて、環境に適応しながら生物は進化し、多様な生命を育んできました。それは、DNAに書き込まれた遺伝情報を生殖活動を通して子孫に伝える営みの連続ともいえるでしょう。自分のもつ遺伝情報をかたくなに守ろうとする保守性と、環境の変化に柔軟に対応するしたたかな進歩性、それが生命の本質かもしれません。この授業科目では、植物や動物など身近な生物を例にとりながら、生命の科学を平易に解説します。

「生物の生態と社会」：生命の基本的単位は個体です。個体は集まって一つの集団を作り、集団間の相互作用のもとでさらに高次のシステムが形成されます。生物の生活は、このような個体間相互作用、集団間相互作用、さらには無機環境の関わりとの総合的な影響下に存在し、その進化さえも巨大な生物・環境複合体の経時的な内部変化として進行してきたと理解することができます。もちろん人間の活動もその一部ですが、他の生物に対するその影響力は日々増大しています。この授業では、生物の生態、行動、社会、人間の関わりについて、巨視的な視点からわかりやすく説明します。

これら4つのコア授業科目は佐賀大学学士力の1(1)の「文化と自然」に相当します。

◆分野別主題科目（第6分野） 「科学技術と生産」

樹上に棲息していたサル的一种にすぎなかった人類の祖先は、地上で直立歩行し両手を自由に使えるようになって道具を作り出し、それを使用するための肉体的条件を身に付けました。道具の製作とそれらの技術こそ、サルがヒトに進化する上で決定的に重要でした。技術は、労働の生産性を高め、労働時間を短縮する手段で、すべての人に自由な時間を享受させ社会の発展に大きく寄与する原動力です。一方、生産の現場では、高齢化や就労・技術の継承、ハイテク生産システムを使用できない自然や生物を対象とする農業や医療分野等における労働など解決すべき多くの課題があります。これらの諸課題の解決は21世紀に生きる学生諸君の肩にかかっています。それらを解決する糸口を与えることがこの分野の授業の目的です。

この分野には、文化教育学部、医学部、農学部、工学系研究科、産学官連携推進機構、低平地沿岸海域研究センター、海洋エネルギー研究センター、海浜台地生物環境研究センター、シンクロトン光応用研究センター、高等教育開発センターなどの教員が登録しており、現代のハイテク技術やバイオテクノロジーの発展、科学と技術の関係や発展の歴史、生産機材とエネルギーの開発、生産と環境の調和、農業生産と環境問題等について平易に解説します。

この分野は、4つの副主題（「技術の歴史」「資源とエネルギー」「ハイテクノロジーと生産」「生産と環境」）と「個別授業」及び「総合型授業」で構成されています。

これらの科目群は、佐賀大学の学士力「1. 基礎的な知識と技能」の「(1)文化と自然：世界を認識するための幅広い知識を有機的に関連づけて修得し、文化的素養を身につけている。」および「(2)現代社会と生活：健全な社会や健康な生活に関する種々の知識を修得し、生活の質の向上に役立てることができる。」に対応しています。

（第1）副主題「技術の歴史」では、機械、電気、建設および農業における科学技術の将来を展望することを目的に、科学技術の発展の歴史及び現状を概説するとともに、科学技術とは何か、技術にとって科学はどのような意味を持つかについても考えます。

（第2）副主題「資源とエネルギー」では、現代の物質文明を特色づける工業・農業生産を支える資源とエネルギーの利用の歴史と現状について概説します。その1つは、われわれの身の回りにある様々な新素材の紹介と機能発現のメカニズムの分子・原子レベルからの説明、他は、農業生産に関わる栽培植物の起源、改良、保存についての概説とエネルギー開発の歴史と将来展望、核燃料サイクル、電気を利用する生産技術等の様々な側面についての解説です。

（第3）副主題「ハイテクノロジーと生産」では、ハイテクノロジー（高度先端科学技術）の現状と将来について総合的に考える能力を養うことを目的とします。最近、進歩が著しい先進材料、自動制御、情報処理等の工業・情報関連技術やバイオテクノロジー等の生物科学技術について解説します。

（第4）副主題「生産と環境」では、環境問題として、人口の増大、資源の浪費、生体系の破壊、環境汚染の増大がありますが、食糧生産、水、森林を潤沢に維持しつつその方策をいかに講じるか、また、自然災害の予知と対策をどうするかが問題となっており、これらの観点から、工業・農業生産における技術の発達と環境への影響、その対策、地球環境汚染をもたらす物質、水域保全、生物環境、自然災害とそれに対応してきた人間の防災対策等について解説します。

◆共通主題科目（第1分野）（担当部会：第7部会） 「地域と文明」

共通主題科目「地域と文明」の目的は、佐賀の歴史、文化、教育、地理、自然、科学、産業など地域に関わる身近な諸課題について具体的に学び経験することを通して、問題発見力と問題解決力を養うことです。

また、佐賀で学ぶメリットを生かして知的関心を高め、本学で学ぶ意義（アイデンティティ）を実感することも「地域と文明」の目的です。

この目的を達成するには、担当教員と受講学生間のコミュニケーションが不可欠です。そのため、「地域と文明」の授業は、少人数のクラス（20人程度）で実施されます。注1）受講学生には、受身ではなく、積極的な参加が求められます。主体的に学ぶことを通して、問題を発見し、解決し、発表することの喜びと充実感を得てもらいたいと思います。

注1）クラス人数の詳細については、各授業のシラバスを参照してください。

「地域と文明」は、2つの副主題で構成されています。

- ◎ 副主題「地域と暮らし」では、九州北部に位置する佐賀の自然的・社会的環境の中で営まれる人々の「くらし」について考察します。
- ◎ 副主題「佐賀の文化」では、佐賀の風土が育んできた文化・芸術・教育・科学・産業等の多様性とその意義について考察します。

問題発見・問題解決の方法は、学習対象によって大きく異なります。そのため、授業方法は授業科目によって異なりますが、基本的には、次のように実施されます。

- 1 担当教員ならびに地域で活躍している人による講義・解説があり、それを通して、考えるための基礎知識を学び取ります。
- 2 学習対象を具体的に把握して理解するため、講義のない平日の時間帯や土曜・日曜を利用して、見学・調査・討論等が行われます。
- 3 担当教員の指導を得ながら、与えられた課題に関する文献等を調べ、学習します。学習は、課題や必要性に応じて、グループに分かれて行います。
- 4 学習結果をレポートにまとめ、プレゼンテーションを行います。

共通基礎教育科目の概要

◆共通基礎教育科目（第8分野） 外国語科目（英語・ドイツ語・フランス語・中国語・朝鮮語・日本語）

新入生の皆さんのほとんどは、これまで中学・高校を通じて、ずっと英語を習ってきました。日本の大学では、通常、英語と並んでそれ以外の外国語を新しく勉強し始めます。このことは、国際社会で生きていかなければならない現代日本の大学生にとって、異文化に対する偏見のない態度と、世界に対する広く複眼的な視野を身につけるうえで、非常に大切なことなのです。一つの外国語しか知らない人は、ともすれば、その外国語だけを通して世界を見がちであり、その外国語を通じて知ったある世界の文化を、あたかもそれが世界の大部分であり、世界の文化の大部分であるかのように誤解しがちです。しかし、第二、第三の外国語を知れば、それぞれの言語の背後には、その言語を成立させているそれぞれの文化があることを知ることになり、世界の多様性を実感することになります。そうすることによって、一口に「外国」と言っても、それは決して単一・同質のものではないこと、それだから、世界を偏りのない目で見ることができるようになるためには、複眼的視野が必要であることに思い至るのです。それが、日に日に地球が狭くなりつつある今日、私たちに求められている国際化への第一歩なのです。真の国際化とは世界の多様性を認識して、それを受け入れ、それぞれの国の文化や言語を、自国の文化や言語と同様に尊重する態度を身につけることであると言えるでしょう。

佐賀大学では、外国語として、英語、ドイツ語、フランス語、中国語、朝鮮語、および外国人留学生のために日本語が開講されています。たいていの学部・学科では英語（1科目4単位）とその他の外国語（1科目2又は4単位）の履修が義務づけられています。一部の学科では、その他の外国語は自由選択になっています。

また、外国語に関しては、海外での語学研修や大学以外の教育施設等における学修（検定試験等）も、本学で定められた手続きと審査を経れば、教養教育科目の外国語の単位として認定できる制度もあります。

◆共通基礎教育科目（第8分野） 外国語科目の概要

◇科目概要 英 語

21世紀の今日、英語は世界の多くの人にとってリンガフランカ（共通語）となっており、強力な世界語としての重要性には共通の理解があるでしょう。インターネットや衛星放送で24時間、さまざまな情報に、英語という手段を通じて誰でもアクセスできる時代です。英語を使えることの重要性の一つが、ここにあります。一口に英語といっても、イギリス英語、アメリカ英語をはじめ、オーストラリア英語もあり、さらに南アフリカ、カナダ、スリランカ、その他いろいろな国で英語が使用されており、英語の異種は数多くあります。

外国語を学ぶことは、外国の文化との出会いを意味します。ですから、世界語の一つである英語を学ぶことは、世界中の多様な文化、芸術、ものの考え方を学び、さまざまな国を知ることでもあります。文系、理系を問わず、英語はグローバル化するこれからの社会でますます重要となるでしょう。本学の英語教育は主として学士力1(3)の言語リテラシーに対応するものですが、言葉の学習を通して異文化を学び、広い視野と協調性を身につけるといふ点で、学士力3(1)、2(3)にも対応します。

- (1)「英語」では、中学・高校の6年間で培った基礎学力を前提とし、いわゆる四技能、Reading, Listening, Writing, Speaking に関するさまざまな授業で、英語の基礎的運用能力とコミュニケーション能力の一層の向上を目指します。

- (2) 「英語」の学習を通して異文化についての知識と理解を深め、日本人とは異質なものの見方や感じ方を知ることによって視野を広め、国際的感覚の養成を目指します。

◇科目概要 ドイツ語

ドイツ語は、ドイツ、オーストリア、リヒテンシュタインなどの国語です。また、スイスやルクセンブルクでも公用語の一つとなっています。使用人口は日本語とほぼ同じで、およそ一億一千万人です。ドイツ文化は日本の近代化に大きな影響を与え、ドイツ語も、日本の高等教育の中で伝統的に重要な位置をしめてきました。近年一部に、外国語はもはや英語のみでよい、とする短絡的な風潮もありましたが、1990年のドイツ再統一と冷戦の終焉・EU発足を機会に、いろいろな分野でドイツ及びドイツ語の重要性が改めて認識されつつあります。

ドイツ語は、英語やオランダ語と同じようにゲルマン語に起源を持つ言葉です。英語がフランス語の影響を受けて、文法上の語形変化などが簡略化したのに対して、ドイツ語は昔のゲルマン語の文法体系を比較的忠実に残しています。英語とドイツ語は、単語ではその意味や用法がそっくりな場合もありますが、語形変化や語順などは、現在ではかなり異なっており、皆さんは、この二つの言葉はむしろ別物であると考えた方がよいでしょう。

ドイツ語を選択する皆さんは、これから2年間ドイツ語を学ぶこととなりますが、本学におけるドイツ語教育は、主に佐賀大学の学士力1の(3)の言語リテラシー及び3の(1)に対応しています。具体的に言えば、ドイツ語の基礎的な能力を身につけ、ドイツ語の学習を通してドイツ語圏の人々とその社会・文化に対する理解を深め、異文化への開かれた姿勢を身につけることをその到達目標とします。また、学士力1の(3)に対応して、より実践的なコミュニケーション能力を身につけたい人には、そのための授業も開設しています。

- (1) ドイツ語 I a b では、先ずドイツ語の基本的な音声（発音）の規則、すなわちつづりと発音の関係を学び、初歩的な文法を学びます。その項目を具体的に言えば、動詞の現在人称変化、名詞の性と数、名詞・冠詞類・形容詞の格変化、助動詞、動詞の三基本形（不定形・過去・過去分詞形）、過去人称変化、完了形などで、それらを一年間にわたって学びます。このような基本的な文法を学びつつ、ドイツ語の基礎的な語彙と表現パターンを習得することによって、読む、聞く、話す、書くの4技能の基礎力を養成します。また、ドイツ語が話されるドイツ語圏の社会的・文化的背景（ランデスクンデと言います）についても基本的な知識を得ます。
- (2) ドイツ語 II a b では、さらに高度な文法事項、受動文、関係文、接続法などを学び、文法知識・語彙・表現パターンの拡大を図り、ある程度まとまった文章が読めたり、簡単な会話ができるようになることをめざします。つまり、読む・聞く・話す・書くの4技能の基礎力の拡大を図り、ランデスクンデの深化を目標とします。
- (3) ドイツ語 II a b に並行して、ドイツ語 II N（N=native speaker）を開講します。これはドイツ語を母語とする教師が担当するクラスで、プラクティカルなコミュニケーションの能力を養成することを目標としたクラスです。授業は専らドイツ語で行われますが、ゆっくりと分かりやすいドイツ語ですから、安心してどんどんチャレンジしてください。ネイティブスピーカーのドイツ語に接することによって、耳が慣れ、実践向きの生きたドイツ語と積極的な自己表現の姿勢が身につきます。
- (4) ドイツ語検定試験（独検）・海外研修外国語（ドイツ語）の単位認定：独検4級、独検3級はそれぞれドイツ語 I a b（2単位）、ドイツ語 II a b（2単位）として認定されます。また佐賀大学で認められた海外ドイツ語研修をドイツ語 I a b、II a bのいずれか2単位として認定することがあります。

◇科目概要 フランス語

現在では、外国から日本を訪れる人々と日常生活の中で接する機会も増し、また外国に行く日本人の数も飛躍的に多くなりました。皆さんの中には既に外国体験のある人もいることでしょう。日本とは全く異なる文化伝統を持つ国々やその生活・習慣との出会いは、私達に新鮮な驚きと喜びを与えてくれるとともに、逆に新たな目で日本を見つめ直す機会ともなります。フランスは長い間ヨーロッパの文化の中心的役割を果たしてきました。また、今日でもフランス語は、英語に次いで第2位の公用語としてヨーロッパ、カナダ、アフリカなど世界の30以上の国々で用いられています。フランス語を学ぶことは、広く世界へ目を向ける第一歩となることでしょう。フランス語を選択する皆さんは、これから2年間フランス語を学ぶこととなりますが、本学におけるフランス語教育は、主に佐賀大学の学士力1の(3)の言語リテラシー及び3の(1)に対応しています。具体的に言えば、フランス語の基礎的な学力を習得し、フランスの文化や社会についての基本的な知識の修得を通して異文化への開かれた姿勢を身につけることがフランス語の授業に共通する到達目標です。また、学士力1の(3)に対応して、より実践的なコミュニケーション能力を身につけたい人には、2年間で初歩的な会話ができるようになることを目標とした授業を開設しています。

(1) フランス語 I a b 及びフランス語 I N

フランス語会話ができるようになりたい、フランスの美術や歴史に興味がある、あるいはフランス文学の原書を読みたいなど、皆さんがフランス語を選択する動機はさまざまだと思います。私たちは、皆さんのそうした要望にどうすれば応えられるか考えながら、この数年間は、フランス語の履修目標を基礎的な会話能力の養成に置いて授業を組み立ててきました。

しかしながら、話す能力を身につけるには、現在の時間的制約のもとでは問題があります。特に、基本表現の反復練習には多くの時間を必要とするため、基本的な文法を学ぶための時間が充分にとれないきらいがありました。実際には文法の正確な知識無しには会話能力の向上は望めません。そこで、現在は以下の二つの選択肢を用意しています。ひとつは、フランス語の基礎的な知識を確実に習得したうえで、フランスの社会や文化についての理解を深めていくことを目的とするコースです。もうひとつは、より実践的なコミュニケーション能力の養成を目標とするコースで、フランス語の会話能力を身につけたい人には、2年間、時間割の制約がない限り、ネイティブスピーカーのもとで会話クラスを受講することができます。従って、フランス語 I a b では、フランス語の発音、発音と綴字の関係を始めとして、名詞の性数、直説法のいくつかの時制などを中心に、基本的な文法事項を学びます。フランス人講師が担当するフランス語 I N の会話クラスでは、日常会話の基本表現を学びながら、コミュニケーションのための基礎力を養います。

(2) フランス語 II a b 及びフランス語 II N

1年次で学ばなかった条件法や接続法などの文法事項を学びますが、文法の習得は、フランス語を通してフランスについての知識や理解を深めていくために必要な手段に他なりません。従って、この年次では、フランスの社会、文化や日常生活に関する多様な教材を用い、基礎学力をさらに確かなものにすると同時に、広い視野を身につけるための基本的な知識を養います。また、1年次にネイティブスピーカーのクラスを受講した人は、自己表現能力をさらに高めるために、引続きフランス人講師によるフランス語 II N の会話クラスを受けることができます。

◇科目概要 中国語

高校まで欧米の言語を学んできた人にとって、「外国語」とは日本語と断絶するものという意識しかない

かもしれません。しかし、中国語の学習においては多くの点で日本語と似通う「外国語」なるものに出会うはずで、それもそのはず、いま私たちが使っている漢字はもちろん、その音や基本的な語彙など、すべて昔の中国語からそのまま借りてきたものですから。これは日本人が中国語を学ぶうえで非常に有利な点です。中国語学習にこれを利用しない手はありません。しかし逆に、落とし穴もこの便利さのなかにあります。従って安易な気持ちで学習を始めると手痛いしっぺ返しを受け、いつまでたっても「外国語」として上達できないということになります。

中国語Ⅰ・Ⅱでは、中国語の基礎的な運用能力を身につけることを目指します。これは学士力1(3)の言語リテラシーに相当します。また、中国語の学習を通して、中国語圏の文化・習慣などに対する理解を深め、中国語圏の人々とのコミュニケーションを行うために必要な基礎的な力も養成します。これは学士力3(1)の多様な文化と価値観を理解し、共生に向かう力にもつながります。

(1) 中国語Ⅰ a b全体の目標は、発音の基礎をマスターすることにあるといっても過言ではありません。

前期は、子音、母音から音節、そして単語、句のひとまとまりとしての発音、及びイントネーションの習得を中心に置き、ピンインによる読み書きが出来るようになることをめざします。後期からは、それを短い文にひろげていきます。もちろん、前後期とも、日常会話によく用いられるやさしい表現が教材に用いられ、実践にも役立つように目配りがされています。同時に基礎的な文法事項も漸次、説明がされていきます。中国語の授業では発音の習得が特に重視されるので、毎回全員が、一回以上はあたるでしょう。

(2) 中国語Ⅱ a bは、文章が初読で正確に発音できるようになることをめざします。また、中国語では語彙の果たす役割が大きいので、運用できる語彙を増やします。そして基礎的な表現が口をついて出るようになるまでトレーニングします。中国語特有の文法事項を日本語、英語との違いなどにも留意しながら理解していきます。教材はピンインつきのやさしい文から、次第にやや複雑な構造を持った文章に移っていきます。中国語Ⅰと同じく、中国語の背景にある中国文化、歴史、風俗習慣についても視野を拡げ、異文化理解への橋渡しとします。

◇科目概要 朝鮮語

本学の「朝鮮語」科目は、その関心を持つに至った動機やきっかけが何であれ、朝鮮半島に興味を抱く学生諸君に、体系的に朝鮮（韓国）語という言語を学ぶ場を提供します。すなわち、朝鮮語を用いて「簡単な会話が出来、平易な文章を読み書きできる」ようになるまでを指導いたします（「佐賀大学の学士力」1(3)①）。朝鮮語でもⅠからⅡへと、段階的に実力が身に付くように学習できます。

(1) 朝鮮語Ⅰ

今日、野球やサッカーといったスポーツ分野、あるいは芸能分野におけるコリアンの活躍は瞠目すべきものがあります。二十一世紀を迎えて、日本と朝鮮半島との人的・物的交流は、「キムチ」や「ビビンバ」という日常化した朝鮮語に示されるとおり、既に社会のあらゆる場所に浸透しています。同様に、北朝鮮（朝鮮民主主義人民共和国）の動向が日本の安全や外交に重大な影響を及ぼすことが明白になり、近年ますます朝鮮半島に関する情勢認識が必要とされています。

この「朝鮮語Ⅰ」では、朝鮮語の文字であるハングルの読み書きに始まり、徐々に単語・発音練習・基本文法・読解といった具合に授業内容がステップ・アップしていきます。この中で受講生諸君は、日本語と朝鮮語の言語構造の類似に驚くことでしょう。また、日本語にない発音・発声法にとまどいつつ、言葉の中に遺伝子のようにちりばめられている朝鮮半島に住む人たちの価値観・思考方法・生活文

化などに触れていくことになります。

(2) 朝鮮語Ⅱ

「朝鮮語Ⅰ」を履修した諸君は、引き続き「朝鮮語Ⅱ」においても語彙を増やし、文型を頭に入れます。そして、朝鮮語によるコミュニケーションが図れる段階に必要な基本的な会話フレーズを習得していきます。さらに、簡単な作文の練習も同時に行います。

あとは実際に韓国や北朝鮮を旅するのもよし、韓国人留学生と友達になるのも良いでしょう。また、辛い食事に舌鼓を打ち、彼の地の流行歌を口ずさむ。その日のためにも、この授業を大いに利用してもらいたいと思います。「好きこそものの上手なれ」です。

◇科目概要 日 本 語

「日本語Ⅰ」「日本語Ⅱ」

このコースは、外国人学部留学生を対象に、大学で専門を学んでいくうえで必要な読む力、書く力、話す力、聞く力を総合的に高めることを目標にしています。

基本的な文法項目の復習や専門書を読むための練習を行うとともに、レポートや論文を書くのに必要な論理的な文章の書き方を学習します。さらに、口頭発表や討論が行えるよう、話す技術を身につけるための練習をします。

これらの技術や技能を身につけ、ひいては、自分の意見や考えを論理的に的確に伝えられるようになってもらいたいと思います。

このコースは、佐賀大学学士力の1.基礎的な知識と技能の(3)言語・情報・科学リテラシーに該当します。

(注)「日本語Ⅰ」「日本語Ⅱ」は、それぞれプレースメントテストによるクラス分けを行います。プレースメントテストは各学期の1回目の授業日に行うので、必ず受験してください。

◆共通基礎教育科目（第9分野） 「健康・スポーツ科目」の概要

共通基礎教育科目「健康・スポーツ科目」の目的は、体育関連科学の研究成果を踏まえ大学教育の一環として、「身体と身体運動を通しての教育」というその独自の立場から、理論と実践の総合的な学習を通して、身体運動による健康への応用と生涯スポーツへの志向を目指しています。さらに授業としての教育活動だけでなく、課外スポーツ、健康管理及び各種運動プログラムサービスなど大学生活全体を通じての教育の場が考えられています。

「健康・スポーツ科目」ではその教育目的に応じて、健康科学講義、スポーツ科学講義、健康科学演習、スポーツ科学演習及びスポーツ実習などのプログラムが準備されています。以下にその概略を述べます。

◇健康科学講義

本講義は、健康について個人レベルから社会全体にいたる幅広く関連する知見を高めることをねらいとしています。具体的には健康論、生活習慣病、健康と食生活、性病やエイズの予防論、精神衛生、マインドコントロールなどについて最新の知見を基に健康に関する諸問題を論及します。また、高齢化社会におけるホスピスやターミナルケアなどへの対応、ウェルフェアの理念、対人援助や福祉に関連する諸問題とその本質についても論及します。これらの内容から健康を個人、個人間あるいは個人と社会の問題として捉え、学習します。

◇スポーツ科学講義

本講義は、からだと運動・スポーツの関係を自然科学的領域と人文・社会科学的領域とから広く知見を高

めることをねらいとしています。具体的には、運動・スポーツの心身への効果、動きの科学、スキルの科学、体力の科学、トレーニングの科学、コンディショニングの科学、スポーツと栄養、スポーツと用具の科学、スポーツと社会、スポーツと文化、女性とスポーツ、スポーツと人間行動などの中から最新の知見をもとに論及します。これらの内容から、健康で豊かな生活実践とその能力開発の方法を学習します。

◇健康科学演習とスポーツ科学演習

両演習は、体育学関連の自然科学的、人文・社会科学的な学術的知見をベースとして、ある課題に対してその基礎理論と実践的方法を併せて学習することによって、より効果的に健康・体力の維持・増進あるいはスポーツ行動における自己管理能力を習得させることをねらいとしています。具体的には、「健康科学演習」は、主に肥満、高血圧、糖尿病などの生活習慣病と運動あるいは疾患別運動療法を中心に実習します。一方「スポーツ科学演習」は、筋力や持久力などの基礎体力の向上、スポーツ競技能力に関連した要素の解析、スポーツ行動の分析などを中心に実習します。

以上の健康科学講義、スポーツ科学講義、健康科学演習及びスポーツ科学演習は、担当者の研究領域の違いによって、各々特徴のある講義・演習のプログラムが準備され、履修者の興味に応じて選択できるように配慮されています。

◇スポーツ実習

本実習は、履修者の希望に応じて各種スポーツを選択させ、生涯スポーツとして個人のライフステージにおいて適切なスポーツを楽しめるように、その実践能力を涵養・開発することをねらいとしています。また、実習の中ではスポーツ技術理論やスポーツ障害に対応した予防法、救急処置法などの指導も併せて行います。これらの内容から、安全で理に適ったスポーツ実践能力を向上させるとともに、スポーツによる仲間づくりやセルフコントロールを通しての人間性の陶冶も期待しています。

○「健康・スポーツ科目」《履修上の注意点》

1. 「健康・スポーツ科目」においては、履修学生は単なる受身ではなく、積極的な参加と協力的且つ真摯な受講態度が求められます。
2. 「健康・スポーツ科目」においては、「出席」が重要視されます。特にスポーツ実習において欠席は2回までとします。
3. スポーツ実習では、運動に適した衣服等を着用してください。例えばテニス受講者はテニスシューズを準備してください。また、用具等は大切に扱い整理整頓に努めてください。
4. 「健康・スポーツ科目」においては、その成績評価にあたって、出席状況、受講態度、筆記試験等、スキルテスト、レポートなどから「総合的」に評価します。

◆共通基礎教育科目情報処理科目の概要

各科目の基本目標は以下の通りです。それぞれの科目を通じて、佐賀大学学士力の 1. 基礎的な知識と技能 (3)言語・情報・科学リテラシー の「② 情報を収集し、その適正を判断でき、適切に活用・管理できる。」を修得します。

各科目のくわしい内容は、授業担当教員のシラバスをご覧ください。

情報基礎概論：情報に関する基本概念を学習するとともに、情報システムの動作原理を学びます。

情報基礎演習Ⅰ：(1)日常生活から専門分野までのさまざまな場面で情報機器を使用する現代社会において、情報や機器を使いこなし、安全かつ適切に使用するための基本的な能力を修得します。(2)専門教育の各分野

での利用を念頭に、情報システムの基礎的な使用方法を修得します。

情報基礎演習Ⅱ：計算機の基本ソフトウェア、プログラムについて理解し、情報システム及び応用ソフトに関する基礎的・共通的な使用方法を修得します。

共通専門教育科目の概要

教養教育運営機構では、学部間で共通する専門教育を実施するため、共通専門教育科目を開設します。共通専門教育科目には、特定プログラム教育科目の区分を設け、体系的に編成された共通専門教育を行います。

特定プログラム教育の科目を履修かつ修了するためには、学生自身が明確な目的意識を持ち、さらに最後まで強い勉強意欲を維持することが要求されます。しかし、その結果として、大きな達成感が得られること、また学部における専門教育との相乗効果が生まれることも期待できます。

ただし、専門教育科目として認定される単位数は、それぞれの学部・学科・選修で異なっていますので、注意して下さい。

◆特定プログラム教育科目 「デジタル表現技術教育科目」

この特定プログラム教育科目の「デジタル表現技術教育科目群」は、「デジタル表現技術教育プログラム」の必修科目です。このプログラムを受講していない学生は、受講できません。

本学は、表現能力の豊かな創造的人材育成を目指し、2009年4月より「デジタル表現技術者」の養成を目的とした「デジタル表現技術教育プログラム」を開講しました。全学部の学生を対象として開講されており、デジタルコンテンツ産業界を目指す人やデジタル表現技術を自分の研究領域に活用したい人、デジタル表現技術で文化や芸術表現を追及したい人のための新しい学習プログラムです。充実した環境と体系化されたカリキュラムにより、コンテンツ文化の理論から演習による作品制作の実践まで幅広く学ぶことができます。

このプログラムの専門科目である「デジタル表現技術教育科目群」は、形をつくることで本物のデジタル表現スキルを身につけるため、本格的な映像編集や3DCG作成ができる専用ソフトを備えた高機能のパソコン（OS:Macintosh）を使って、Webや映像、CG、音響作品を制作する、演習を重視した内容となっています。

◆特定プログラム教育科目 「障がい者就労支援コーディネーター教育科目」

この特定プログラム教育科目の「障がい者就労支援コーディネーター教育科目群」は、「障がい者就労支援コーディネーター養成プログラム」の必修科目で、「障がい特性と職業適性」、「就労支援実践と社会的諸制度」、「医療的ケアを必要とする障がい者の就労支援」、「職業適応促進と事例研究」の4つです。これらの科目は、本プログラムの受講申請をしていない学生は受講できません。

本学は、障がいの有無に関わらず、すべての人が同じ社会の構成員として生活を営む「共生社会」の構築を目指し、障がい者の就労を支援する人材を育成する「障がい者就労支援コーディネーター養成プログラム」を2010年4月より開講しました。

本プログラムは、全学部の学生を対象として開講されています。所属学部の専門科目に加えて、「障がい者就労支援コーディネーター養成プログラム」に関する科目を履修し、所定の単位を修得した学生には、本学認定の資格（障がい者就労支援コーディネーター）が交付されます。

本プログラムにおいて「障がい者就労支援コーディネーター」とは、障がい者の就労能力の発見と評価、就労先の業務との関係の分析と調整、就労意欲の向上などを図り、就労後も一定期間支援していく機能を有する専門家と位置づけています。すなわち、障がい者と就労先の間であって、カウンセリング能力、コンサルティング能力を有し、障がい者の潜在能力開発と人間的成長を目標において活動できる専門識者を示します。

「障がい者就労支援コーディネーター」の資格を取得した学生には、卒業後に各方面（企業、自治体、医療・福祉関連など）において、障がい者の就労支援を担う人材になってもらうことを期待しています。

このプログラムの専門科目である「障がい者就労支援コーディネーター教育科目群」では、障がいの特性（身体、知的、精神、高次脳機能障害など）に関する職業問題や職業特性、障がい者の就労支援を実践するための社会的諸制度などを学びます。また、医学部と連携して、継続的に医療的ケアが必要な障がい者の就労支援法を学び、最終的に事例研究を行い、障がい者に対する就労支援の理解を深め、スキルを高めることを目指します。

◆特定プログラム教育科目 「環境キャリア教育科目」

全学共通の教育プログラム「環境キャリア教育プログラム（別名 佐賀大学版環境教育プログラム）」は、検定や資格の取得、実習や実務研修などを通じて、環境に関する“スキル”と“マインド”及び“社会的資質”を育成するプログラムです。人と自然、人と社会、人と人の間の環境について広く学び、より良き社会の実現に資する人材の育成を目指しています。

環境キャリア教育科目群は、共通専門教育科目の中に特定プログラム教育科目の一つの区分として設定されています。「インターンシップ（環境）」（2単位）、「学内活動実習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ」（各1単位）の5単位から成っており、このプログラムに受講登録していない学生は受講できません。また、このプログラムの必修科目として、主題科目の枠の中で8科目が開講されています。この主題科目8科目についてはプログラムに登録していない学生も受講できます。

受講生は2年次にコースを選択して実習を行いますが、各コースごとに実習内容に応じて選択科目2科目（4単位）が開講されています。このコース選択科目は主題科目の枠で開講されており、当該コースを選択した受講生は必修ですが、プログラム以外の学生も受講できます。

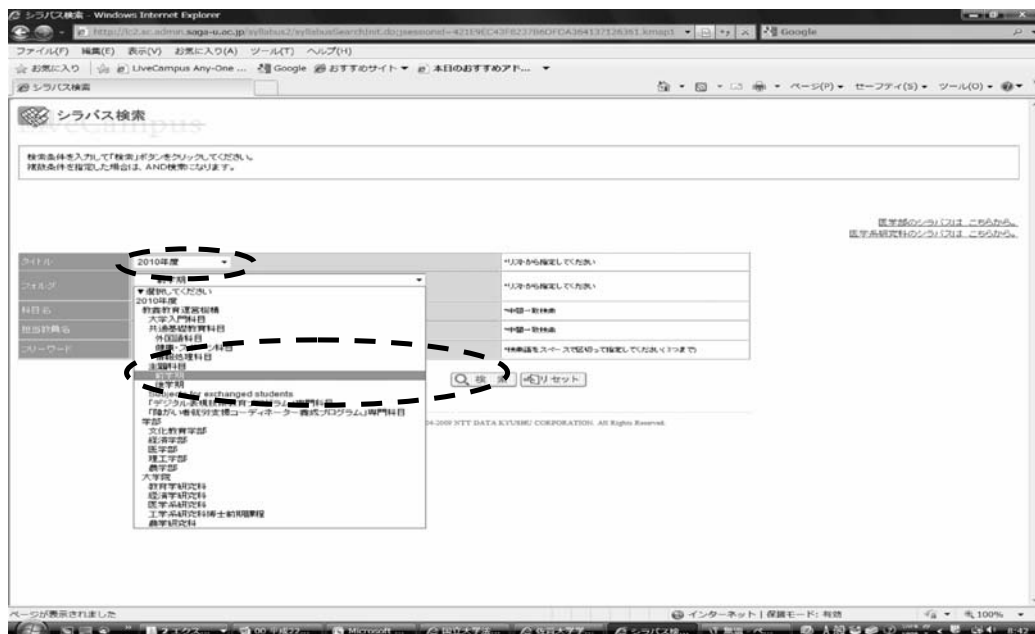
これら環境キャリア教育科目群（9単位）と主題科目6科目（12単位）及びコース選択科目（4単位）の計25単位を修得することにより修了証が発行されます。修了証の発行により、特に佐賀大学の学士力⁽³⁾に定める“個人と社会の持続的発展を支える力”である、(1)多様な文化と価値観を理解し共生に向かう力、(2)持続的な学習力と社会への参画力、(3)高い倫理観と社会的責任感、をバランス良く身に付けた学生であることを認定します。

修了証が発行されるためには、知識や技術を知るだけでは不十分であること、基礎知識を基礎としたグローバルな視点を持ち、ローカルかつ日常的な実践を通じて、具体的な諸問題について自分自身で取り組み、考えることが求められます。大学における皆さんの向上心に期待します。

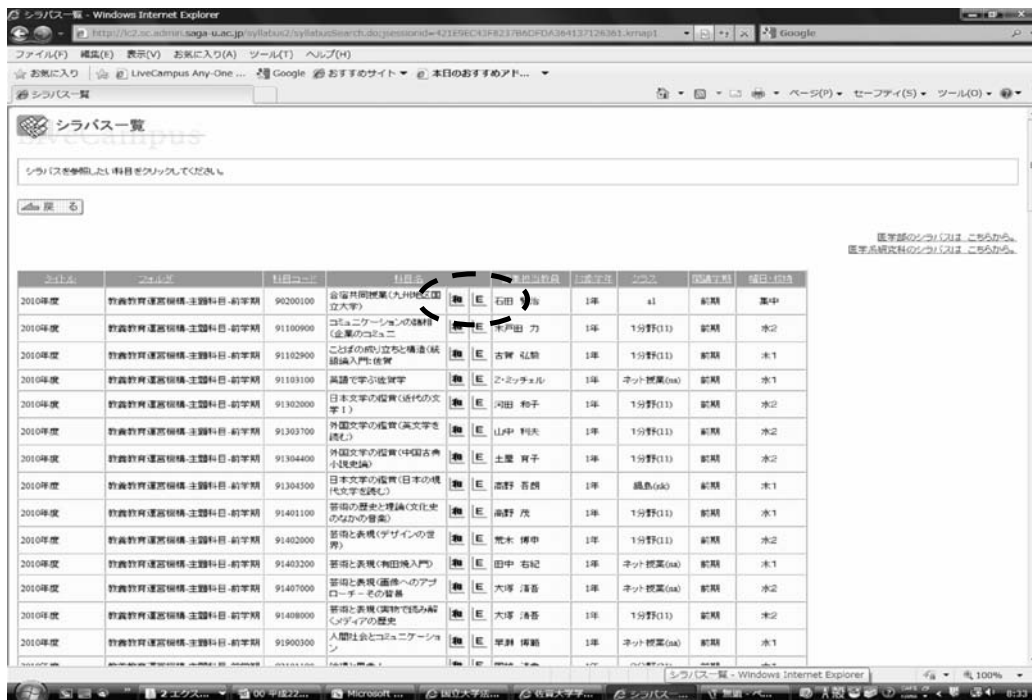
オンラインシラバス（授業概要）参照方法



佐賀大学学生センター HP (<http://www.sc.admin.saga-u.ac.jp/>) へアクセスし、左側の「オンラインシラバス」をクリックします。



シラバス検索画面が表示されますので、「タイトル」で2012年度を選び、フォルダのプルダウンボックスから、参照したい科目区分（例えば、主題科目>前学期）にカーソルをあわせ、「検索」ボタンを押してください。（科目名や担当教員名を入れなくても、選択した科目区分のシラバス一覧が表示されます。）



参照したい科目名の右の「和」をクリックで和文、「E」で英文のシラバスが表示されます。



開講科目一覧

履修登録を行う際は、この「履修の手引き」とともに学期毎に発行する「授業時間割表」、及び掲示板等を参照してください。

特に、共通基礎教育科目のクラス指定の方法は、授業科目毎に異なりますので、注意してください。主な例としては、次のようなものがあります。

- ・ 予め、申請した者を対象にクラス分けを行うもの。

英語N（ネイティブ）及び英語B（ベーシック）クラス。（掲示により周知します。）

なお、ドイツ語、フランス語のネイティブクラスは、履修登録時に登録すれば受講できます。（事前の申請は不要です。）

- ・ 学科・課程により曜日・校時を指定するもの。

大学入門科目、外国語科目、情報処理科目。（「授業時間割表」に記載しています。）

この内、英語は、さらに学籍番号によりクラス指定を行います。

- ・ 第1回目の授業で、クラス分けを行うもの。

健康・スポーツ科目。

第1回目の授業で、種目別にクラスを編成します。このため、健康・スポーツ科目は、他の共通基礎教育科目と異なり、クラス分けの後に登録手続きを行わなければなりません。

主題科目の履修登録について

「履修登録上の留意点」で述べたとおり、主題科目については抽選により受講者を決定します。決定までの流れは、次のとおりです。

- (1) 「主題科目受講希望申請書」を提出する。(1年次前学期)
Live Campus で抽選履修登録を行う。(1年次後学期以降)
- (2) 抽選結果の発表
 - ・抽選結果は、各自 Live Campus で確認してください。
 - ・当選した科目を受講する場合は、これで登録手続き完了です。
- (3) 抽選結果発表後の「削除」、「追加」
 - ・抽選結果発表後、当選した主題科目の履修を取り消したい場合は、他の科目と同様に Live Campus の履修登録画面で取り消すことができます。
 - ・抽選の結果及び前述の削除で欠員が生じた科目は、「追加」募集を行います。希望していた科目の全てが当選しなかったが、他の主題科目を受講したい、あるいは、当初、抽選履修登録をしていなかったが主題科目を受講したい場合などには、欠員がある科目を Live Campus の履修登録画面で登録することができます。なお、「抽選履修登録」期間、「削除」・「追加」期間は、掲示により周知します。

大学入門科目

(通年)

授業科目	担当教員	指定クラス			学期	曜日・校時	単位数
		学 部	学 科	対象年次			
医療入門Ⅰ	酒 見 隆 信	医学部	医学科	1年	通年	金3	4

(前学期)

授業科目	担当教員	指定クラス			学期	曜日・校時	単位数
		学 部	学 科	対象年次			
大学入門科目	中 村 博 和	経済学部	経済システム課程	1年	前学期	月1	2
大学入門科目	木戸田 力	経済学部	経営・法律課程	1年	前学期	月1	2
大学入門科目	山 下 壽 文	経済学部	経営・法律課程	1年	前学期	月1	2
大学入門科目	奥 村 浩 浩	理工学部	知能情報システム学科	1年	前学期	月1	2
大学入門科目	半 田 賢 司	理工学部	数理科学科	1年	前学期	月4	2
大学入門科目	品 川 優 優	経済学部	経済システム課程	1年	前学期	月5	2
大学入門科目	田 川 正二郎	経済学部	経済システム課程	1年	前学期	月5	2
大学入門科目	早 川 洋 一	農学部	応用生物科学科	1年	前学期	月5	2
大学入門科目	原 口 智 和	農学部	生物環境科学科	1年	前学期	月5	2
大学入門科目	林 信 行	農学部	生命機能科学科	1年	前学期	月5	2
大学入門科目	角 和 博	文化教育学部	学校教育課程	1年	前学期	火1	2
大学入門科目	米 倉 茂 茂	経済学部	経済システム課程	1年	前学期	火1	2
大学入門科目	中 西 一 一	経済学部	経済システム課程	1年	前学期	火1	2
大学入門科目	谷 晶 紅 紅	経済学部	経済システム課程	1年	前学期	火1	2
大学入門科目	納 富 一 郎	経済学部	経済システム課程	1年	前学期	火1	2
大学入門科目	中 山 泰 道	経済学部	経営・法律課程	1年	前学期	火1	2
大学入門科目	松 尾 陽 好	経済学部	経営・法律課程	1年	前学期	火1	2
大学入門科目	上 野 景 三	文化教育学部	学校教育課程	1年	前学期	火2	2
大学入門科目	撫 尾 知 信	文化教育学部	学校教育課程	1年	前学期	火2	2
大学入門科目Ⅰ	鄭 旭 光 光	理工学部	物理科学科	1年	前学期	火2	2
看護学入門	井 上 範 江	医学部	看護学科	1年	前学期	火2,金2	2
大学入門科目	橋 本 正 昭	文化教育学部	学校教育課程	1年	前学期	水2	2
大学入門科目	真 田 英 進	文化教育学部	学校教育課程	1年	前学期	水2	2
大学入門科目	庄 田 敏 宏	文化教育学部	学校教育課程	1年	前学期	水2	2
大学入門科目	山 本 千 洋	文化教育学部	国際文化課程	1年	前学期	水2	2
大学入門科目	相 澤 照 明	文化教育学部	国際文化課程	1年	前学期	水2	2
大学入門科目	張 韓 模 模	文化教育学部	国際文化課程	1年	前学期	水2	2
大学入門科目	後 藤 正 英	文化教育学部	国際文化課程	1年	前学期	水2	2
大学入門科目	岡 島 俊 哉	文化教育学部	人間環境課程	1年	前学期	水2	2
大学入門科目	北 川 慶 子	文化教育学部	人間環境課程	1年	前学期	水2	2
創造工学入門	泉 清 高 高	理工学部	機械システム工学科	1年	前学期	木1	2
大学入門科目	平 瀬 有 人	理工学部	都市工学科	1年	前学期	木2	2
大学入門科目	田 中 豊 治	文化教育学部	人間環境課程	1年	前学期	木3	2
大学入門科目	豊 田 一 彦	理工学部	電気電子工学科	1年	前学期	木3	2
大学入門科目	丸 谷 浩 介	経済学部	経営・法律課程	1年	前学期	木4	2
大学入門科目	安 田 伸 一	経済学部	経営・法律課程	1年	前学期	木4	2
大学入門科目	角 縁 進 進	文化教育学部	学校教育課程	1年	前学期	木5	2
大学入門科目	都 築 治 彦	経済学部	経済システム課程	1年	前学期	金1	2
大学入門科目	平 地 一 郎	経済学部	経営・法律課程	1年	前学期	金1	2
大学入門科目	小 西 みも恵	経済学部	経営・法律課程	1年	前学期	金1	2
大学入門科目	吉 住 磨 子	文化教育学部	美術・工芸課程	1年	前学期	金3	2
大学入門科目	大 渡 啓 介	理工学部	機能物質化学科	1年	前学期	金5	2

(後学期)

授業科目	担当教員	指定クラス			学期	曜日・校時	単位数
		学 部	学 科	対象年次			
大学入門科目Ⅱ	高 橋 智 智	理工学部	物理科学科	1年	後学期	金5	2
大学入門科目Ⅱ	青 木 一 一	理工学部	物理科学科	1年	後学期	金5	2
大学入門科目Ⅱ	河野宏明(工)	理工学部	物理科学科	1年	後学期	金5	2
大学入門科目Ⅱ	橘 基 基	理工学部	物理科学科	1年	後学期	金5	2
大学入門科目Ⅱ	米 山 博 志	理工学部	物理科学科	1年	後学期	金5	2
大学入門科目Ⅱ	船久保 公 一	理工学部	物理科学科	1年	後学期	金5	2

主 題 科 目

分野別主題科目

〔第1分野 文化と芸術〕

副主題 〔授業区分〕	授業科目	単位	担当教員	所属学部	平成24年度	
					前学期	後学期
言語とコミュニケーション 〔コア授業〕	ことばの成り立ちと構造 (外国語としての日本語)	2	丹羽 順子	留学生センター	○	
	(外国語で生きる私-外国語習得の物語を読む)	2	中山亜紀子	留学生センター		○
	(Field method in linguistics)	2	古賀 弘毅	留学生センター	○	
	(統語論入門：佐賀西部方言を初期射程にして)	2	古賀 弘毅	留学生センター	○	
	(言語教育におけるテストと評価)	2	吉川 達	留学生センター	○	
	コミュニケーションの諸相 (企業のコミュニケーション)	2	木戸田 力	経済	○	
	(ディベート)	2	佐長 健司	文教		○
文学の世界 〔コア授業〕	日本文学の鑑賞 (古典文学Ⅰ)	2	藪 敏晴	非常勤		○
	(日本古典文学と文化)	2	今野 厚子	文教		
	(近代の文学Ⅰ)	2	河田 和子	非常勤	○	○
	(近代の文学Ⅱ)	2	長澤 雅春	非常勤		○
	(日本近代の文学思想)	2	浦田 義和	文教	○	
	(日本の現代文学を読む)	2	高野 吾朗	医	○鍋	
芸術と創造 〔コア授業〕	芸術の歴史と理論 (文化史の中の音楽)	2	高野 茂	文教	○	
	(美術と心理)	2	栗山 裕至	文教		○
	(彫刻の見方)	2	徳安 和博	文教		○
	生活と芸術 (視覚と聴覚の認知科学)	2	奥村 浩	理工		○
	(音楽と人間)	2	荒巻 治美	文教	○	
	(ポップカルチャー論)	2	上田 政夫	文教		○
	芸術と表現 (有田焼入門)	2	田中 右紀	文教	○	
	(画像へのアプローチその背景と視点一)	2	大塚 清吾	非常勤	○	
	(デザインの世界)	2	荒木 博申	文教	○	
	(建築デザイン)	2	平瀬 有人	理工		○
	(映画製作)	2	西村雄一郎	非常勤	○	
	(デジタル表現技法)	2	西村雄一郎	非常勤		○
(現代音楽研究)	2	橋本 正昭	文教		○	
〔個別授業〕	アカデミックプレゼンテーション	2	山田 智久	留学生センター	○	
	シナリオ入門	2	柴田 喜幸	非常勤	集中	
	伝統工芸と匠	2	大塚 清吾	非常勤		○
	教育デジタル表現	2	藤井・穂屋下	高等教育開発センター	○	
	プロデューサー原論	2	穂屋下・藤井	高等教育開発センター		○
	インストラクショナル・デザイン	2	角・藤井	文教		○
〔総合型授業〕	人間社会とコミュニケーション	2	早瀬 博範	文教	○	○

〔第2分野 思想と歴史〕

副主題 〔授業区分〕	授 業 科 目	単位	平成24年度		担当教員	
			前学期	後学期	氏 名	所属学部
人間・社会 と思想 〔コア授業〕	西洋思想の源流	2		○	山本 千洋	文教
	中国古代の思想	2		○	近藤 則之	文教
	思想の社会史	2		○	諸泉 俊介	文教
	論理と思考Ⅰ	2	②		国越 道貴	非常勤
	論理と思考Ⅱ	2		②	国越 道貴	非常勤
	生命と倫理	2	○		中本 幹生	非常勤
	環境と倫理	2	○		中本 幹生	非常勤
	人間学Ⅰ（哲学）	2	○鍋		宮本 均	非常勤
人間学Ⅲ（宗教学）	2	○鍋		藤谷 隆之	非常勤	
歴史と 異文化理解 〔コア授業〕	考古学から見た佐賀と東アジアⅠ	2	○		七田 忠昭	非常勤
	考古学から見た佐賀と東アジアⅡ	2		○	七田 忠昭	非常勤
	古文書の語る日本史	2		○	宮島 敬一	経済
	日本近世の社会と経済	2	○		伊藤 昭弘	地歴セ
	江戸時代の医学と医療	2		○	青木 歳幸	地歴セ
	ヨーロッパ中世史	2		○	都築 彰	文教
	国際環境史	2		②	渡邊 智明	非常勤
	日本社会と女性の地位	2	○		宮島 敦子	文教
	日本工芸史	2	○		田中 嘉生	文教
	都市デザイン史	2	○		三島 伸雄	工学系
	東アジアの歴史と社会	2		○	佐々木 揚	文教
	吉野ヶ里学	2		○	重藤・穂屋下	文教
	佐賀大学とアジアの近代史	2	○		永島 広紀	文教
	ヨーロッパの歴史教育	2	○		宇都宮明子	文教
〔総合型授業〕	チャレンジ佐賀学	2		○	青木 歳幸	地歴セ
	文化創成学Ⅰ	2	○		木原・相原	文教
	文化創成学Ⅱ	2	○		木原・相原	文教
	環境原論	2	○		速水・岡島	文教

〔第3分野現代社会の構造〕

副主題 〔授業区分〕	授 業 科 目	単位	平成24年度		担当教員	所属学部	
			前学期	後学期			
現代の国際社会と 環境〔コア授業〕	現代の国際社会（環境問題と法）	2		○	張本 燦	文化教育	
	現代の環境問題（中国の都市化と環境問題）	2	○		李 海峰	理工学部	
現代の政治 〔コア授業〕	行政と政治（現代日本の政治）	2	○		畑山 敏夫	経済学部	
	現代の法と社会	（日本国憲法）	2	○		兼重賢太郎	（非常勤）
		（日本国憲法）	2	○		兼重賢太郎	（非常勤）
		（日本国憲法）	2	○		城下健太郎	（非常勤）
		（日本国憲法）	2		○	兼重賢太郎	（非常勤）
		（日本国憲法）	2		○	兼重賢太郎	（非常勤）
		（日本国憲法）	2		○	城下健太郎	（非常勤）
		（環境と法）	2	○		檜沢 秀木	経済学部
（家族と法）	2		○	栗林 佳代	経済学部		
現代の経済 〔コア授業〕	現代の経済	（経済統計概論）	2		○	上山 和俊	経済学部
		（現代経済地理学入門）	2	○		戸田順一郎	経済学部
	現代の経営	（労使関係論）	2	○		平地 一郎	経済学部
		（現代企業経営入門）	2		○	大坪 稔	経済学部
		（現代の流通）	2		○	宮崎 卓朗	経済学部
		（経営の理論と歴史）	2		○	山本 長次	経済学部
		（現代の経営と会計）	2		○	山形 武裕	経済学部
現代の日本経済	（食糧の生産と流通）	2	○		白武 義治	農学部	
現代の日本社会 〔コア授業〕	現代の社会	（社会政策学のあゆみ）	2	○		森 周子	経済学部
		（現代の家族）	2		○	赤星 礼子	文化教育
		（日本の人権問題）	2	○		松下 一世	文化教育
	現代の産業社会（企業と社会）	2		○	松尾 陽好	経済学部	
〔個別授業〕	ジャーナリズムの現在～地方紙の役割とメディアリテラシー～	2		○	山形 武裕他	経済他	
〔総合型授業〕	人間社会とコミュニケーション	2	○		早瀬 博範	文化教育	
	人間社会とコミュニケーション	2		○	早瀬 博範	文化教育	
	チャレンジ佐賀学	2		○	青木 歳幸	地学研センター	
	キャリアデザイン～自分発見講座～	2		○	緒方 正嗣	キャリアセンター	
	21世紀のエネルギーと環境問題	2	○		池上 康之	海エネ	
	チャレンジ・ベンチャービジネスⅠ	2	○		佐藤 三郎	産学連携	
	チャレンジ・ベンチャービジネスⅡ	2		○	佐藤 三郎	産学連携	
	インキュベート研究	2	○		佐藤 三郎	産学連携	
	環境科学Ⅰ	2	○		岡島 俊哉	文教	
	環境科学Ⅱ	2	集中		鈴木・岡島	非常勤・文教	
	環境科学Ⅲ	2		集中	岡島・鈴木	文教・非常勤	
	実践型キャリアデザインⅠ	2	○		岡島 他	文教他	
	環境原論	2	○		速水・岡島	低平地・文教	
	環境会計	2		○	小川 哲彦	経済	
	環境経営学	2	集中		辻井・小川	非常勤・経済	
	環境保全概論Ⅰ	2	集中		上野・速水	農・低平地	
	環境保全概論Ⅱ	2		○	兒玉 宏樹	農・低平地	
	作業環境測定概論	2	○		兒玉 宏樹	総合分析	
	資源循環論Ⅰ	2	○		染谷 他	農他	
	資源循環論Ⅱ	2		○	染谷 他	農他	
	教員のための環境教育	2		○	岡島 俊哉	文教	

〔第4分野 人間環境と健康〕

副主題 〔授業区分〕	授 業 科 目	単位	平成24年度		担当教員	所属学部	
			前学期	後学期			
生活と健康 〔コア授業〕	生活の科学 (住環境の科学)	2		○	小島 昌一	理工	
	(被服と健康)	2	○		甲斐今日子	文教	
	食品の科学 (栄養機能科学)	2		集中	岡島 俊哉	文教	
	食生活と健康 (食生活と衛生)	2		○	濱 洋一郎	農	
	(生活と有機化学)	2	○		竹下 道範	理工	
	(肥満と脂質代謝)	2		○	戸田 修二	医	
	年齢と健康 (薬の話)	2		○・鍋	藤戸 他	医	
(ライフスタイルと健康)	2	○		大田 他	医		
健康と社会 (疫学入門)	2		○	久野 建夫	文教		
心とからだ 〔コア授業〕	心の科学 (心の個人差)	2		○	池田 行伸	文教	
	(発達障害と神経心理学)	2		○	池田・松尾	文教・医	
	(基礎心理学)	2		○・鍋	村久保雅孝	医	
	(脳と心)	2	○		増子 他	医	
	心の発達 (心の発達過程)	2	○		池田 行伸	文教	
	(心の思想史)	2		○	大元 誠	文教	
	心身の病 (心身の障害)	2	○		眞田 英進	文教	
からだのしくみ (生体侵入者と防御)	2	○		宮本・木本	医		
(性差の科学)	2	○・鍋		齋藤 他	医		
発達と環境 〔コア授業〕	教育のしくみ (障害児の教育と福祉)	2		○	芳野 正昭	文教	
	教育の実際 (教育実践学)	2	○		倉本 哲男	文教	
	(「テスト」を科学的に考える)	2		○	西郡 大	アドミッション	
	(学習障害と授業) (旧・授業を考える)	2	○		園田 貴章	文教	
子どもの発達と 支援 〔コア授業〕	子どもの病気 (子どもの病気と子育て)	2		○	藤田 一郎	文教	
	子どもの支援 (発達障害・心身症と小児医療)	2	○		藤田 一郎	文教	
	(発達障害と不登校への心理・教育支援)	2		○	園田 他	文教	
	(児童福祉施設の目的と役割)	2	○		松山・山口	文教	
(家族支援と子育てスキル)	2		○	藤田 他	文教		
〔個別授業〕	人類学	2	○・鍋		菊池・川久保	医	
	人間環境科学 (旧：環境科学-EA21と環境報告書を知る-)	2		○・鍋	寺東 宏明	医	
	環境科学Ⅰ	2	○		岡島 俊哉	文教	
	環境科学Ⅱ	2	集中		鈴木・岡島	非常勤・文教	
	環境科学Ⅲ	2		集中	岡島・鈴木	文教・非常勤	
	実践型キャリアデザインⅠ	2	○		岡島 他	文教他	
	環境原論	2	○		速水・岡島	低平地・文教	
	環境科学Ⅳ-環境報告書を作成する-	2		集中	岡島 俊哉	文教	
	環境会計	2		○	小川 哲彦	経済	
	環境経営学	2	集中		辻井・小川	非常勤・経済	
	環境保全概論Ⅰ	2	集中		上野・速水	農・低平地	
	環境保全概論Ⅱ	2		○	兒玉 宏樹	農・低平地	
	衛生管理概論	2		○	寺東 宏明	総合分析	
	作業環境測定概論	2	○		兒玉 宏樹	総合分析	
	資源循環論Ⅰ	2	○		染谷 他	農他	
	資源循環論Ⅱ	2		○	染谷 他	農他	
	ニュートリション&フィットネス	2	○・鍋	○・鍋	西田 他	医・文教	
	高齢者や障がい者への生活・就労支援概論-医工福祉連携による展開-	2	○		堀川 他	医	
	障がい者就労支援の諸理論	2	集中		堀川 他	医・非常勤	
	各種支援におけるカウンセリングの基礎と応用	2		○	堀川 悦夫	医	
	テクニカルエイド・コミュニケーションエイド概論	2		○	井出 他	高等教育・非常勤	
	遊具を活用した障害児の発育促進	2		○・鍋	松尾・井出	医	
	医療人キャリアデザイン	2	○・鍋		吉田・増子 他	医	
	医学研究の勧め	2		○・鍋	市場 他	医	
	身体表現入門	2	集中		青柳 達也	非常勤	
	〔総合型授業〕	人間社会とコミュニケーション	2	○	○	早瀬 博範	文教
		チャレンジ佐賀学	2		○	青木 歳幸	文教
キャリアデザイン～自分発見講座～		2		○	緒方 正嗣	キャリア	

〔第5分野 数理と自然〕

副主題 〔授業区分〕	授 業 科 目	単位	平成24年度		担当教員	所属学部
			前学期	後学期		
数理の世界 〔コア授業〕	代数と離散数理	2	○		宮崎 誓	工学系
		2		○	寺井 直樹	文教
	図形の幾何	2	○		猿子 幸弘	工学系
		2		○	前田 定廣	工学系
	連続と変化	2	○		梶木屋龍治	工学系
		2		○	猿子 幸弘	工学系
	ゆらぎの数理	2		○	日比野雄嗣	工学系
	情報のしくみ	2		○	只木 進一	工学系他
		2		○	渡邊 義明	工学系
		2	○		上原 健	工学系
物質の科学 〔コア授業〕	力と運動	2		○	橘 基	工学系
		2	○	○	河野 宏明	工学系
	波動と電磁気	2	○		遠藤 隆	工学系
		2	○		大隅 秀晃	文教
		2		○	石渡 洋一	工学系
	熱と物質	2	○		豊島 耕一	工学系
		2		○	佐藤 寛之	文教
		2	○		平良 豊	工学系
		2		○	真木 一	工学系
	ミクロの世界	2	○		船久保公一	工学系
	2		○	遠藤 隆	工学系	
分子と原子	2		○	山田 泰教	工学系	
	2	○		海野 雅司	工学系	
身のまわりの科学 〔コア授業〕	生活の化学	2	○		鯉川 雅之	工学系
		2	○		中島 道夫	文教
		2		○	滝澤 登	工学系
		2		○	花本 猛士	工学系
		2	○		兒玉 宏樹	分析C
自然と生命 〔コア授業〕	宇宙と地球の科学	2	○		角縁 進	文教
	生命と物質	2		○	兒玉 浩明	工学系
		2	○		大渡 啓介	工学系
	生命の科学	2	○		鈴木章・早川	農
		2		○	谷本 静史	農
	2		○	嬉 正勝	文教	
〔個別授業〕	多段階決定問題	2	○		清田 勝	工学系
	非ユークリッド幾何学入門	2		○	河合 茂生	文教
	曲がった空間上の幾何学Ⅰ	2	○		庄田 敏宏	文教
	基礎数学	2	○		市川 尚志	工学系
	基礎力学	2	○		遠藤 隆	工学系
	生物学の歴史	2		○	世波 敏嗣	文教
	実験生物学	2	○		野間口真太郎	農
	やさしい実験化学Ⅰ	2	○		滝澤 登他	工学系
	やさしい実験化学Ⅱ	2		○	滝澤 登他	工学系
	基礎化学	2		○	北村 二雄	工学系
	データ解析入門	2		○・鍋	竹生 政資	医
	生体分子と酵素	2	○・鍋		鄭 文玉	医
	ライフサイエンスの物理学	2		○・鍋	富永 広貴	医
	実験動物学	2	○・鍋		北嶋 修司	総合分析C
	総合型授業	21世紀のエネルギーと環境問題	2	○		池上 康之
身近な環境—知ろう・見よう・考えよう—		2	集中		宮島・兒玉	工学系
身近な環境—調べよう・深めよう・伝えよう—		2		集中	宮島・兒玉	工学系
環境科学Ⅰ		2	○		岡島 俊哉	文教
環境科学Ⅱ		2	集中		鈴木・岡島	非常勤・文教
環境科学Ⅲ		2		集中	岡島・鈴木	文教・非常勤
実践型キャリアデザインⅠ		2	○		岡島 他	文教他
環境原論		2	○		速水・岡島	低平地・文教
環境会計		2		○	小川 哲彦	経済
環境経営学		2	集中		辻井・小川	非常勤・経済
環境保全概論Ⅰ		2	集中		上野・速水	農・低平地
環境保全概論Ⅱ		2		○	兒玉 宏樹	農・低平地
作業環境測定概論		2	○		兒玉 宏樹	総合分析
資源循環論Ⅰ		2	○		染谷 他	農他
資源循環論Ⅱ		2		○	染谷 他	農他
教員のための環境教育		2		○	岡島 俊哉	文教
基礎生物		2	○		穴井 豊昭	農
プログラミング表現		2	○		高崎 光浩	医

〔第6分野 科学技術と生産〕

副主題 〔授業区分〕	授 業 科 目	単位	平成24年度		担当教員	所属学部	
			前学期	後学期			
技術の歴史 〔コア授業〕	エネルギーと環境問題	2	○		門出・今井	海エネ	
	環境保全の技術の歴史	2	○		古賀・荒木	工学系・低平地	
	エレクトロニクスの歴史	2		○	西尾 光弘	工学系	
資源とエネルギー 〔コア授業〕	エネルギー貯蔵とセラミック材料	2	○		野口・中村	工学系	
	身近な電子セラミックス	2	○		渡・矢田	工学系	
	海洋工学入門	2		○	豊田・永田	海エネ	
	エネルギー原論	2	○		池上 康之	海エネ	
ハイテクノロジー と生産 〔コア授業〕	セラミックスの不思議	2	○	○	渡 孝則	工学系	
	分子を操るテクノロジー	2	○		大石 祐司	工学系	
	健康に役立つ植物の科学	2		○	石丸 幹二	農	
	新しい植物を創るー植物分子生物学入門	2		○	穴井豊昭	農	
	暮らしの中の酵素	2	○		光富・関	農	
	水のはなし	2		○	林 信行	農	
	光とハイテク技術	2	○		高橋 和敏	シンクロ	
生産と環境 〔コア授業〕	ヒトと環境の生物学	2		○	染谷・上野	農	
	病原体のはなし	2	○		大島・草場	農	
	環境をはかる	2		○	山西 博幸	低平地	
	金属資源と環境	2	○		川喜田英孝	工学系	
〔個別授業〕	やさしい材料力学	2		○	萩原・服部	工学系	
	やさしい流体機械	2		○	松尾 繁	工学系	
	ITを支える機械システム技術	2		○	辻村 健	工学系	
	やさしいコンピューターシミュレーション	2		○	只野・武富	工学系	
	やさしい金属工学	2	○		森田 繁樹	工学系	
	わかりやすい機構学	2	○	○	穂屋下 茂	高等教育	
	LSIや太陽電池の構造と原理	2	○		大津 康徳	工学系	
	身の回りにおける流れの力学	2		○	橋本 時忠	工学系	
	ジオフロントー地下空間の開発ー	2	○		石橋 孝治	工学系	
	地震と構造物	2	○		井嶋 克志	工学系	
	栽培植物の世界	2		○	有馬・鄭	農・海浜	
	雑草のはなし	2		○	堀元 栄枝	農	
	光デバイスののはなし	2		○	田中 徹	工学系	
	生命の分子デザイン	2		○	渡邊 啓一	農	
	農業の現場を知ろう	2		○	尾野・上埜	フィールド	
	高等植物の光合成	2		○	野瀬 昭博	農	
	くらしのなかの生命科学	2		○	和田 康彦 他	農	
	モバイル通信	2		○	豊田 一彦	工学系	
	土壌科学入門	2	○		宮本 英揮	農	
	電波とレーダーの基礎	2	○		田中 高行	工学系	
	家畜の生産技術	2		○	山中 賢一	農	
	通信のしくみ	2	○		佐々木伸一	工学系	
	ハイパワーテクノロジー	2	○		猪原 哲	工学系	
	医用エレクトロニクスのはなし	2	○		木本 晃	工学系	
	たのしい実験化学Ⅰ	2	○		野口 他	工学系	
	たのしい実験化学Ⅱ	2		○	川喜田 他	工学系	
	知的財産学	2		○	寺本 顕武	工学系	
	〔総合型授業〕	キャリアデザイン～自分発見講座～	2		○	緒方 正嗣	キャリア
		教員のための環境教育	2		○	岡島 俊哉 他	文教
		チャレンジ・ベンチャービジネスⅠ	2	○		佐藤 三郎	産学連携
チャレンジ・ベンチャービジネスⅡ		2		○	佐藤 三郎	産学連携	
インキュベート研究		2	集中		佐藤 三郎	産学連携	
21世紀のエネルギーと環境問題		2	○		池上 康之	海エネ	
環境科学Ⅰ		2	○		岡島 俊哉	文教	
環境科学Ⅱ		2	集中		鈴木・岡島	非常勤・文教	
環境科学Ⅲ		2		集中	岡島・鈴木	文教・非常勤	
実践型キャリアデザインⅠ		2	○		岡島 他	文教他	
環境原論		2	○		速水・岡島	低平地・文教	
環境会計		2		○	小川 哲彦	経済	
環境経営学		2	集中		辻井・小川	非常勤・経済	
環境保全概論Ⅰ		2	集中		上野・速水	農・低平地	
環境保全概論Ⅱ		2		○	兒玉 宏樹	農・低平地	
作業環境測定概論		2	○		兒玉 宏樹	総合分析	
資源循環論Ⅰ		2	○		染谷 他	農他	
資源循環論Ⅱ		2		○	染谷 他	農他	

共通主題科目

〔第1分野 地域と文明〕

副主題 〔授業区分〕	授 業 科 目	単位	平成24年度		担当教員	所属学部
			前学期	後学期		
地域とくらし	身近な環境－知ろう・見よう・考えよう－	2	○集		宮島・兒玉	工学系・総合分析
	身近な環境－調べよう・深めよう・伝えよう－	2		○集	宮島・兒玉	工学系・総合分析
	地域の環境－森・川・海を繋ぐ環境と暮らし	2	○水2	○集	宮島 徹	工学系学部
	生きものから有明海を探る	2	○		谷本 静史	農学部
	佐賀の農業を考える	2	○		辻 一成	農学部
	進学・就職の地域間移動にみる佐賀	2		○	村山 詩帆	高等教育セ
	有明海の自然と環境	2	○		片野・速水・濱田	低平地セ
	日本近世の地域社会	2		○	伊藤 昭弘	地域学セ
	地域の蘭学	2	○		青木 歳幸	地域学セ
	佐賀大学の魅力を伝える－大学広報の企画と実践		木1		西郡 大	アドミッション
佐賀の文化	佐賀の考古学と文化財保護	2		○	重藤 輝行	文教
	医療科学史	2	○鍋		青木 歳幸	地域学セ
〔総合型授業〕	環境原論	2	木2		速水・岡島	低平地・文教
	教員のための環境教育	2		○	岡島 俊哉	文教

九州地区国立大学間合宿共同授業

授 業 科 目	単位	平成24年度		担当教員	
		前学期	後学期	氏名	所属学部
合宿共同授業	2	○		未定	未定

外国人留学生のための授業科目

授 業 科 目	単位	平成24年度		担当教員	
		前学期	後学期	氏名	所属学部
日本事情Ⅰ	2		○	相澤 照明	文化教育学部
日本事情Ⅱ	2	○		富田 義典	経済学部

外国語科目

外国語科目（英語） 前学期（1年次対象）

授業科目	担当教員	指定クラス			学期	曜日・校時	単位数
		学部	学科	対象年次			
英語	郡山桂子	理工学部	都市工学科	1年	前期	月2	1
英語	江口京子	理工学部	電気電子工学科	1年	前期	月2	1
英語	田中秀文	理工学部	電気電子工学科	1年	前期	月2	1
英語	廣田恵美	理工学部	都市工学科	1年	前期	月2	1
英語	下仮屋 翔	理工学部	機能物質化学科	1年	前期	月3	1
英語	江口京子	理工学部	機能物質化学科	1年	前期	月3	1
英語	田中秀文	理工学部	機能物質化学科	1年	前期	月3	1
英語M	ジョンソン モクスン	医学部	看護学科	1年	前期	火1	1
英語M	高野吾朗	医学部	看護学科	1年	前期	火1	1
英語M	アラン・ボーマン	医学部	医学科	1年	前期	火2	1
英語M	テレンス・フェルナー	医学部	医学科	1年	前期	火2	1
英語M	高野吾朗	医学部	医学科	1年	前期	火2	1
英語	熊本千明	経済学部	経済システム課程	1年	前期	火3	1
英語	松尾直美	経済学部	経済システム課程	1年	前期	火3	1
英語	石田由希	経済学部	経済システム課程	1年	前期	火3	1
英語	小野浩司	全学部	共通	1年	前期	水1	1
英語N	アラン・ボーマン	経済学部	共通	1年	前期	水4	1
英語N	コールマン・サウス	経済学部	共通	1年	前期	水4	1
英語N	ダナ・アンゴープ	経済学部	共通	1年	前期	水4	1
英語N	テレンス・フェルナー	経済学部	共通	1年	前期	水4	1
英語N	メイヤーホッフ	経済学部	共通	1年	前期	水4	1
英語N	コールマン・サウス	理工学部	数理、物理、知能情報	1年	前期	水5	1
英語N	ダナ・アンゴープ	理工学部	数理、物理、知能情報	1年	前期	水5	1
英語N	テレンス・フェルナー	理工学部	数理、物理、知能情報	1年	前期	水5	1
英語N	メイヤーホッフ	理工学部	数理、物理、知能情報	1年	前期	水5	1
英語M	コールマン・サウス	医学部	看護学科	1年	前期	木2	1
英語M	高野吾朗	医学部	看護学科	1年	前期	木2	1
英語	進藤 範子	理工学部	機械システム工学科	1年	前期	木2	1
英語	藤瀬 信子	理工学部	機械システム工学科	1年	前期	木2	1
英語N	アラン・ボーマン	農学部	共通	1年	前期	木5	1
英語N	コールマン・サウス	農学部	共通	1年	前期	木5	1
英語N	ダナ・アンゴープ	農学部	共通	1年	前期	木5	1
英語N	テレンス・フェルナー	農学部	共通	1年	前期	木5	1
英語N	メイヤーホッフ	農学部	共通	1年	前期	木5	1
英語	青木 ローラ	理工学部	数理科学科	1年	前期	金1	1
英語	鈴木 繁	理工学部	物理科学科	1年	前期	金1	1
英語M	高野吾朗	医学部	医学科	1年	前期	金2	1
英語M	小池知英	医学部	医学科	1年	前期	金2	1
英語	青木 ローラ	経済学部	経営・法律課程	1年	前期	金2	1
英語	名本 達也	経済学部	経営・法律課程	1年	前期	金2	1
英語	林 恵子	経済学部	経営・法律課程	1年	前期	金2	1
英語	G. K. ジェンバー	農学部	応用生物科学科	1年	前期	金3	1
英語	小池知英	農学部	応用生物、生物環境	1年	前期	金3	1
英語	渡邊 晶子	農学部	生命機能科学科	1年	前期	金3	1
英語	林 恵子	農学部	生物環境科学科	1年	前期	金3	1
英語N	アラン・ボーマン	文化教育学部	共通	1年	前期	金4	1
英語N	コールマン・サウス	文化教育学部	共通	1年	前期	金4	1
英語N	ダナ・アンゴープ	文化教育学部	共通	1年	前期	金4	1
英語N	テレンス・フェルナー	文化教育学部	共通	1年	前期	金4	1
英語N	メイヤーホッフ	文化教育学部	共通	1年	前期	金4	1
英語	小池知英	文化教育学部	学校教育課程	1年	前期	金4	1
英語	石田由希	文教、理工	美術・工芸、知能情報	1年	前期	金4	1
英語	早瀬 博 範	文化教育学部	国際文化課程	1年	前期	金4	1
英語	渡邊 晶子	理工学部	知能情報システム学科	1年	前期	金4	1
英語	服部 八重	文化教育学部	人間環境課程	1年	前期	金4	1
英語	木原 誠	文化教育学部	学校教育課程	1年	前期	金4	1

英語N	アラン・ポーマン	理工学部	機械、電気電子、都市	1年	前期	金5	1
英語N	コールマン・サウス	理工学部	機械、電気電子、都市	1年	前期	金5	1
英語N	ダナ・アンゴープ	理工学部	機械、電気電子、都市	1年	前期	金5	1
英語N	テレンス・フェルナー	理工学部	機械、電気電子、都市	1年	前期	金5	1

前学期（2年次対象）

授業科目	担当教員	指定クラス			学期	曜日・校時	単位数
		学部	学科	対象年次			
英語M	ジョナサン モクスン	医学部	看護学科	2年	前期	月1	1
英語M	岡 有 子	医学部	看護学科	2年	前期	月1	1
英語	下仮屋 翔	理工学部	機械システム工学科	2年	前期	月2	1
英語	山 崎 美穂子	文化教育学部	学校教育課程	2年	前期	月2	1
英語	名 本 達 也	文化教育学部	人間環境課程	2年	前期	月2	1
英語	木 原 誠	文化教育学部	学校教育課程	2年	前期	月2	1
英語	鈴 木 繁	理工学部	機械システム工学科	2年	前期	月2	1
英語	郡 山 桂 子	文化教育学部	国際文化課程	2年	前期	月3	1
英語	山 崎 美穂子	文化教育学部	美術・工芸課程	2年	前期	月3	1
英語	廣 田 恵 美	文化教育学部	国際文化課程	2年	前期	月3	1
英語	G. K. ジェンバー	農学部	応用生物科学科	2年	前期	火1	1
英語	熊 本 千 明	農学部	応用生物、生物環境	2年	前期	火1	1
英語	山 中 利 夫	農学部	生物環境、生命機能	2年	前期	火1	1
英語	永 松 憲 治	理工学部	電気電子工学科	2年	前期	火2	1
英語	山 中 利 夫	理工学部	数理科学科	2年	前期	火2	1
英語	松 尾 直 美	理工学部	物理科学科	2年	前期	火2	1
英語	石 田 由 希	理工学部	電気電子工学科	2年	前期	火2	1
英語	熊 本 千 明	全学部	共通	2年	前期	水1	1
英語	小 野 浩 司	全学部	共通	2年	前期	水2	1
英語	岩 崎 一 恵	理工学部	都市工学科	2年	前期	木3	1
英語	進 藤 範 子	理工学部	都市工学科	2年	前期	木3	1
英語	藤 瀬 信 子	理工学部	都市工学科	2年	前期	木3	1
英語	岩 崎 一 恵	経済学部	経営・法律課程	2年	前期	木4	1
英語	熊 本 千 明	経済学部	経営・法律課程	2年	前期	木4	1
英語	鈴 木 繁	経済学部	経営・法律課程	2年	前期	木4	1
英語	G. K. ジェンバー	経済学部	経済システム課程	2年	前期	金2	1
英語	岡 有 子	経済学部	経済システム課程	2年	前期	金2	1
英語	渡 邊 晶 子	経済学部	経済システム課程	2年	前期	金2	1
英語	白 水 浩 貴	経済学部	経済システム課程	2年	前期	金2	1
英語	岡 有 子	理工学部	知能情報システム学科	2年	前期	金3	1
英語	石 田 由 希	理工学部	機能物質化学科	2年	前期	金3	1
英語	白 水 浩 貴	理工学部	機能物質化学科	2年	前期	金3	1
英語	服 部 八 重	理工学部	知能情報システム学科	2年	前期	金3	1

後学期（1年次対象）

授業科目	担当教員	指定クラス			学期	曜日・校時	単位数
		学部	学科	対象年次			
英語	郡 山 桂 子	理工学部	都市工学科	1年	後期	月2	1
英語	江 口 京 子	理工学部	電気電子工学科	1年	後期	月2	1
英語	田 中 秀 文	理工学部	都市工学科	1年	後期	月2	1
英語	名 本 達 也	理工学部	電気電子工学科	1年	後期	月2	1
英語	郡 山 桂 子	理工学部	機能物質化学科	1年	後期	月3	1
英語	山 崎 美穂子	理工学部	機能物質化学科	1年	後期	月3	1
英語	廣 田 恵 美	理工学部	機能物質化学科	1年	後期	月3	1
英語M	高 野 吾 朗	医学部	看護学科	1年	後期	火1	1
英語M	小 池 知 英	医学部	看護学科	1年	後期	火1	1
英語M	高 野 吾 朗	医学部	医学科	1年	後期	火2	1
英語M	小 池 知 英	医学部	医学科	1年	後期	火2	1
英語	熊 本 千 明	経済学部	経済システム課程	1年	後期	火3	1
英語	松 尾 直 美	経済学部	経済システム課程	1年	後期	火3	1
英語	大 城 綾 子	経済学部	経済システム課程	1年	後期	火3	1
英語	小 野 浩 司	全学部	共通	1年	後期	水2	1
英語N	アラン・ポーマン	経済学部	共通	1年	後期	水4	1
英語N	コールマン・サウス	経済学部	共通	1年	後期	水4	1

英語N	ダナ・アンゴープ	経済学部	共通	1年	後期	水4	1
英語N	テレンス・フェルナー	経済学部	共通	1年	後期	水4	1
英語N	メイヤーホッフ	経済学部	共通	1年	後期	水4	1
英語N	アラン・ボーマン	理工学部	数理、物理、知能情報	1年	後期	水5	1
英語N	ダナ・アンゴープ	理工学部	数理、物理、知能情報	1年	後期	水5	1
英語N	テレンス・フェルナー	理工学部	数理、物理、知能情報	1年	後期	水5	1
英語N	メイヤーホッフ	理工学部	数理、物理、知能情報	1年	後期	水5	1
英語M	岡 有 子	医学部	看護学科	1年	後期	木2	1
英語M	高 野 吾 朗	医学部	看護学科	1年	後期	木2	1
英語	進 藤 範 子	理工学部	機械システム工学科	1年	後期	木2	1
英語	藤 瀬 信 子	理工学部	機械システム工学科	1年	後期	木2	1
英語N	アラン・ボーマン	農学部	共通	1年	後期	木5	1
英語N	コールマン・サウス	農学部	共通	1年	後期	木5	1
英語N	ダナ・アンゴープ	農学部	共通	1年	後期	木5	1
英語N	テレンス・フェルナー	農学部	共通	1年	後期	木5	1
英語N	メイヤーホッフ	農学部	共通	1年	後期	木5	1
英語	青 木 ローラ	理工学部	物理科学科	1年	後期	金1	1
英語	鈴 木 繁	理工学部	数理、物理	1年	後期	金1	1
英語M	コールマン・サウス	医学部	医学科	1年	後期	金2	1
英語M	メイヤーホッフ	医学部	医学科	1年	後期	金2	1
英語M	高 野 吾 朗	医学部	医学科	1年	後期	金2	1
英語	山 中 利 夫	経済学部	経営・法律課程	1年	後期	金2	1
英語	青 木 ローラ	経済学部	経営・法律課程	1年	後期	金2	1
英語	林 恵 子	経済学部	経営・法律課程	1年	後期	金2	1
英語	岡 有 子	農学部	応用生物科学科	1年	後期	金3	1
英語	石 田 由 希	農学部	生物環境科学科	1年	後期	金3	1
英語	服 部 八 重	農学部	生物環境、生命機能	1年	後期	金3	1
英語N	アラン・ボーマン	文化教育学部	共通	1年	後期	金4	1
英語N	コールマン・サウス	文化教育学部	共通	1年	後期	金4	1
英語N	ダナ・アンゴープ	文化教育学部	共通	1年	後期	金4	1
英語N	テレンス・フェルナー	文化教育学部	共通	1年	後期	金4	1
英語N	メイヤーホッフ	文化教育学部	共通	1年	後期	金4	1
英語	小 池 知 英	文化教育学部	国際文化課程	1年	後期	金4	1
英語	石 田 由 希	理工学部	知能情報システム学科	1年	後期	金4	1
英語	早 瀬 博 範	文化教育学部	人間環境課程	1年	後期	金4	1
英語	渡 邊 晶 子	文化教育学部	学校教育課程	1年	後期	金4	1
英語	服 部 八 重	文教、理工	美術・工芸、知能情報	1年	後期	金4	1
英語	名 本 達 也	文化教育学部	学校教育課程	1年	後期	金4	1
英語N	アラン・ボーマン	理工学部	機械、電気電子、都市	1年	後期	金5	1
英語N	コールマン・サウス	理工学部	機械、電気電子、都市	1年	後期	金5	1
英語N	ダナ・アンゴープ	理工学部	機械、電気電子、都市	1年	後期	金5	1
英語N	テレンス・フェルナー	理工学部	機械、電気電子、都市	1年	後期	金5	1

後学期（2年次対象）

授業科目	担当教員	指定クラス			学 期	曜日・校時	単位数
		学 部	学 科	対象年次			
英語M	岡 有 子	医学部	看護学科	2年	後期	月1	1
英語M	高 野 吾 朗	医学部	看護学科	2年	後期	月1	1
英語	下仮屋 翔	理工学部	機械システム工学科	2年	後期	月2	1
英語	山 崎 美穂子	文化教育学部	学校教育課程	2年	後期	月2	1
英語	木 原 誠	理工学部	機械システム工学科	2年	後期	月2	1
英語	鈴 木 繁	文化教育学部	人間環境課程	2年	後期	月2	1
英語	廣 田 恵 美	文化教育学部	学校教育課程	2年	後期	月2	1
英語	下仮屋 翔	文化教育学部	国際文化課程	2年	後期	月3	1
英語	江 口 京 子	文化教育学部	国際文化課程	2年	後期	月3	1
英語	田 中 秀 文	文化教育学部	美術・工芸課程	2年	後期	月3	1
英語	熊 本 千 明	農学部	生物環境科学科	2年	後期	火1	1
英語	名 本 達 也	農学部	応用生物科学科	2年	後期	火1	1
英語	木 原 誠	農学部	生命機能科学科	2年	後期	火1	1
英語	永 松 憲 治	理工学部	数理、物理	2年	後期	火2	1
英語	松 尾 直 美	理工学部	電気電子工学科	2年	後期	火2	1
英語	大 城 綾 子	理工学部	物理、電気電子	2年	後期	火2	1

英語	小野浩司	全学部	共通	2年	後期	水1	1
英語	山中利夫	全学部	共通	2年	後期	水2	1
英語	岩崎一恵	理工学部	都市工学科	2年	後期	木3	1
英語	進藤範子	理工学部	都市工学科	2年	後期	木3	1
英語	藤瀬信子	理工学部	都市工学科	2年	後期	木3	1
英語	岩崎一恵	経済学部	経営・法律課程	2年	後期	木4	1
英語	進藤範子	経済学部	経営・法律課程	2年	後期	木4	1
英語	鈴木繁	経済学部	経営・法律課程	2年	後期	木4	1
英語	G.K.ジェンパー	経済学部	経済システム課程	2年	後期	金2	1
英語	ホートン	経済学部	経済システム課程	2年	後期	金2	1
英語	岡有子	経済学部	経済システム課程	2年	後期	金2	1
英語	白水浩貴	経済学部	経済システム課程	2年	後期	金2	1
英語	小池知英	理工学部	機能物質化学科	2年	後期	金3	1
英語	渡邊晶子	理工学部	知能情報システム学科	2年	後期	金3	1
英語	白水浩貴	理工学部	機能物質化学科	2年	後期	金3	1
英語	林恵子	理工学部	知能情報システム学科	2年	後期	金3	1

外国語科目（ドイツ語）

前学期

授業科目	担当教員	指定クラス			学期	曜日・校時	単位数
		学部	学科	対象年次			
ドイツ語Ⅰa	柿原正幸	経済学部	経済システム課程	1年	前期	月3	1
ドイツ語Ⅰa	森岡章夫	経済学部	経営・法律課程	1年	前期	月3	1
ドイツ語Ⅰa	柿原正幸	医学部	医学科	1年	前期	水3	1
ドイツ語Ⅰa	柿原正幸	医学部	看護学科	1年	前期	水4	1
ドイツ語Ⅰa	木田綾子	農学部	共通	1年	前期	木3	1
ドイツ語Ⅰa	重竹芳江	農学部	共通	1年	前期	木3	1
ドイツ語Ⅰa	柿原正幸	理工学部	数理、物理	1年	前期	金2	1
ドイツ語Ⅰa	正岡三一	理工学部	知能情報システム学科	1年	前期	金2	1
ドイツ語Ⅰa	下菌りさ	理工学部	電気電子工学科	1年	前期	金3	1
ドイツ語Ⅰa	吉中幸平	理工学部	都市工学科	1年	前期	金3	1
ドイツ語Ⅰa	重竹芳江	理工学部	電気電子工学科	1年	前期	金3	1
ドイツ語Ⅰa	尾張充典	理工学部	機械システム工学科	1年	前期	金4	1
ドイツ語Ⅱa	エーベル	全学部	共通	2年	前期	月2	1
ドイツ語Ⅱa	柿原正幸	経済学部	経済システム課程	2年	前期	月2	1
ドイツ語Ⅱa	森岡章夫	経済学部	経営・法律課程	2年	前期	月2	1
ドイツ語Ⅱa	エーベル	全学部	共通	2年	前期	木2	1
ドイツ語Ⅱa	木田綾子	農学部	共通	2年	前期	木2	1
ドイツ語Ⅱa	重竹芳江	農学部	共通	2年	前期	木2	1
ドイツ語Ⅱa	正岡三一	理工学部	知能情報システム学科	2年	前期	金1	1
ドイツ語Ⅱa	エーベル	全学部	共通	2年	前期	金2	1
ドイツ語Ⅱa	下菌りさ	理工学部	電気電子工学科	2年	前期	金2	1
ドイツ語Ⅱa	吉中幸平	理工学部	数理、物理	2年	前期	金2	1
ドイツ語Ⅱa	重竹芳江	理工学部	電気電子工学科	2年	前期	金2	1
ドイツ語Ⅱa	尾張充典	理工学部	機械システム工学科	2年	前期	金3	1

後学期

授業科目	担当教員	指定クラス			学期	曜日・校時	単位数
		学部	学科	対象年次			
ドイツ語Ⅰb	柿原正幸	経済学部	経済システム課程	1年	後期	月3	1
ドイツ語Ⅰb	森岡章夫	経済学部	経営・法律課程	1年	後期	月3	1
ドイツ語Ⅰb	柿原正幸	医学部	医学科	1年	後期	水3	1
ドイツ語Ⅰb	柿原正幸	医学部	看護学科	1年	後期	水4	1
ドイツ語Ⅰb	木田綾子	農学部	共通	1年	後期	木3	1
ドイツ語Ⅰb	重竹芳江	農学部	共通	1年	後期	木3	1
ドイツ語Ⅰb	柿原正幸	理工学部	数理、物理	1年	後期	金2	1
ドイツ語Ⅰb	正岡三一	理工学部	知能情報システム学科	1年	後期	金2	1
ドイツ語Ⅰb	下菌りさ	理工学部	電気電子工学科	1年	後期	金3	1
ドイツ語Ⅰb	吉中幸平	理工学部	都市工学科	1年	後期	金3	1
ドイツ語Ⅰb	重竹芳江	理工学部	電気電子工学科	1年	後期	金3	1
ドイツ語Ⅰb	尾張充典	理工学部	機械システム工学科	1年	後期	金4	1

ドイツ語Ⅱb	エーベル	全学部	共通	2年	後期	月2	1
ドイツ語Ⅱb	柿原正幸	経済学部	経済システム課程	2年	後期	月2	1
ドイツ語Ⅱb	森岡章夫	経済学部	経営・法律課程	2年	後期	月2	1
ドイツ語Ⅱb	エーベル	全学部	共通	2年	後期	木2	1
ドイツ語Ⅱb	木田綾子	農学部	共通	2年	後期	木2	1
ドイツ語Ⅱb	重竹芳江	農学部	共通	2年	後期	木2	1
ドイツ語Ⅱb	正岡三一	理工学部	知能情報システム学科	2年	後期	金1	1
ドイツ語Ⅱb	エーベル	全学部	共通	2年	後期	金2	1
ドイツ語Ⅱb	下蘭りさ	理工学部	電気電子工学科	2年	後期	金2	1
ドイツ語Ⅱb	吉中幸平	理工学部	数理、物理	2年	後期	金2	1
ドイツ語Ⅱb	重竹芳江	理工学部	電気電子工学科	2年	後期	金2	1
ドイツ語Ⅱb	尾張充典	理工学部	機械システム工学科	2年	後期	金3	1

外国語科目（フランス語）

前学期

授業科目	担当教員	指定クラス			学期	曜日・校時	単位数
		学部	学科	対象年次			
フランス語Ⅰa	前川 完	経済学部	経済システム課程	1年	前期	月2	1
フランス語Ⅰa	リシュール シリル	全学部(農学部を除く)	共通	1年	前期	月3	1
フランス語Ⅰa	前川 完	経済学部	経営・法律課程	1年	前期	月4	1
フランス語Ⅰa	島村 雅子	医学部	医学科	1年	前期	水3	1
フランス語Ⅰa	島村 雅子	医学部	看護学科	1年	前期	水4	1
フランス語Ⅰa	ジャン ポティエ	農学部	共通	1年	前期	木3	1
フランス語Ⅰa	河野 敦子	理工学部	数理、物理、知能情報	1年	前期	金2	1
フランス語Ⅰa	島村 雅子	理工学部	電気電子、都市	1年	前期	金3	1
フランス語Ⅰa	島村 雅子	理工学部	機械システム工学科	1年	前期	金4	1
フランス語Ⅱa	リシュール シリル	全学部(農学部を除く)	共通	2年	前期	月2	1
フランス語Ⅱa	前川 完	経済学部	共通	2年	前期	月3	1
フランス語Ⅱa	ジャン ポティエ	全学部(経済学部を除く)	共通	2年	前期	木2	1
フランス語Ⅱa	古賀 豊	農学部	共通	2年	前期	木2	1
フランス語Ⅱa	古賀 豊	理工学部	数理、物理、知能情報	2年	前期	金1	1
フランス語Ⅱa	古賀 豊	理工学部	電気電子工学科	2年	前期	金2	1
フランス語Ⅱa	河野 敦子	理工学部	機械システム工学科	2年	前期	金3	1

後学期

授業科目	担当教員	指定クラス			学期	曜日・校時	単位数
		学部	学科	対象年次			
フランス語Ⅰb	前川 完	経済学部	経済システム課程	1年	後期	月2	1
フランス語Ⅰb	リシュール シリル	全学部(農学部を除く)	共通	1年	後期	月3	1
フランス語Ⅰb	前川 完	経済学部	経営・法律課程	1年	後期	月4	1
フランス語Ⅰb	島村 雅子	医学部	医学科	1年	後期	水3	1
フランス語Ⅰb	島村 雅子	医学部	看護学科	1年	後期	水4	1
フランス語Ⅰb	ジャン ポティエ	農学部	共通	1年	後期	木3	1
フランス語Ⅰb	河野 敦子	理工学部	数理、物理、知能情報	1年	後期	金2	1
フランス語Ⅰb	島村 雅子	理工学部	電気電子、都市	1年	後期	金3	1
フランス語Ⅰb	島村 雅子	理工学部	機械システム工学科	1年	後期	金4	1
フランス語Ⅱb	リシュール シリル	全学部(農学部を除く)	共通	2年	後期	月2	1
フランス語Ⅱb	前川 完	経済学部	共通	2年	後期	月3	1
フランス語Ⅱb	ジャン ポティエ	全学部(経済学部を除く)	共通	2年	後期	木2	1
フランス語Ⅱb	古賀 豊	農学部	共通	2年	後期	木2	1
フランス語Ⅱb	古賀 豊	理工学部	数理、物理、知能情報	2年	後期	金1	1
フランス語Ⅱb	古賀 豊	理工学部	電気電子工学科	2年	後期	金2	1
フランス語Ⅱb	河野 敦子	理工学部	機械システム工学科	2年	後期	金3	1

外国語科目（中国語）

前学期

授業科目	担当教員	指定クラス			学期	曜日・校時	単位数
		学部	学科	対象年次			
中国語Ⅰa	古川 末喜	経済学部	経済システム課程	1年	前期	月2	1
中国語Ⅰa	荀 暁崢	経済学部	経営・法律課程	1年	前期	月3	1

中国語Ⅰa	中尾友香梨	経済学部	経済システム課程	1年	前期	月4	1
中国語Ⅰa	野田雄史	経済学部	経営・法律課程	1年	前期	火2	1
中国語Ⅰa	野田雄史	経済学部	経営・法律課程	1年	前期	火3	1
中国語Ⅰa	胡山林	医学部	医学科	1年	前期	水3	1
中国語Ⅰa	張璐	理工学部	数理、物理、知能情報	1年	前期	水3	1
中国語Ⅰa	張璐	理工学部	電気電子工学科	1年	前期	水4	1
中国語Ⅰa	張本秀子	医学部	看護学科	1年	前期	水4	1
中国語Ⅰa	周龍梅	農学部	生物環境科学科	1年	前期	木3	1
中国語Ⅰa	張璐	農学部	応用生物、生命機能	1年	前期	木3	1
中国語Ⅰa	張本秀子	理工学部	数理、物理、知能情報	1年	前期	金2	1
中国語Ⅰa	土屋育子	理工学部	都市工学科	1年	前期	金3	1
中国語Ⅰa	荀曉崢	理工学部	電気電子工学科	1年	前期	金3	1
中国語Ⅰa	野田雄史	理工学部	機械システム工学科	1年	前期	金4	1
中国語Ⅱa	荀曉崢	経済学部	経済システム課程	2年	前期	月2	1
中国語Ⅱa	胡山林	経済学部	経営・法律課程	2年	前期	月3	1
中国語Ⅱa	中尾友香梨	経済学部	経済システム課程	2年	前期	月3	1
中国語Ⅱa	胡山林	経済学部	経営・法律課程	2年	前期	月4	1
中国語Ⅱa	荀曉崢	経済学部	経営・法律課程	2年	前期	月4	1
中国語Ⅱa	胡山林	理工学部	機械システム工学科	2年	前期	月5	1
中国語Ⅱa	周龍梅	農学部	応用生物、生命機能	2年	前期	木2	1
中国語Ⅱa	張璐	農学部	生物環境科学科	2年	前期	木2	1
中国語Ⅱa	張本秀子	理工学部	数理、物理、知能情報	2年	前期	金1	1
中国語Ⅱa	野田雄史	理工学部	数理、物理、知能情報	2年	前期	金1	1
中国語Ⅱa	荀曉崢	理工学部	電気電子工学科	2年	前期	金2	1
中国語Ⅱa	野田雄史	理工学部	電気電子工学科	2年	前期	金2	1

後学期

授業科目	担当教員	指定クラス			学期	曜日・校時	単位数
		学部	学科	対象年次			
中国語Ⅰb	古川末喜	経済学部	経済システム課程	1年	後期	月2	1
中国語Ⅰb	荀曉崢	経済学部	経営・法律課程	1年	後期	月3	1
中国語Ⅰb	中尾友香梨	経済学部	経済システム課程	1年	後期	月4	1
中国語Ⅰb	野田雄史	経済学部	経営・法律課程	1年	後期	火2	1
中国語Ⅰb	野田雄史	経済学部	経営・法律課程	1年	後期	火3	1
中国語Ⅰb	胡山林	医学部	医学科	1年	後期	水3	1
中国語Ⅰb	張璐	理工学部	数理、物理、知能情報	1年	後期	水3	1
中国語Ⅰb	張璐	理工学部	電気電子工学科	1年	後期	水4	1
中国語Ⅰb	張本秀子	医学部	看護学科	1年	後期	水4	1
中国語Ⅰb	周龍梅	農学部	生物環境科学科	1年	後期	木3	1
中国語Ⅰb	張璐	農学部	応用生物、生命機能	1年	後期	木3	1
中国語Ⅰb	張本秀子	理工学部	数理、物理、知能情報	1年	後期	金2	1
中国語Ⅰb	土屋育子	理工学部	都市工学科	1年	後期	金3	1
中国語Ⅰb	荀曉崢	理工学部	電気電子工学科	1年	後期	金3	1
中国語Ⅰb	野田雄史	理工学部	機械システム工学科	1年	後期	金4	1
中国語Ⅱb	荀曉崢	経済学部	経済システム課程	2年	後期	月2	1
中国語Ⅱb	胡山林	経済学部	経営・法律課程	2年	後期	月3	1
中国語Ⅱb	中尾友香梨	経済学部	経済システム課程	2年	後期	月3	1
中国語Ⅱb	胡山林	経済学部	経営・法律課程	2年	後期	月4	1
中国語Ⅱb	荀曉崢	経済学部	経営・法律課程	2年	後期	月4	1
中国語Ⅱb	胡山林	理工学部	機械システム工学科	2年	後期	月5	1
中国語Ⅱb	周龍梅	農学部	応用生物、生命機能	2年	後期	木2	1
中国語Ⅱb	張璐	農学部	生物環境科学科	2年	後期	木2	1
中国語Ⅱb	張本秀子	理工学部	数理、物理、知能情報	2年	後期	金1	1
中国語Ⅱb	野田雄史	理工学部	数理、物理、知能情報	2年	後期	金1	1
中国語Ⅱb	荀曉崢	理工学部	電気電子工学科	2年	後期	金2	1
中国語Ⅱb	野田雄史	理工学部	電気電子工学科	2年	後期	金2	1

外国語科目（朝鮮語）

前学期

授業科目	担当教員	指定クラス			学期	曜日・校時	単位数
		学部	学科	対象年次			
朝鮮語Ⅰa	張 允 馨	医学部	医学科	1年	前期	水3	1
朝鮮語Ⅰa	朴 明 美	経済学部	共通	1年	前期	水3	1
朝鮮語Ⅰa	李 知 映	農学部	共通	1年	前期	水3	1
朝鮮語Ⅰa	張 允 馨	医学部	看護学科	1年	前期	水4	1
朝鮮語Ⅰa	森 善 宣	理工学部	機械、電気電子、都市	1年	前期	木5	1
朝鮮語Ⅰa	申 鎬 鎬	理工学部	数理、物理、知能情報	1年	前期	木5	1
朝鮮語Ⅱa	朴 明 美	理工学部	共通	2年	前期	水4	1
朝鮮語Ⅱa	李 知 映	経済学部	経営・法律課程	2年	前期	水4	1
朝鮮語Ⅱa	永 島 広 紀	農学部	共通	2年	前期	木2	1
朝鮮語Ⅱa	申 鎬 鎬	経済学部	経済システム課程	2年	前期	木4	1

後学期

授業科目	担当教員	指定クラス			学期	曜日・校時	単位数
		学部	学科	対象年次			
朝鮮語Ⅰb	張 允 馨	医学部	医学科	1年	後期	水3	1
朝鮮語Ⅰb	朴 明 美	経済学部	共通	1年	後期	水3	1
朝鮮語Ⅰb	李 知 映	農学部	共通	1年	後期	水3	1
朝鮮語Ⅰb	張 允 馨	医学部	看護学科	1年	後期	水4	1
朝鮮語Ⅰb	森 善 宣	理工学部	機械、電気電子、都市	1年	後期	木5	1
朝鮮語Ⅰb	申 鎬 鎬	理工学部	数理、物理、知能情報	1年	後期	木5	1
朝鮮語Ⅱb	朴 明 美	理工学部	共通	2年	後期	水4	1
朝鮮語Ⅱb	李 知 映	経済学部	経営・法律課程	2年	後期	水4	1
朝鮮語Ⅱb	永 島 広 紀	農学部	共通	2年	後期	木2	1
朝鮮語Ⅱb	申 鎬 鎬	経済学部	経済システム課程	2年	後期	木4	1

健康・スポーツ科目

健康・スポーツ科目（講義・演習）

前学期

授業科目	担当教員	指定クラス			学期	曜日・校時	単位数
		学 部	学 科	対象年次			
スポーツ科学演習	山田力也	文化教育学部 農学部	共通	1年	前学期	月1	2
スポーツ科学演習	龍頭信二			1年	前学期	月1	2
スポーツ科学演習	東和樹			1年	前学期	月1	2
スポーツ科学講義	中山正教			1年	前学期	月1	2
健康科学演習	山津幸司			1年	前学期	月1	2
健康科学講義	佐藤武			1年	前学期	月1	2
スポーツ科学演習	東和樹	理工学部	数理科学科 物理科学科 機械システム工学科 都市工学科	1年	前学期	月3	2
スポーツ科学演習	山田力也			1年	前学期	月3	2
スポーツ科学講義	江崎利昭			1年	前学期	月3	2
健康科学演習	桧垣淳子			1年	前学期	月3	2
健康科学講義	高橋英嗣			1年	前学期	月3	2

後学期

授業科目	担当教員	指定クラス			学期	曜日・校時	単位数
		学 部	学 科	対象年次			
スポーツ科学演習	龍頭信二	経済学部 理工学部	経営・法律課程 機能物質化学科 電気電子工学科	1年	後学期	月1	2
スポーツ科学演習	山田力也			1年	後学期	月1	2
スポーツ科学演習	東和樹			1年	後学期	月1	2
スポーツ科学講義	中山正教			1年	後学期	月1	2
健康科学講義	北川慶子			1年	後学期	月1	2
スポーツ科学演習	山田力也	経済学部 理工学部	経済システム課程 知能情報科学科	1年	後学期	月3	2
スポーツ科学演習	東和樹			1年	後学期	月3	2
健康科学演習	桧垣淳子			1年	後学期	月3	2
健康科学講義	木道圭子			1年	後学期	月3	2

健康・スポーツ科目（実習）

前学期

授業科目	担当教員	指定クラス			学期	曜日・校時	単位数
		学 部	学 科	対象年次			
スポーツ実習	中山正教	文化教育学部	共通	1年	前学期	月2	1
スポーツ実習	池上寿伸			1年	前学期	月2	1
スポーツ実習	山田力也			1年	前学期	月2	1
スポーツ実習	東和樹			1年	前学期	月2	1
スポーツ実習	桧垣淳子			1年	前学期	月2	1
スポーツ実習	龍頭信二			1年	前学期	月2	1
スポーツ実習	山津幸司			1年	前学期	月2	1
スポーツ実習	池田孝博	理工学部	物理科学科 機械システム工学科 電気電子工学科	1年	前学期	火1	1
スポーツ実習	江崎利昭			1年	前学期	火1	1
スポーツ実習	近藤芳昭			1年	前学期	火1	1
スポーツ実習	井上伸一			1年	前学期	火1	1
スポーツ実習	東和樹			1年	前学期	火1	1
スポーツ実習	佐藤広徳	理工学部 農学部	知能情報システム学科 応用生物科学科 生物環境科学科 生命機能科学科	1年	前学期	火2	1
スポーツ実習	江崎利昭			1年	前学期	火2	1
スポーツ実習	東和樹			1年	前学期	火2	1
スポーツ実習	井上伸一			1年	前学期	火2	1
スポーツ実習	佐藤広徳			1年	前学期	火2	1
スポーツ実習	池田孝博	経済学部	共通	1年	前学期	木2	1
スポーツ実習	近藤芳昭			1年	前学期	木2	1
スポーツ実習	田口晴康			1年	前学期	木2	1
スポーツ実習	佐藤広徳			1年	前学期	木2	1
スポーツ実習	久富守			1年	前学期	木2	1
スポーツ実習	堤公一			1年	前学期	木2	1
スポーツ実習	江崎利昭			1年	前学期	木2	1
スポーツ実習	坂元康成			1年	前学期	木2	1
スポーツ実習	右田孝志	1年	前学期	木2	1		

スポーツ実習	佐藤 広徳	理工学部	数理科学科 機能物質化学科 都市工学科	1年	前学期	木3	1
スポーツ実習	右田 孝志			1年	前学期	木3	1
スポーツ実習	池上 寿伸			1年	前学期	木3	1
スポーツ実習	田口 晴康			1年	前学期	木3	1
スポーツ実習	久富 守			1年	前学期	木3	1

後学期

授業科目	担当教員	指定クラス			学期	曜日・校時	単位数
		学部	学科	対象年次			
スポーツ実習	東 和 樹	文化教育学部	共通	1年	後学期	月2	1
スポーツ実習	中山 正 教			1年	後学期	月2	1
スポーツ実習	山津 幸 司			1年	後学期	月2	1
スポーツ実習	桧垣 淳 子			1年	後学期	月2	1
スポーツ実習	山田 力 也			1年	後学期	月2	1
スポーツ実習	龍頭 信 二			1年	後学期	月2	1
スポーツ実習	栗原 淳			1年	後学期	月2	1
スポーツ実習	江崎 利 昭	理工学部	物理科学科 機械システム工学科 電気電子工学科	1年	後学期	火1	1
スポーツ実習	東 和 樹			1年	後学期	火1	1
スポーツ実習	井上 伸 一			1年	後学期	火1	1
スポーツ実習	佐藤 広 徳			1年	後学期	火1	1
スポーツ実習	近藤 芳 昭			1年	後学期	火1	1
スポーツ実習	池田 孝 博			1年	後学期	火1	1
スポーツ実習	近藤 芳 昭			1年	後学期	火2	1
スポーツ実習	江崎 利 昭	理工学部 農学部	知能情報システム学科 応用生物科学科 生物環境科学科 生命機能科学科	1年	後学期	火2	1
スポーツ実習	松山 郁 夫			1年	後学期	火2	1
スポーツ実習	池田 孝 博			1年	後学期	火2	1
スポーツ実習	佐藤 広 徳			1年	後学期	火2	1
スポーツ実習	東 和 樹			1年	後学期	火2	1
スポーツ実習	中山 正 教			1年	後学期	木2	1
スポーツ実習	右田 孝 志			1年	後学期	木2	1
スポーツ実習	佐藤 広 徳	経済学部	共通	1年	後学期	木2	1
スポーツ実習	坂元 康 成			1年	後学期	木2	1
スポーツ実習	久富 守			1年	後学期	木2	1
スポーツ実習	江崎 利 昭			1年	後学期	木2	1
スポーツ実習	田口 晴 康			1年	後学期	木2	1
スポーツ実習	坂元 康 成			1年	後学期	木3	1
スポーツ実習	右田 孝 志			1年	後学期	木3	1
スポーツ実習	中山 正 教	理工学部	数理科学科 機能物質化学科 都市工学科	1年	後学期	木3	1
スポーツ実習	久富 守			1年	後学期	木3	1
スポーツ実習	佐藤 広 徳			1年	後学期	木3	1
スポーツ実習	田口 晴 康			1年	後学期	木3	1
スポーツ実習	田口 晴 康			1年	後学期	木3	1

情報処理科目

情報処理科目（情報処理概論）

前学期

授業科目	担当教員	指定クラス			学期	曜日・校時	単位数
		学部	学科	対象年次			
情報基礎概論	帯屋 洋 之	理工学部	都市工学科	1年	前学期	火1	2
情報基礎概論	角 和 博	文化教育学部	学校教育課程	1年	前学期	火3	2
情報基礎概論	小野 文 慈	文化教育学部	国際文化、美術・工芸	1年	前学期	火3	2
情報基礎概論	岡島 俊 哉	文化教育学部	人間環境課程	1年	前学期	火3	2
情報基礎概論	山下 義 行	理工学部	知能情報システム学科	1年	前学期	火3	2
情報基礎概論	北垣 浩 志	農学部	共通	1年	前学期	金2	2
情報基礎概論	竹生 政 資	医学部	看護学科	1年	前学期	金3	2

後学期

授業科目	担当教員	指定クラス			学期	曜日・校時	単位数
		学部	学科	対象年次			
情報基礎概論	竹生 政資	医学部	医学科	1年	後学期	火1	2
情報基礎概論	安田 伸一	経済学部	経済システム課程	1年	後学期	火2	2
情報基礎概論	原 重臣	理工学部	電気電子工学科	1年	後学期	火3	2
情報基礎概論	安田 伸一	経済学部	経営・法律課程	1年	後学期	火4	2

情報処理科目（情報基礎演習Ⅰ）

前学期

授業科目	担当教員	指定クラス			学期	曜日・校時	単位数
		学部	学科	対象年次			
情報基礎演習Ⅰ	竹生 政資	医学部	医学科	1年	前学期	月1	1
情報基礎演習Ⅰ	滝澤 登	理工学部	機能物質化学科	1年	前学期	月2	1
情報基礎演習Ⅰ	古川 達也	理工学部	電気電子工学科	1年	前学期	月3	1
情報基礎演習Ⅰ	瀧川 真也	文化教育学部	国際文化課程	1年	前学期	月5	1
情報基礎演習Ⅰ	中村 隆敏	文化教育学部	学校教育課程	1年	前学期	木3	1
情報基礎演習Ⅰ	山下 宗利	文化教育学部	美術・工芸課程	1年	前学期	木4	1
情報基礎演習Ⅰ	松前 進	理工学部	知能情報システム学科	1年	前学期	金1	1
情報基礎演習Ⅰ	安田 伸一	経済学部	経済システム課程	1年	前学期	金2	1
情報基礎演習Ⅰ	大谷 誠	経済学部	経済システム課程	2年	前学期	金2	1
情報基礎演習Ⅰ	上山 和俊	経済学部	経済システム課程	1年	前学期	金3	1
情報基礎演習Ⅰ	渡辺 健次	経済学部	経営・法律課程	1年	前学期	金3	1
情報基礎演習Ⅰ	羽石 寛志	経済学部	経営・法律課程	1年	前学期	金4	1
情報基礎演習Ⅰ	和田 康彦	農学部	応用生物、生命機能	2年	前学期	金4	1
情報基礎演習Ⅰ	杉 剛直	経済学部	経営・法律課程	1年	前学期	金5	1
情報基礎演習Ⅰ	稲葉 繁樹	農学部	生物環境科学科	1年	前学期	金5	1

後学期

授業科目	担当教員	指定クラス			学期	曜日・校時	単位数
		学部	学科	対象年次			
情報基礎演習Ⅰ	岡島 俊哉	文化教育学部	人間環境課程	1年	後学期	月1	1
情報基礎演習Ⅰ	佐藤 和也	理工学部	機械システム工学科	1年	後学期	火4	1
情報基礎演習Ⅰ	宮良 明男	理工学部	機械システム工学科	2年	後学期	火4	1
情報基礎演習Ⅰ	柴 錦春	理工学部	都市工学科	1年	後学期	木4	1
情報基礎演習Ⅰ	大串 浩一郎	理工学部	都市工学科	1年	後学期	金4	1

情報処理科目（情報基礎演習Ⅱ）

前学期

授業科目	担当教員	指定クラス			学期	曜日・校時	単位数
		学部	学科	対象年次			
情報基礎演習Ⅱ	泉 清高	理工学部	機械システム工学科	3年	前学期	火4	1
情報基礎演習Ⅱ	光 武雄一	理工学部	機械システム工学科	2年	前学期	火4	1
情報基礎演習Ⅱ	堂 蘭浩	理工学部	電気電子工学科	2年	前学期	木2	1

後学期

授業科目	担当教員	指定クラス			学期	曜日・校時	単位数
		学部	学科	対象年次			
情報基礎演習Ⅱ	高 椋 利幸	理工学部	機能物質化学科	1年	後学期	月2	1
情報基礎演習Ⅱ	石原 秀太	文化教育学部	共通	1年	後学期	月4	1

共通専門教育科目

共通専門教育科目（デジタル表現技術教育科目）

授業科目	担当教員	受講対象者	対象年次	開講学期	曜日・校時	単位数
Web 表現	高 崎 光 浩	デジタル表現技術教育プログラム受講者	1年	後期	木1	2
デジタル表現Ⅰ	穂屋下 茂	デジタル表現技術教育プログラム受講者	1年	前期	水1	2
デジタル表現Ⅱ	穂屋下 茂	デジタル表現技術教育プログラム受講者	1年	前期	月1, 木1	2
デジタルメディア・アート	中 村 隆 敏	デジタル表現技術教育プログラム受講者	1年	後期	集中	2
デジタルメディア・デザイン	中 村 隆 敏	デジタル表現技術教育プログラム受講者	2年	前期	水2	2

アニメーション表現	中村 隆 敏	デジタル表現技術教育プログラム受講者	2年	前期	集中	2
コンピュータ・グラフィックス表現	中村 隆 敏	デジタル表現技術教育プログラム受講者	2年	後期	水2	2
デジタル表現修了研究	穂屋下 茂	デジタル表現技術教育プログラム受講者	2年	後期	時間外	2

共通専門教育科目（障がい者就労支援コーディネーター教育科目）

授業科目	担当教員	受講対象者	対象学年	開講学期	曜日・校時	単位数
障がい特性と職業適性	井手 将 文	障がい者就労支援コーディネーター教育プログラム受講者	2年	前期	水6	2
就労支援実践と社会的諸制度	未 定	障がい者就労支援コーディネーター教育プログラム受講者	2年	後期	水6	2
医療的ケアを必要とする障がい者の就労支援	堀 川 悦 夫	障がい者就労支援コーディネーター教育プログラム受講者	3年	前期	木1	2
職業適応促進と事例研究	堀 川 悦 夫	障がい者就労支援コーディネーター教育プログラム受講者	3年	後期	木1	2

共通専門教育科目（環境キャリア教育科目）

授業科目	担当教員	受講対象者	対象学年	開講学期	曜日・校時	単位数
学内活動実習Ⅰ(コース1)	市 場 正 良 他	環境キャリア教育プログラム受講者	2年	前期	集中	2
学内活動実習Ⅰ(コース2)	上 野 大 介 他	環境キャリア教育プログラム受講者	2年	前期	集中	2
学内活動実習Ⅰ(コース3)	兒 玉 宏 樹 他	環境キャリア教育プログラム受講者	2年	前期	集中	2
学内活動実習Ⅰ(コース4)	染 谷 孝 他	環境キャリア教育プログラム受講者	2年	前期	集中	2
学内活動実習Ⅱ(コース1)	市 場 正 良 他	環境キャリア教育プログラム受講者	2年	後期	集中	2
学内活動実習Ⅱ(コース2)	上 野 大 介 他	環境キャリア教育プログラム受講者	2年	後期	集中	2
学内活動実習Ⅱ(コース3)	寺 東 宏 明 他	環境キャリア教育プログラム受講者	2年	後期	集中	2
学内活動実習Ⅱ(コース4)	染 谷 孝 他	環境キャリア教育プログラム受講者	2年	後期	集中	2
実践型キャリアデザイン —チームワークの基礎—	岡 島 俊 哉 他	環境キャリア教育プログラム受講者	2年	後期	木1	2
環境科学Ⅳ	岡 島 俊 哉 他	環境キャリア教育プログラム受講者	2年	後期	集中	2

共通専門教育科目（留学生プログラム教育科目）

前学期

授業科目	担当教員	受講対象者	対象学年	開講学期	曜日・校時	単位数
文化と化学	中 島 道 夫	短期留学プログラム受講者	1年	前期	金3	2
日本に関するWEBページ制作応用	角 和 博	短期留学プログラム受講者	1年	前期	月4	2
日本国憲法	奈 須 祐 治	短期留学プログラム受講者	1年	前期	火4	2
知能機械入門	MD. T. ISLAM KHAN	短期留学プログラム受講者	1年	前期	木5	2
電気電子工学のための基礎電磁気学	田 中 高 行	短期留学プログラム受講者	1年	前期	火3	2
微生物遺伝学	神 田 康 三	短期留学プログラム受講者	1年	前期	木4	2
概説・農学と環境学	原 口 智 和	短期留学プログラム受講者	1年	前期	金5	2
言語学における野外手法Ⅱ	古 賀 弘 毅	短期留学プログラム受講者	1年	前期	火5	2

後学期

授業科目	担当教員	受講対象者	対象学年	開講学期	曜日・校時	単位数
日本に関するWEBページ制作入門	角 和 博	短期留学プログラム受講者	1年	後期	未定	2
日本・東南アジア関係論	山 崎 功	短期留学プログラム受講者	1年	後期	未定	2
アカデミック英語の書き方	マッカーサー・ジョン・ダグラス	短期留学プログラム受講者	1年	後期	未定	2
数値解析入門	伊 藤 秀 昭	短期留学プログラム受講者	1年	後期	未定	2
ミクロの世界の物理	米 山 博 志	短期留学プログラム受講者	1年	後期	未定	2
日本の野菜	一 色 司 郎	短期留学プログラム受講者	1年	後期	未定	2
言語学における野外手法	古 賀 弘 毅	短期留学プログラム受講者	1年	後期	未定	2

教養教育運営機構関係規則

佐賀大学教養教育運営機構規則

佐賀大学教養教育科目履修規程

佐賀大学教養教育科目履修細則

佐賀大学共通専門教育科目履修規程

佐賀大学における全学共通の教育プログラムに関する規程

佐賀大学教養教育運営機構規則

(平成16年4月1日制定)

(趣旨)

第1条 この規則は、国立大学法人佐賀大学規則（平成16年4月1日制定）第20条第2項の規定に基づき、佐賀大学教養教育運営機構（以下「運営機構」という。）の組織及び運営に関し、必要な事項を定めるものとする。

(目的)

第2条 運営機構は、佐賀大学（以下「本学」という。）の教養教育実施機関として、本学の目的、使命にのっとり、全学の教員が担う教養教育を円滑に実施することを目的とする。

(業務)

第3条 運営機構は、前条に掲げる目的を達成するため、次に掲げる業務を行う。

- (1) 教養教育科目に係る教育課程の編成及び実施に関すること。
- (2) 教養教育に関する大学評価に関すること。
- (3) その他教養教育の実施に関すること。

2 前項に定めるもののほか、運営機構は、学部との協議に基づき、全学的に共通する専門教育に係る業務及び留学生の教育プログラムに係る業務を行うことができるものとする。

(職員)

第4条 運営機構に、次の職員を置く。

- (1) 運営機構長
- (2) 副運営機構長 3人
- (3) その他必要な職員

(運営機構長)

第5条 運営機構長は、本学の専任の教授のうちから選考する。

- 2 運営機構長は、運営機構の業務を掌理する。
- 3 運営機構長の任期は2年とし、再任を妨げない。
- 4 運営機構長に欠員が生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

(副運営機構長)

第5条の2 副運営機構長は、本学の専任の教授、准教授及び講師のうちから選考する。

- 2 副運営機構長は、運営機構長を助け、運営機構の業務を整理する。
- 3 副運営機構長の任期は、就任の次年度の3月までとし、再任を妨げない。
- 4 副運営機構長に欠員が生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

(運営機構長及び副運営機構長の選考)

第6条 運営機構長及び副運営機構長の選考は、第12条に規定する佐賀大学教養教育運営機構協議会の議を経て、学長が行う。

- 2 運営機構長及び副運営機構長の選考に関し、必要な事項は、別に定める。

(部会)

第7条 運営機構に、教養教育を円滑に実施するため、共通基礎教育科目及び主題科目の区分ごとに部会を置く。

2 運営機構に置く部会は、次のとおりとする。

共通基礎教育科目

外国語部会

健康・スポーツ部会

情報処理部会

主題科目

分野別主題科目

文化と芸術部会

思想と歴史部会

現代社会の構造部会

人間環境と健康部会

数理と自然部会

科学技術と生産部会

共通主題科目

地域と文明部会

(部会への登録等)

第8条 本学の専任の教授、准教授及び講師は、前条第2項に掲げる部会のいずれかに登録し、佐賀大学教養教育運営機構協議会の定めるところにより、教養教育科目を担当するものとする。

2 本学の専任の助教は、前項の規定に準じて部会に登録し、及び教養教育科目を担当することができる。

(任務)

第9条 部会は、次に掲げる任務を行う。

- (1) 授業計画（授業科目の設定、時間割の編成、教室配当及び授業クラスの編成等を含む。）の策定に関すること。
- (2) 教養教育科目を担当する教員に関すること。
- (3) 教養教育科目を担当する非常勤講師の任用計画の策定に関すること。
- (4) 教養教育の実施のための経費に関すること。
- (5) 教養教育カリキュラムの調整に関すること。
- (6) 教養教育科目に係る試験等に関すること。
- (7) 部会の大学評価に関すること。
- (8) その他教養教育の実施に関し必要なこと。

(部会長及び幹事)

第10条 部会に、部会長及び幹事若干人を置く。

2 部会長及び幹事は、当該部会に所属する教員の互選によって定める。

3 部会長は、部会の業務を整理し、幹事は、部会を円滑に運営するため、部会長を補佐する。

4 部会長及び幹事の任期は、2年とし、再任を妨げない。

5 部会長又は幹事に欠員が生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

(部会教員会議)

第11条 部会長は、必要に応じ、部会教員会議及び部会幹事会を開催するものとする。

2 部会教員会議及び部会幹事会については、別に定める。

(協議会)

第12条 運営機構に、その管理運営に関する重要な事項を審議するため、佐賀大学教養教育運営機構協議会(以下「協議会」という。)を置く。

(審議事項)

第13条 協議会は、次に掲げる事項を審議する。

- (1) 教養教育科目に係る教育課程の編成及び実施に関すること。
- (2) 部会の構成及び改編等に関すること。
- (3) 教養教育科目担当非常勤講師の任用に関すること。
- (4) 運営機構の予算及び決算に関すること。
- (5) 運営機構及び協議会に関する大学評価に関すること。
- (6) その他運営機構の管理運営に関すること。

(組織)

第14条 協議会は、次に掲げる委員をもって組織する。

- (1) 運営機構長
- (2) 副運営機構長
- (3) 各部長
- (4) 各部会の幹事から選出された教員 各3人
- (5) 全教育機構から選出された教員 1人

(議長)

第15条 協議会に議長を置き、運営機構長をもって充てる。

- 2 議長は、協議会を招集し、その議事を主宰する。
- 3 議長に事故あるときは、議長があらかじめ指名した副運営機構長がその職務を代行する。

(議事)

第16条 協議会は、委員の3分の2以上が出席しなければ、議事を開き、議決をすることができない。

- 2 協議会の議事は、出席した委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(運営委員会等)

第17条 協議会に、運営委員会その他必要な委員会を置くことができる。

- 2 協議会は、その定めるところにより、運営委員会の議決をもって、協議会の議決とすることができる。

(委員以外の者の出席)

第18条 協議会が必要と認めたときは、協議会委員以外の者の出席を求め、意見を聴くことができる。

(公開講座)

第19条 運営機構の主催する公開講座については、協議会の議を経て、これを行うものとする。

(事務)

第20条 運営機構の事務は、学務部教務課において処理する。

(雑則)

第21条 この規則に定めるもののほか、運営機構に関し、必要な事項については、協議会の議を経て、運営機構長が定める。

附 則

- 1 この規則は、平成16年4月1日から施行する。
- 2 この規則施行後、最初に任命される機構長及び副機構長の選考は、国立大学法人佐賀大学の初代部局長等の選考に関する規則（平成16年1月16日制定）に基づき選出された候補者を第6条の規定により選考されたものとみなし、学長が行うものとする。

附 則（平成16年5月21日改正）

この規則は、平成16年5月21日から施行する。

附 則（平成17年12月21日改正）

この規則は、平成17年12月21日から施行する。

附 則（平成18年3月16日改正）

この規則は、平成18年4月1日から施行する。

附 則（平成19年3月22日改正）

この規則は、平成19年4月1日から施行する。

附 則（平成20年11月21日改正）

- 1 この規則は、平成20年11月21日から施行する。
- 2 改正後の第8条第2項の規定により、本学の専任の助教が部会に登録し、及び教養教育科目を担当しようとする場合は、当分の間、当該助教の所属する学部等の長の推薦を要するものとする。

附 則（平成21年9月18日改正）

この規則は、平成21年9月18日から施行する。

附 則（平成22年11月24日改正）

この規則は、平成22年11月24日から施行する。

附 則（平成 年 月 日改正）

この規則は、平成24年4月1日から施行する。

佐賀大学教養教育科目履修規程

(平成16年4月1日制定)

(趣旨)

第1条 この規程は、佐賀大学学則（平成16年4月1日制定。以下「学則」という。）第17条第2項の規定に基づき、佐賀大学教養教育運営機構（以下「運営機構」という。）が開設する教養教育科目の履修等に関し、必要な事項を定めるものとする。

(教育課程の編成)

第2条 運営機構の教育課程は、次の教養教育科目をもって編成する。

大学入門科目

共通基礎教育科目

主題科目

2 共通基礎教育科目は、外国語科目、健康・スポーツ科目及び情報処理科目に区分する。

3 主題科目は、分野別主題科目及び共通主題科目に区分する。

4 外国人留学生のための授業科目等の特例は、別に定める。

(単位数)

第3条 前条の規定に基づき、各学部が定める学科又は課程の単位数は、別表のとおりとする。

(授業科目及び履修方法)

第4条 教養教育科目の授業科目、単位数及び履修方法は、佐賀大学教養教育科目履修細則（平成16年4月1日制定）の定めるところによる。

(履修手続)

第5条 学生は、履修しようとする授業科目について、所定の期間に定められた方法により手続きをしなければならない。ただし、学期の中途から開始される授業科目については、その都度手続をしなければならない。

(成績判定及び単位の授与)

第6条 授業科目を履修した場合には、成績判定の上、合格した者に対して所定の単位を与える。

2 成績判定は、平素の学修状況、出席状況、学修報告及び試験等によって行う。

3 成績は、秀・優・良・可・不可の評語をもって表わし、秀・優・良・可を合格とし、不可は不合格とする。

(試験)

第7条 試験は、各授業科目につき、学期ごとに行うことを原則とする。

2 追試験及び再試験については、別に定める。

(他の大学又は短期大学における授業科目の履修等)

第8条 教育上有益と認めるときは、他の大学又は短期大学における授業科目の履修、大学以外の教育施設等における学修及び入学前の他の大学又は短期大学における授業科目の履修により修得した単位について、所属学部の教授会の議を経て、認定する。

(科目等履修生)

第9条 科目等履修生に関する事項は、佐賀大学科目等履修生規程（平成16年4月1日制定）の定めるところによる。

(雑則)

第10条 この規程に定めるもののほか、この規程の実施に関し必要な事項は、運営機構協議会の議を経て、運営機構長が定める。

附 則

- 1 この規程は、平成17年4月1日から施行する。
- 2 平成17年3月31日において現に在学する者（以下この項において「在学者」という。）及び平成17年4月1日以降において在学者の属する年次に転入学、編入学又は再入学する者については、なお従前の例による。

附 則

- 1 この規程は、平成18年4月1日から施行する。
- 2 平成18年3月31日において現に在学する者（以下この項において「在学者」という。）及び平成18年4月1日以降において在学者の属する年次に転入学、編入学又は再入学する者については、なお従前の例による。

附 則

- 1 この規程は、平成19年4月1日から施行する。
- 2 平成19年3月31日において現に在学する者（以下この項において「在学者」という。）及び平成19年4月1日以降において在学者の属する年次に転入学、編入学又は再入学する者については、なお従前の例による。

附 則

- 1 この規程は、平成21年4月22日から実施し、平成21年4月1日から適用する。
- 2 平成21年3月31日において現に在学する者（以下この項において「在学者」という。）及び平成21年4月1日以降において在学者の属する年次に転入学、編入学又は再入学する者については、なお従前の例による。

附 則（平成23年2月23日改正）

- 1 この規程は、平成23年4月1日から施行する。
- 2 平成23年3月31日において現に在学する者（以下この項において「在学者」という。）及び平成23年4月1日以降において在学者の属する年次に転入学、編入学又は再入学する者については、なお従前の例による。

別表

学 部	学科・課程	教 養 教 育 科 目										
		大学 入 門 科 目	共 通 基 礎 教 育 科 目							主 題 科 目		計
			外国語科目			健康・ スポーツ科目		情報処理科目		分 野 別 主 題 科 目	共 通 主 題 科 目	
			英 語	英 語 M	独 語 中国語 朝鮮語	講 義 ・ 演 習	実 習	講 義	演 習 I			
文化教育 学 部	学校教育課程	2	4			2	2	2	1		20	33
	国際文化課程	2	4			2	2	2	1		20	33
	人間環境課程	2	4			2	2	2	1		20	33
	美術・工芸課程	2	4			2	2	2	1		20	33
経済学部	経済システム課程	2	4		4	2	2	2	1		24	41
	経営・法律課程	2	4		4	2	2	2	1		24	41
医 学 部	医学科	4		4	2			2	1		20	33
	看護学科	2		6	2			2			20	32
理工学部	数理科学科	2	4		4	2	2				24	38
	物理科学科	4	4		4	2	2				22	38
	知能情報システム学科	2	4		4	2	2	2	1		20	37
	機能物質化学科	2	4			2	2		1	1	22	34
	機械システム工学科	2	4		4	2	2		1	1	20	36
	電気電子工学科	2	4		4	2	2	2	1	1	20	38
	都市工学科	2	4		2	2	2	2	1		20	35
農 学 部	応用生物科学科	2	4		4	2	2	2	1		20	37
	生物環境科学科	2	4		4	2	2	2	1		20	37
	生命機能科学科	2	4		4	2	2	2	1		20	37

佐賀大学教養教育科目履修細則

(平成16年4月1日制定)

(趣旨)

第1条 この細則は、佐賀大学教養教育科目履修規程(平成16年4月1日制定。以下「履修規程」という。)

第4条の規定に基づき、教養教育科目の授業科目、単位数及び履修方法等に関し、必要な事項を定めるものとする。

(大学入門科目)

第2条 大学入門科目の授業科目、単位数及び履修時期については、学部の定めるところによる。

(共通基礎教育科目)

第3条 共通基礎教育科目の授業科目及び単位数は、別表Iのとおりとする。

(外国語科目)

第4条 外国語科目の授業科目及び単位数は、別表Iのとおりとする。

2 外国語科目は、2年次までの各年次に2単位を修得するものとする。

3 前各項の規定にかかわらず、学部又は学科若しくは課程(以下「学部等」という。)において履修すべき授業科目、修得すべき単位数及び各年次に修得できる単位数を指定することがある。

(健康・スポーツ科目)

第5条 健康・スポーツ科目は、1年次に講義又は演習のいずれか2単位及び実習2単位を修得するものとする。ただし、学部等によっては、履修を要しないことがある。

(情報処理科目)

第6条 情報処理科目は、講義2単位、演習I及び演習II各1単位を修得するものとする。

ただし、学部等においては、修得すべき単位数を指定することがある。

(主題科目)

第7条 主題科目は、次の分野をもって構成する。

分野別主題科目

- (1) 文化と芸術分野
- (2) 思想と歴史分野
- (3) 現代社会の構造分野
- (4) 人間環境と健康分野
- (5) 数理と自然分野
- (6) 科学技術と生産分野

共通主題科目

- (1) 地域と文明分野
- 2 各分野に、副主題及び副主題を構成するコア授業を置き、副主題とは別に個別授業を開設する。
- 3 分野ごと、あるいは複数の分野にわたる総合型授業を開設することがある。
- 4 学生は、履修規程別表に掲げる所定の主題科目の単位を、いずれかの学期に修得するものとする。
- 5 学生(医学部の学生を除く。)は、1年次後学期の始めに、分野別主題科目の一つの分野を選んで登録し、前項に規定する所定の単位のうち、登録した主題分野から、登録前に修得した単位を含め、少なくとも8単位を修得しなければならない。また、共通主題科目の単位は、2単位を限度として、登録した主題分野における単位に含めることができる。
- 6 登録の変更は、届出の上、2年次の各学期の始めに行うことができる。

7 3年次に転入学、編入学又は再入学した者については、主題分野の登録を必要としない。

第8条 主題科目の構成及び単位数は、別表Ⅱのとおりとする。

(授業科目等の特例)

第9条 第2条から前条までに定めるもののほか、外国人留学生のための授業科目として、日本語及び日本事情に関する科目を別表Ⅰ、別表Ⅲ及び別表Ⅳのとおり開設する。

(授業クラスの指定)

第10条 共通基礎教育科目については、授業クラスを指定することがある。

2 指定されたクラス以外のクラスで履修しようとする場合は、あらかじめ所定の指定外履修願を提出しなければならない。

(単位の授与)

第11条 各授業科目の単位は、学期ごとに与える。ただし、特に指定する授業科目の単位は、学年ごとに与える。

(追試験)

第12条 やむを得ない理由によって定期試験を受験できなかった授業科目について、追試験を行う。

(再試験)

第13条 不合格と判定された授業科目について、再試験を行うことがある。

(雑則)

第14条 この細則に定めるもののほか、教養教育科目の履修に関し必要な事項は、運営機構協議会の議を経て、運営機構長が定める。

附 則

1 この細則は、平成16年10月27日から施行する。

2 この細則は、平成17年4月1日から施行する。

3 平成17年3月31日において現に在学する者（以下この項において「在学者」という。）及び平成17年4月1日以降において在学者の属する年次に転入学、編入学又は再入学する者については、なお従前の例による。

附 則

1 この細則は、平成21年4月22日から実施し、平成21年4月1日から適用する。

2 平成21年3月31日において現に在学する者（以下この項において「在学者」という。）及び平成21年4月1日以降において在学者の属する年次に転入学、編入学又は再入学する者については、なお従前の例による。

附 則（平成21年12月24日改正）

1 この細則は、平成22年4月1日から施行する。

附 則（平成23年2月23日改正）

1 この細則は、平成23年4月1日から施行する。

2 平成23年3月31日において現に在学する者（以下この項において「在学者」という。）及び平成23年4月1日以降において在学者の属する年次に転入学、編入学又は再入学する者については、なお従前の例による。

附 則

1 この細則は、平成24年4月1日から施行する。

別表 I (第 3 条関係)

共通基礎教育科目の授業科目及び単位数

区 分	授 業 科 目	単 位 数	備 考
外 国 語 科 目	英 語	1	1 年次前・後学期各 1 単位、2 年次前・後学期各 1 単位、計 4 単位
	英 語 M	1	医学部医学科は、1 年次前・後学期各 2 単位、計 4 単位。 医学部看護学科は、1 年次前・後学期各 2 単位、2 年次前学期 2 単位、計 6 単位。
	ドイツ語 I a	1	a は前学期、b は後学期
	ドイツ語 I b	1	
	ドイツ語 II a	1	
	ドイツ語 II b	1	
	フランス語 I a	1	
	フランス語 I b	1	
	フランス語 II a	1	
	フランス語 II b	1	
	中国語 I a	1	
	中国語 I b	1	
	中国語 II a	1	
	中国語 II b	1	
	朝鮮語 I a	1	
朝鮮語 I b	1		
朝鮮語 II a	1		
朝鮮語 II b	1		
日本語 I	2	外国人留学生のための科目	
日本語 II	2		
健康・スポーツ科目	スポーツ科学講義	2	前学期・後学期各 1 単位
	スポーツ科学演習	2	
	健康科学講義	2	
	健康科学演習	2	
	スポーツ実習	1	
情 報 処 理 科 目	情報基礎概論	2	
	情報基礎演習 I	1	
	情報基礎演習 II	1	

備考 1 外国人留学生が外国語科目を履修する場合は、次に定めるところによる。

- (1) 母国語を選択しないこと。
- (2) 修得した日本語の単位は、外国語科目の単位に振り替えることができる。

備考 2 別に定める「海外語学研修プログラムにおける教養教育科目（外国語科目）の単位認定要項」に基づいて実施された海外語学研修で修得した単位は、履修規程別表（第 3 条関係）に掲げる外国語科目の単位数として含めることができる。

別表Ⅱ（第8条関係）

主題科目の構成及び単位数

分野別主題科目

分 野	副 主 題	授業の区分	単位数
1 文化と芸術分野	言語とコミュニケーション	コア授業	各2
	文学の世界	コア授業	各2
	芸術と創造	コア授業	各2
		個別授業	各2
		総合型授業	各2
2 思想と歴史分野	人間・社会と思想	コア授業	各2
	歴史と異文化理解	コア授業	各2
		個別授業	各2
		総合型授業	各2
3 現代社会の構造分野	現代の国際社会と環境	コア授業	各2
	現代の政治	コア授業	各2
	現代の経済	コア授業	各2
	現代の日本社会	コア授業	各2
		個別授業	各2
		総合型授業	各2
4 人間環境と健康分野	生活と健康	コア授業	各2
	心とからだ	コア授業	各2
	発達と環境	コア授業	各2
	子どもの発達と支援	コア授業	各2
		個別授業	各2
		総合型授業	各2
5 数理と自然分野	数理の世界	コア授業	各2
	物質の科学	コア授業	各2
	身のまわりの科学	コア授業	各2
	自然と生命	コア授業	各2
		個別授業	各2
		総合型授業	各2
6 科学技術と生産分野	技術の歴史	コア授業	各2
	資源とエネルギー	コア授業	各2
	ハイテクノロジーと生産	コア授業	各2
	生産と環境	コア授業	各2
		個別授業	各2
		総合型授業	各2

共通主題科目

分 野	副 主 題	授業の区分	単位数
1 地域と文明分野	地域とくらし	コア授業	各2
	佐賀の文化	コア授業	各2
		個別授業	各2
		総合型授業	各2

- 備考 1 コア授業、個別授業及び総合型授業の授業科目は、別に定める。
- 2 九州地区国立大学間合宿共同授業で修得した授業科目の単位は、本学における授業科目の履修により修得したものとみなし、履修規程別表（第3条関係）に掲げる主題科目の単位数として含めることができる。
- 3 主題科目の中の実験・実習科目については、毎週180分（2コマ）15週の授業で2単位又は毎週90分（1コマ）15週の授業で1単位として開講する。

別表Ⅲ（第9条関係）

外国人留学生のための授業科目及び単位数表

授 業 科 目	単 位
日本事情Ⅰ	2
日本事情Ⅱ	2
日本事情Ⅲ	2

- 備考 1 上記の授業科目について修得した単位は、履修規程別表（第3条関係）に掲げる主題科目の単位数として含めることができる。
- 2 上記の3科目6単位を修得したときは、この細則第7条第5項により登録した主題分野について修得すべき8単位のうちの6単位に振り替えることができる。ただし、残りの2単位は、登録した主題分野から修得しなければならない。

別表Ⅳ（第9条関係）

留学生プログラムのための授業科目及び単位数表

授業科目	単位数
日本語総合Ⅰ	6
日本語読解Ⅰ	1
日本語文法Ⅰ	1
日本語会話Ⅰ	1
日本語作文Ⅰ	1
日本語漢字・語彙Ⅰ	1
日本語総合Ⅱ	6
日本語読解Ⅱ	1
日本語文法Ⅱ	1
日本語会話Ⅱ	1
日本語作文Ⅱ	1
日本語漢字・語彙Ⅱ	1
日本語総合Ⅲ	6
日本語読解Ⅲ	1
日本語会話Ⅲ	1
日本語作文Ⅲ	1
日本語漢字・語彙Ⅲ	1
日本語読解Ⅳ	2
日本語会話Ⅳ	1
日本語聴解Ⅳ	1
日本語作文Ⅳ	1
日本語漢字・語彙Ⅳ	1
日本語読解Ⅴ	1
日本語発表Ⅴ	1
日本語聴解Ⅴ	1
日本語作文Ⅴ	1
日本語会話Ⅵ(A)	1
日本語会話Ⅵ(B)	1
日本語会話Ⅵ(C)	1
日本語発表Ⅵ	1
日本語読解Ⅵ(A)	1
日本語読解Ⅵ(B)	1
日本語作文Ⅵ	1
日本事情研修 1	2
日本事情研修 2	2

佐賀大学共通専門教育科目履修規程

(平成21年2月26日制定)

(趣旨)

第1条 この規程は、佐賀大学学則（平成16年4月1日制定。以下「学則」という。）第16条第6項及び佐賀大学教養教育運営機構規則（平成16年4月1日制定）第3条第2項の規定に基づき、佐賀大学教養教育運営機構（以下「運営機構」という。）が開設する学部間で共通する共通専門教育科目の履修等に関し、必要な事項を定める。

(共通専門教育科目の区分)

第2条 共通専門教育科目として、特定プログラム教育科目及び留学生プログラム教育科目の区分を設ける。

2 特定プログラム教育科目は、学則第17条の2第1項により編成される全学共通の教育プログラムにおいて開設する全学の学生を対象とする専門教育科目とする。

3 留学生プログラム教育科目は、短期留学プログラムにおいて開設する専門教育科目とする。

(単位の認定)

第3条 共通専門教育科目を卒業に必要な単位数に算入する単位数は、各学部の学科又は課程ごとに、別表のとおりとする。

(授業科目)

第4条 共通専門教育科目の授業科目及び単位数は、別に定める。

(準用規定)

第5条 共通専門教育科目の履修手続並びに成績判定及び単位の授与並びに試験については、佐賀大学教養教育科目履修規程（平成16年4月1日制定）の規定を準用する。

(科目等履修生)

第6条 科目等履修生に関する事項は、佐賀大学科目等履修生規程（平成16年4月1日制定）の定めるところによる。

(雑則)

第7条 この規程に定めるもののほか、この規程の実施に関し必要な事項は、運営機構協議会の議を経て、運営機構長が定める。

附 則

1 この規程は、平成21年4月1日から施行する。

2 平成21年3月31日において現に在学する者（以下「在学者」という。）及び在学者の属する年次に転入学、編入学又は再入学する者については、この規程を適用しない。

附 則（平成21年12月24日改正）

1 この規程は、平成22年4月1日から施行する。

2 平成22年3月31日において現に在学する者（以下「在学者」という。）及び在学者の属する年次に転入学、編入学又は再入学する者は、別表中の障がい者就労支援コーディネーター教育科目群に属する授業科目を履修することはできない。

附 則（平成23年2月23日改正）

1 この規程は、平成23年4月1日から施行する。

2 平成23年3月31日において現に在学する者（以下「在学者」という。）及び在学者の属する年次に転入学、編入学又は再入学する者は、別表中の環境キャリア教育科目群に属する授業科目を履修することはできない。

附 則

この規程は、平成24年4月1日から施行する。

別表（第3条関係）

卒業に必要な単位数に算入できる単位数の上限

学 部	学 科 ・ 課 程	共 通 専 門 教 育 科 目			短 期 留 学 プ ロ グ ラ ム	計
		特 定 プ ロ グ ラ ム 教 育 科 目				
		デ ジ タ ル 表 現 技 術 教 育 科 目 群	障 が い 者 就 労 支 援 コ ー デ ィ ネ ー タ ー 教 育 科 目 群	環 境 キ ャ リ ア 教 育 科 目 群		
文化教育学部	学校教育課程	文化教育学部履修細則に定める各課程・選修 ごとの自由選択科目の単位数の範囲内とする。				
	国際文化課程					
	人間環境課程					
	美術・工芸課程					
経済学部	経済システム課程	2				2
	経営・法律課程	2				2
医学部	医学科	2				2
	看護学科		2			2
理工学部	数理科学科					
	物理科学科	4				4
	知能情報システム学科					
	機能物質化学科					
	機械システム工学科					
	電気電子工学科					
	都市工学科	10				10
農学部	応用生物科学科	10				10
	生物環境科学科	10				10
	生命機能科学科	10				10

佐賀大学における全学共通の教育プログラムに関する規程

(平成21年2月26日制定)

(趣旨)

第1条 この規程は、佐賀大学学則（平成16年4月1日制定）第17条の2第2項の規定に基づき、佐賀大学（以下「本学」という。）における全学共通の教育プログラムによる教育課程に関し、必要な事項を定める。

(全学共通の教育プログラム)

第2条 本学に、全学共通の教育プログラム（以下「教育プログラム」という。）として、次の各号に掲げるプログラムを開設し、その目的は、当該各号に定めるとおりとする。

- (1) デジタル表現技術者養成プログラム 専門分野の知識・技術に加え、表現対象を深く理解し、デジタル表現の技術及び能力を身に付けた創造的人材を養成すること。
- (2) 障がい者就労支援コーディネーター養成プログラム 障がい者と就労先との間にあって、カウンセリング能力、コンサルティング能力及びコーディネート能力を有し、障がい者の潜在的な能力開発と人間的成長を目標として活動できる人材を養成すること。
- (3) 環境キャリア教育プログラム 高い環境スキル及び環境マインドを有し、環境に関する現実的課題に実践的に対応できる人材を養成すること。

(授業科目、単位数及び修了要件)

第3条 教育プログラムの授業科目、単位数及び修了要件は、別表のとおりとする。

(履修の手続)

第4条 教育プログラムを履修しようとする者は、所定の期日までに、履修願その他必要な書類を学長に提出しなければならない。

(履修の許可)

第5条 学長は、教育プログラムの履修を許可した者に履修許可証を交付するものとする。

(修了の認定)

第6条 教育プログラムの修了要件を満たした者は、所定の期日までに、修了認定申請書（別記様式1）を学長に提出しなければならない。

2 学長は、佐賀大学教養教育運営機構協議会の議を経て、教育プログラムの修了を認定する。

(修了証の授与)

第7条 学長は、教育プログラムの修了の認定を受けた者に、卒業時に修了証（別記様式2）を授与する。

(事務)

第8条 教育プログラムに関する事務は、学務部教務課が行う。

(雑則)

第9条 この規程に定めるもののほか、教育プログラムに関し必要な事項は、佐賀大学教養教育運営機構において別に定める。

附 則

1 この規程は、平成21年4月1日から施行する。

2 平成21年3月31日において現に在学する者（以下「在学者」という。）及び在学者の属する年次に転入

学、編入学又は再入学する者については、この規程を適用しない。

附 則（平成21年12月24日改正）

- 1 この規程は、平成22年4月1日から施行する。
- 2 平成22年3月31日において現に在学する者（以下「在学者」という。）及び在学者の属する年次に転入学、編入学又は再入学する者については、第2条第2号に規定する教育プログラムを履修することはできない。

附 則（平成23年3月23日改正）

- 1 この規程は、平成23年4月1日から施行する。
- 2 平成23年3月31日において現に在学する者（以下「在学者」という。）及び在学者の属する年次に転入学、編入学又は再入学する者については、第2条第3号に規定する教育プログラムを履修することはできない。

附 則

- 1 この規程は、平成24年4月1日から施行する。
- 2 平成24年3月31日において現に在学する者（以下「在学者」という。）及び平成24年4月1日以降において在学者の属する年次に転入学、編入学又は再入学する者については、なお従前の例による。

別表（第3条関係）

教育プログラム名	教育科目の区分	授 業 科 目	単位数	修了要件	対象者
デジタル表現 技術者養成プロ グラム	デジタル表現 技術教育科目群	Web表現	2	必修	全学部学科 (課程)の 学生
		デジタル表現Ⅰ	2		
		デジタル表現Ⅱ	2		
		デジタルメディア・アート	2		
		デジタルメディア・デザイン	2		
		アニメーション表現	2		
		コンピュータ・グラフィックス表現	2		
		デジタル表現修了研究	2		
	主題科目	情報メディアと倫理	2	選択 8単位以上 修得	
		芸術と表現（画像へのアプローチ －その背景と視点－）	2		
		デザインマーケティング	2		
		芸術と表現（デジタル表現技法）	2		
		身体表現入門	2		
		シナリオ入門	2		
		教育デジタル表現	2		
		プロデューサー原論	2		
		インストラクショナル・デザイン	2		
		芸術と表現（映画製作）	2		
		クリエイターのための著作権法概論	2		
		デザインインテグレーション	2		
デジタル表現特講	2				
プログラミング表現	2				
伝統工芸と匠	2				
障がい者就労支 援コーディネー ター養成プログ ラム	障がい者就労支 援コーディネー ター教育科目群	障がい特性と職業適性	2	必修	
		就労支援実践と社会的諸制度	2		
		医療的ケアを必要とする障がい者 の就労支援	2		
		職業適応促進と事例研究	2		
	主題科目	高齢者や障がい者への生活・就労支 援概論－医工福祉連携による展開－	2		
		障がい者就労支援の諸理論	2		
		各種支援におけるカウンセリング の基礎と応用	2		
		テクノエイド・コミュニケーション エイド概論	2		
環境キャリア 教育プログラム	環境キャリア 教育科目群	インターンシップ（環境）	2		
		学内活動実習Ⅰ	1		
		学内活動実習Ⅱ	1		
		学内活動実習Ⅲ	1		

教育プログラム名	教育科目の区分	授 業 科 目	単位数	修了要件	対象者	
環境キャリア 教育プログラム	環境キャリア 教育科目群	環境科学Ⅳ	2	必修	全学部学科 (課程)の 学生	
		実践型キャリアデザイン —チームワークの基礎—	2			
	主題科目	環境科学Ⅰ	2	必修		
		環境科学Ⅱ	2			
		環境科学Ⅲ	2			
		実践型キャリアデザインⅠ	2			
		環境原論	2			
		持続可能論	2			
		環境経営学	2			選択
		環境会計	2			
		環境保全概論Ⅰ	2	4単位以上 修得		
		環境保全概論Ⅱ	2			
		作業環境測定概論	2			
		衛生管理概論	2			
		資源循環論Ⅰ	2			
資源循環論Ⅱ	2					

修了認定申請書

平成 年 月 日

佐賀大学長

○ ○ ○ ○ 様

所属学部

所属学科・課程

学籍番号

氏 名

佐賀大学における全学共通の教育プログラムに関する規程第6条第1項により、下記教育プログラムの修了認定を申請します。

記

教育プログラム名 ○○○○○プログラム

修 了 証

氏 名

生年月日

本学における全学共通の教育プログラム「○○○○○プログラム」を修了したことを証する。

平成 年 月 日

佐賀大学長 ○ ○ ○ ○ (印)

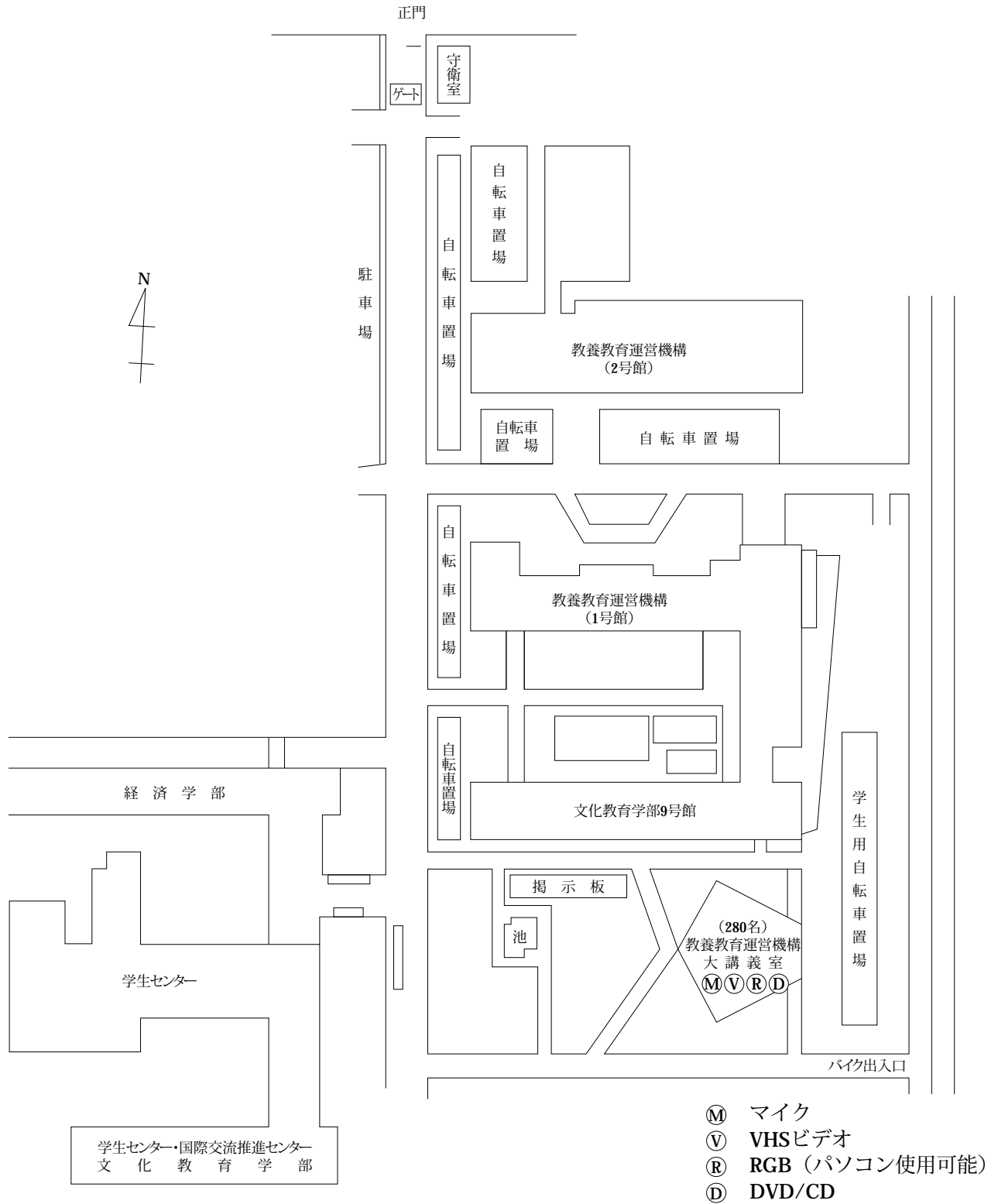
教養教育運営機構配置図

教養教育運営機構配置図

●教養教育運営機構・文化教育学部・経済学部 建物配置図



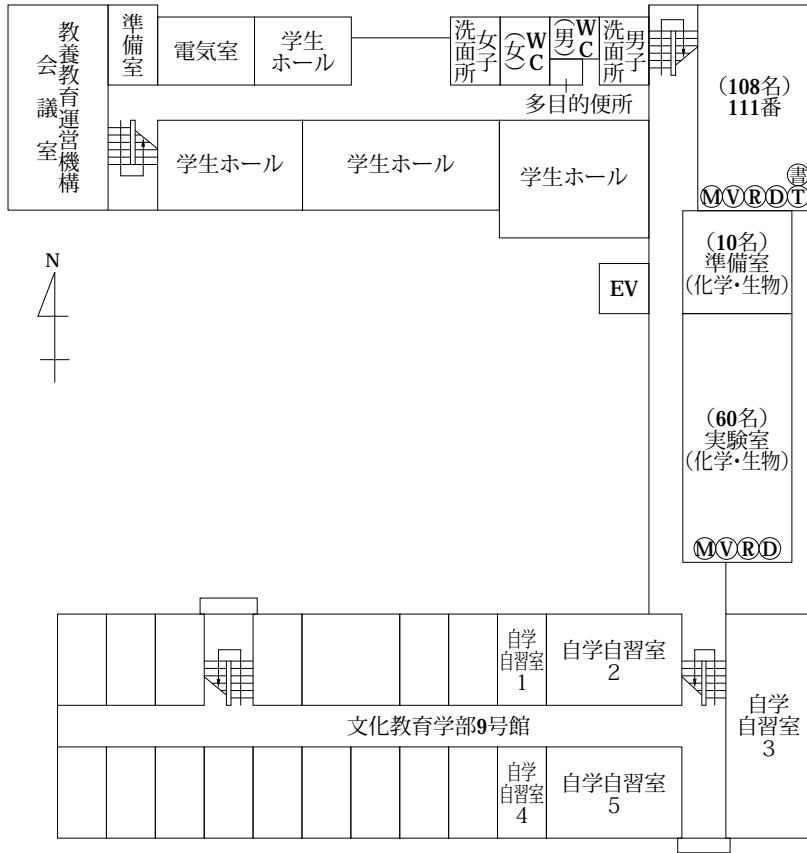
教養教育運営機構建物等配置図



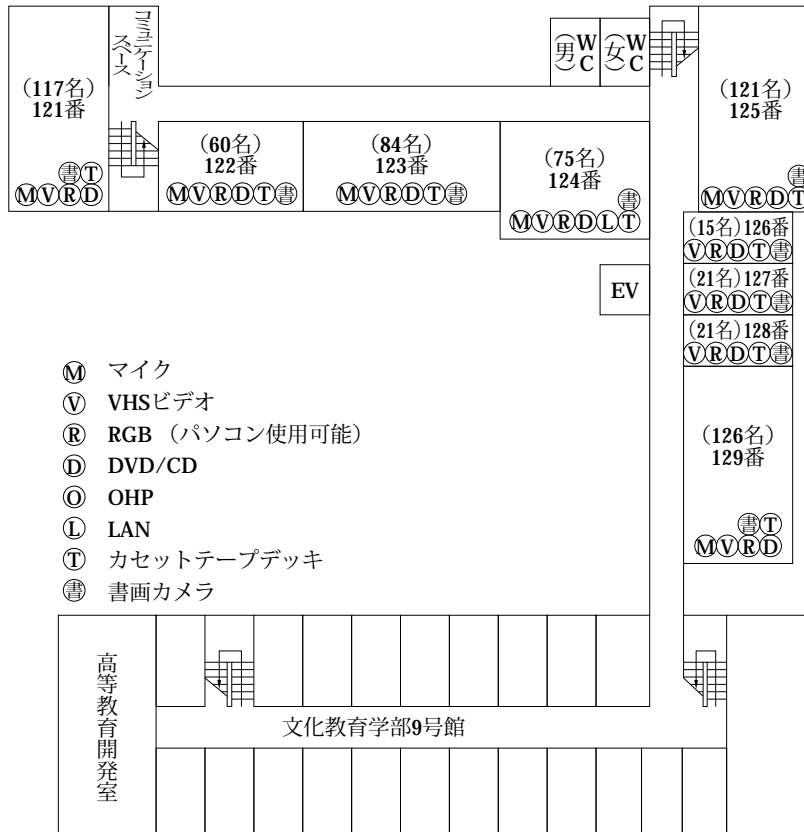
教養教育運営機構教室配置図

1号館（文化教育学部9号館）

1階

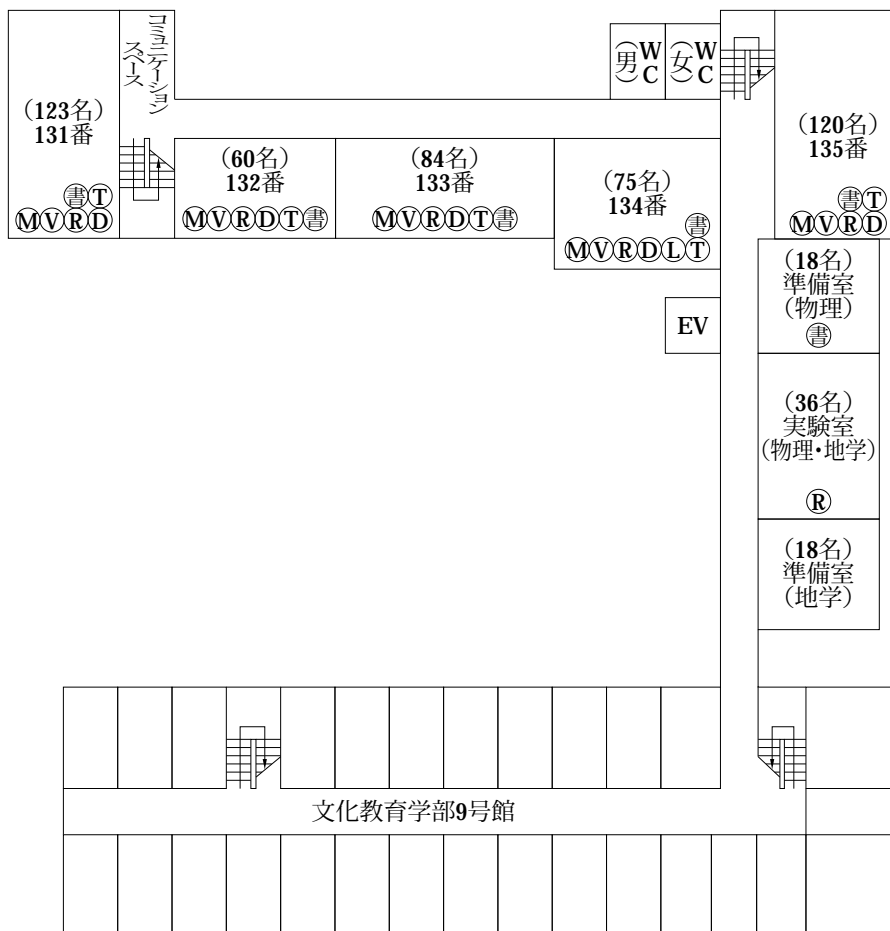


2階

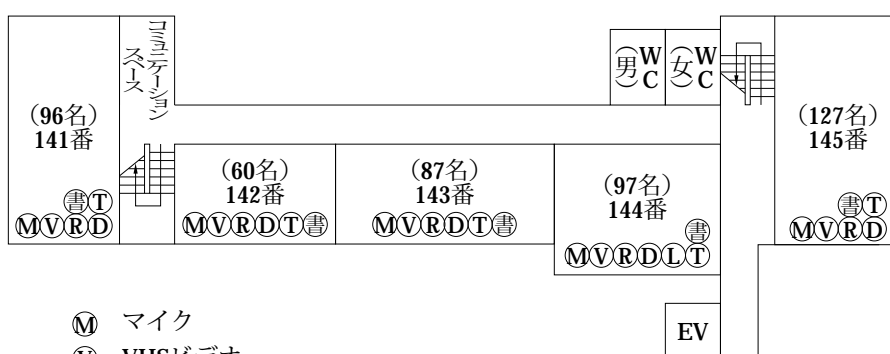


1号館 (文化教育学部9号館)

3階



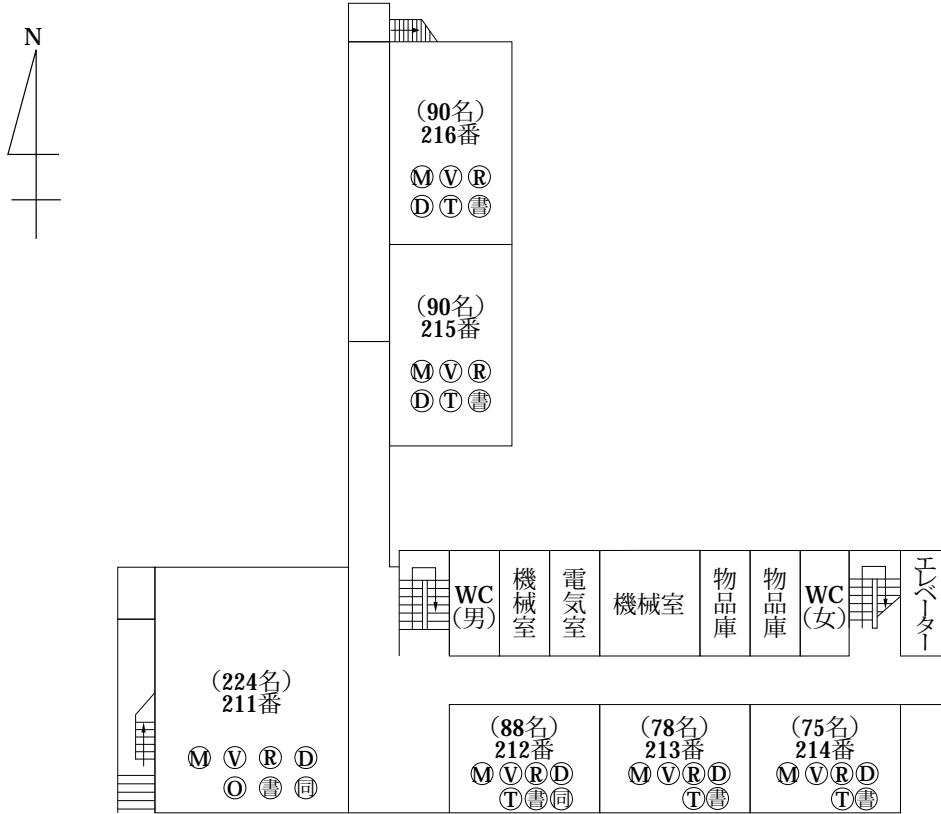
4階



- Ⓜ マイク
- Ⓥ VHSビデオ
- Ⓡ RGB (パソコン使用可能)
- ⓓ DVD/CD
- Ⓞ OHP
- Ⓛ LAN
- Ⓣ カセットテープデッキ
- 書 書画カメラ

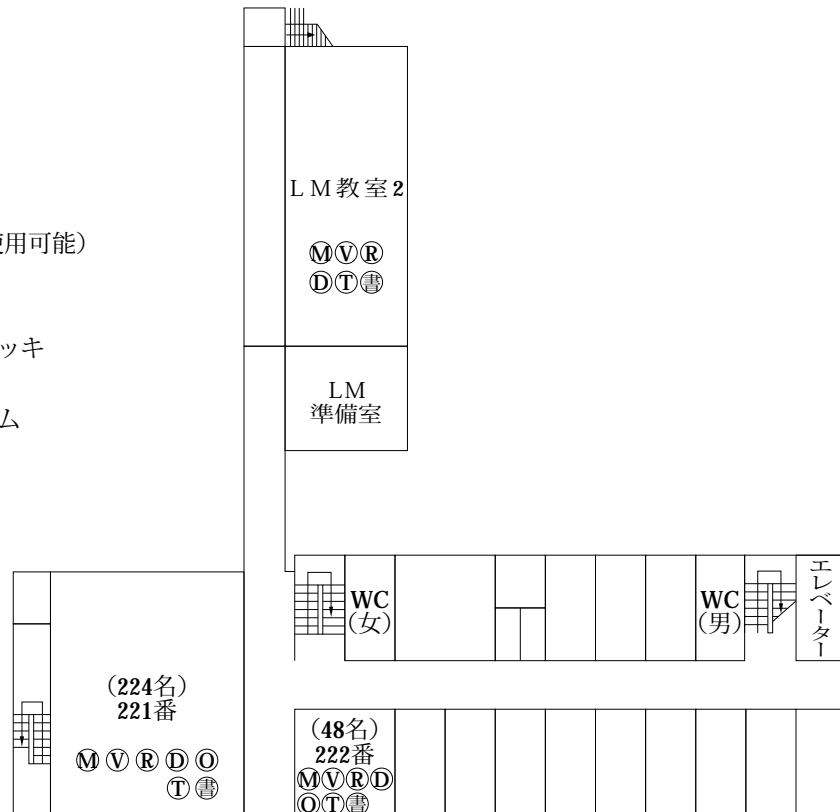
2号館

1階



2階

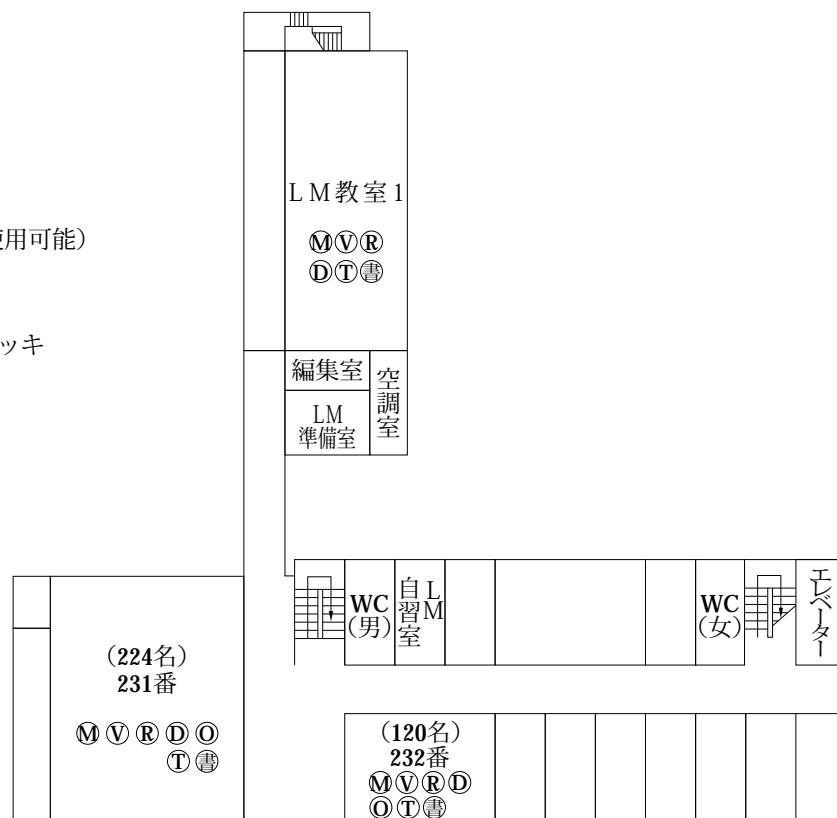
- Ⓜ マイク
- Ⓥ VHSビデオ
- Ⓡ RGB (パソコン使用可能)
- ⓓ DVD/CD
- Ⓞ OHP
- Ⓣ カセットテープデッキ
- Ⓢ 書画カメラ
- Ⓣ 同期型遠隔システム



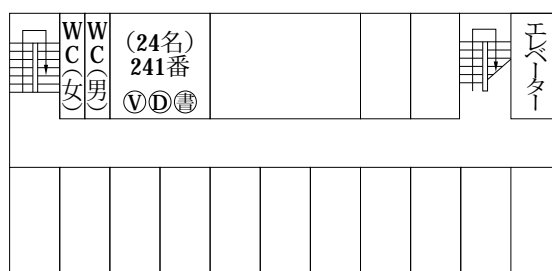
2号館

3階

- Ⓜ マイク
- Ⓥ VHSビデオ
- Ⓡ RGB (パソコン使用可能)
- ⓓ DVD/CD
- Ⓞ OHP
- Ⓣ カセットテープデッキ
- Ⓢ 書画カメラ



4階



教養教育運営機構 履修の手引き

平成24年4月

編集発行 佐賀大学教養教育運営機構

佐賀市本庄町1番地

T E L 0952 (28) 8817

印刷 (株)昭和堂 佐賀営業所

佐賀市高木瀬西3丁目9-1

T E L 0952 (33) 1221
